

東日本大震災 被災地支援チーム

SAVE IWATE

- 設立：2011年3月23日
- 代表：寺井良夫
- 連絡先：〒020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町 9-36
電話：019-604-7622
fax：019-604-7633
e-mail：sviwate@gmail.com
- ウェブサイト：<http://sviwate.wordpress.com/>

必要としている人に、
必要な物(こと)を、届けます。



■店舗形式で支援物資を提供(一部 盛岡市委託事業)

5月以降、盛岡市鮎屋町事務所で、9月からはもりおか復興支援センター2階で、店舗形式による支援物資の提供を行っています。2011年9月中は、1043件、約15,000品を提供しました。

■被災地に支援物資を提供

支援の届きにくい被災者や被災地で活動する団体などに物資を提供しています。

■被災者生活相談支援

(もりおか復興支援センター 盛岡市委託事業)

被災地の現状を把握し、盛岡などに避難している被災者への生活相談事業を行っています。また、沿岸各市町村からの情報提供や、各種手続きなどのサポートを行っています。

■被災地のコミュニティ再生支援

「世代間交流ふれあいフェスタ by 復興食堂」(岩手県委託事業)などで、高齢者の孤立化や引きこもり防止のため、地域クラブ活動やイベントへのお誘い活動を行っています。

■文化・交流活動

被災地から県内の文化施設やレクリエーション施設に被災者を招待する活動を行っています。また、もりおか復興支援センターでは出身地別お茶会や囲碁・将棋クラブなどを開催しています。(盛岡市委託事業)

■学習支援

岩手大学などの学生による、中高生を対象にした学習支援を行っています。現在は毎週土曜日、主に山田高校の生徒を対象とした勉強会を、現地で実施しています。

■起業・雇用・仕事づくり

「復興ぞうきんプロジェクト」「三陸の和グルミプロジェクト」などの事業により、被災者へ内職、手仕事を提供しています。これらのプロジェクトは、被災者が単に手間賃を得るだけでなく、仕事を通じた仲間作りと「やりがい」「いきがい」に繋がるものです。

■ボランティアの募集とマッチング

設立以来、支援物資の仕分けや接客、配送、イベントなどのボランティアを広く募集し、それぞれの希望や被災地のニーズに沿ったマッチングを行っています。全国各地、海外からのボランティアのほか、最近では被災者自らがボランティアとして活躍するケースも増えています。

■被災地支援団体との連携

既存の地元NPOの他、震災後に立ち上がった多くの被災地支援団体と情報交換をし、支援の連携を行っています。

■イベントの企画と実施

岩手県の内外で行われる被災地支援イベントの企画や出展・参加を行っています。特に県外では、岩手の県産品の販売や募金活動を通じ、震災の風化を食い止めるための広報活動を行っています。

■復興支援グッズの販売 問合せ 080-5735-6940

支援活動の資金を確保するために、SAVE IWATE オリジナルグッズを企画・販売しています。現在、被災地の芸能をテーマとした「三陸復興カレンダー」、支援をいただいている有名漫画家チームによるオリジナルTシャツ・手ぬぐい・ハンカチを販売しています。



■全国に情報発信 ウェブサイト

被災地の現状や活動状況を、ウェブサイトを通じて全国と世界に発信しています。また被災者へは、被災地で行われる各種イベントや物資などの情報を提供。ボランティア登録者はメーリングリストによって、さまざまな情報を共有し、活動に繋がっています。

●活動支援金の募集

問合せ：080-5735-7555

SAVE IWATE の活動を継続するために活動支援金を募集しています。支援金は、被災者への救援支援物資購入・輸送費、被災者の生活支援、復興支援、ボランティア活動の諸経費などに使われます。お振込先は下記です。

<ゆうちょ銀行>

02210-3-109936 加入者名：SAVE IWATE (セーブイワテ)

他行からのお振り込み 229 / 当座 / 0109936

<銀行>

岩手銀行 中ノ橋支店 / 普通預金 / 2042867

SAVE IWATE 代表 寺井良夫

●支援物資の募集

問合せ：019-604-7622

個人、企業、団体のみなさまからの支援物資のご提供を、無休で受け付けております。受け付けている物資は常に変わっていきますので、ウェブサイト掲載内容をご参照下さい。

●ボランティアの募集

問合せ：080-5735-7555

随時ボランティアを受け付けています。個人でも団体でも、半日や1日からでも構いません。

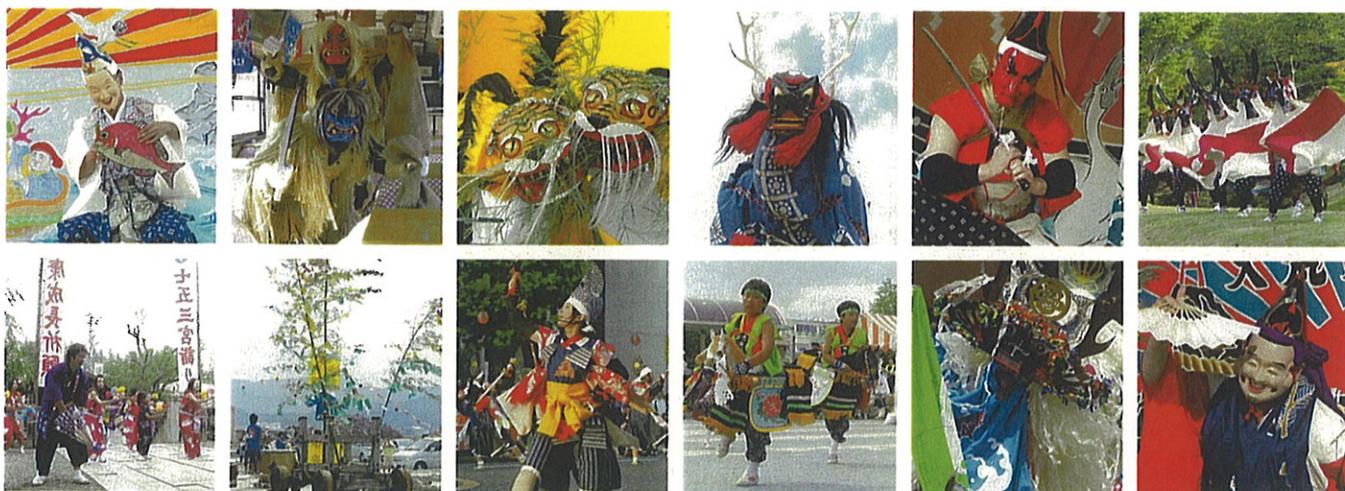
※遠方からの方や宿泊を希望される方はご相談ください。有料の宿泊所、無料の長期滞在所をご紹介します。

鎮魂と祈りの民俗芸能

人々は幾たびも災いを乗り越えてきました ふるさとの心をつなぐまつりとともに

三陸復興カレンダー

〈岩手県三陸沿岸〉祭り・民俗芸能等催事予定情報



〈一部〉1,000円(税込み)

収益は被災地支援の活動費にあてられます。

岩手県は郷土芸能の宝庫といわれ、沿岸部には約250団体の郷土芸能が伝承されています。この地に暮らす人々は信仰心に厚く、自然界に宿る神々を敬い、信仰としての民俗芸能を大切に伝えてきました。その芸能は四季折々に、先祖を供養し、災厄防除や悪魔退散、無病息災を祈り、五穀豊穡と大漁を祈願してきました。

この度の震災により、多くの芸能団体が尊い命と共に道具や衣装を失いましたが、御魂の供養をと、お盆の頃からわずかに残った道具を持ち寄り活動を再開している団体が多くありました。仮設から通って太鼓を叩き始める人、泥に埋もれた山車や道具を洗い清める人、それはまさに鎮魂と祈りの姿でした。

三陸沿岸の人々はいま、震災を乗り越えるために歩み始めています。カレンダーを見る時、三陸復興に思いを寄せていただけましたら幸いです。

〈ご注文方法〉

FAX.019-654-3524 または sviwate2012@gmail.com に

郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、希望する冊数をお知らせ下さい。

5冊以内のご注文の方には振替用紙とともにメール便でお送りします。

6冊以上の方には送付方法について折り返しご連絡いたします。

問い合わせ

TEL.080-5735-6940

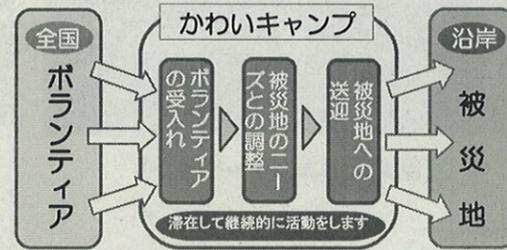
元岩 気季 広げよう 支援の輪 かわいキャンプ

「盛岡市かわいキャンプ」は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した沿岸被災地へボランティアに行かれる方を長期的に支援するため、盛岡市が宮古市川井地区に設置した施設で、盛岡市社会福祉協議会が専門スタッフをおいて運営しています。



【かわいキャンプ外観】

- 機能・設備** ●被災地のボランティアニーズとのマッチング
- 寝泊りができるスペースの提供(約120名)
 - 簡易シャワー、洗濯機、調理室、暖房
 - 沿岸被災地までの送迎車両の運行
 - 駐車場 約60台完備



ボランティア活動の一日のながれ

6時	起床
8時	オリエンテーション 現地出発
10～15時	被災地支援活動
15時半頃	活動終了
17時頃	キャンプに到着後、 フリータイム
22時	消灯



【活動風景】

- 主な活動内容** ●瓦礫撤去、家屋内や庭等の清掃、写真洗い、仮設住宅集会所でのサロン活動の補助など。



- 利用対象者**
- ◆沿岸被災地で活動を希望する個人、または団体のボランティアで高校生以上の方。
 - ◆高校生は、親権者の同意が必要です。

- ◆かわいキャンプのマッチング以外の活動で宿泊される場合、ボランティア活動をしたこと(したこと)がわかる書類等の提出をお願いする場合があります。
- ◆かわいキャンプは、日帰り活動でも利用できますので、ご相談ください。



【朝のオリエンテーション】



申込み

- ◆場所：岩手県宮古市川井1-60-3
- ◆利用料：無料
- ◆申込先：盛岡市かわいキャンプ



☎0193-76-2005/fax 0193-76-2231
(午前9時～午後6時受付)

E-mail: kawai-camp@echna.ne.jp

URL: <http://www.morioka-shakyo.or.jp/>



アクセス

【自動車】盛岡～川井 (約60km 約1時間10分)

【バス】盛岡～上川井(岩手県北バス 上川井停留所 約1時間30分)

【鉄道】盛岡駅～陸中川井駅(JR山田線 約1時間30分) ※駅から徒歩30分



交流

ボランティア活動を終えて帰ってきたあとのフリータイム。全国から集まったボランティア同士の交流もかわいキャンプの魅力のひとつです。ここに来なければ会うことのない仲間たちが、一期一会の出会いの中で、緩やかで、でも確かな絆を結んでいます。



【フリータイムの食堂】

かわいキャンプには心優しく、ステキな面白い方たちが集まってくるようです。

自由ノート
『ヨミガエル日記』より

かわいキャンプで出会い、短い間一緒に生活できたことはとてもいい経験になりました。一生忘れません。



キャンプは人が温かくて居心地が最高でした！ここで出会えた一人ひとりに感謝！！



ゆいっこは民間有志による復興支援組織です。被災住民を受け入れる内陸部の後方支援グループとして、
 救援物資やボランティアの受け入れ、身の回りのお世話、被災地との連絡調整、
 傾聴など精神面のケアなど行政を補完する役割を担っていきたくと考えています。
 設立当初は北上を本部とし、「支部制」としておりましたが、各拠点が独立して事業を行う体制に変更しました。
 これまでの連携は「ネットワーク」という形で残し、今後も「ゆいっこネットワーク」として活動していきます。

ゆいっこネットワーク

事務局	所在	代表	TEL	FAX
いわてゆいっこ北上	〒024-0033 岩手県北上市幸町1-30 北上市勤労青少年ホーム内	司東道雄	0197-63-5812	0197-63-5812
いわてゆいっこ花巻	〒025-0073 岩手県花巻市一日市4-21	高橋寛	0198-22-4748	0198-22-4748
いわてゆいっこ盛岡	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮5-10-20-120号棟	藤原 慧矢 (岩手大学院生)	090-4476-7083	
いわてゆいっこ栗石	〒020-0523 岩手県岩手郡栗石町根堀210-2 こかげ英会話	ハクセル美穂子	019-692-3436	019-601-4650
いわてゆいっこ西和賀	〒029-5514 岩手県和賀郡西和賀町湯川52-77-6 有限会社 武田工務店内	武田勝憲	0197-82-3041	0197-82-3044
いわてゆいっこ横浜	〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町43-1 キクヤビル3階	さかい学	045-863-0900	045-865-6700
いわてゆいっこ岩見沢			0126-23-3993	
いわてゆいっこ大槌	〒028-1105 岩手県上閉伊郡大槌町安渡2-1-10	川端理香		

twitter.....[iwate_yuicco](https://twitter.com/iwate_yuicco)

Blog.....<http://yuicco.com>

ゆいっこ

結(ゆい)とは、主に小さな集落や自治単位における共同作業の制度である。一人で行うには多大な費用と期間、そして労力が必要な作業を、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神で成り立っている。
 岩手県の方言では名詞の後に「こ」をつけることがある。 ex. お茶っこ・お湯っこ・歌っこ・灯りっこなど



私たちは **いわてゆいっこ盛岡** です。

いわてゆいっこ盛岡 事務局 / 〒020-0866 岩手県盛岡市本宮5-10-20-120号棟
 TEL:090-4476-7083
 MAIL:morioka@yuicco.com
 代表 / 藤原 慧矢(岩手大学院生)

「いわてゆいっこ」は岩手県内外の「ゆいっこネットワーク」で被災地復興支援を行い、「いわてゆいっこ盛岡」では主に宮古市の支援を担当しています。今までの主な活動内容は、清掃活動、無料バザーやワークショップのコーディネートです。特に清掃活動においては、第4日曜日を除く毎週日曜日に定期的に行うことで、現地の方とのコミュニケーションも深めたいと思っています。

今までの活動内容

- 支援物資の輸送 ● 避難所間仕切り設置 ● 宮古市内の清掃活動 ● 日用品・喪服等の無料バザー
- 関東からのボランティアバスツアー企画 ● 宮古市田老地区の「夢灯り」・「仮設住宅のベンチ」作りの手伝い 等

今後の活動予定

- 宮古市沿岸部の清掃活動を被災者のニーズに応じて引き続き行う。
- 仮設住宅の入居者への支援については、被災者同士を結ぶコミュニティ作り、孤立しないための活動を行う。
- ワークショップの開催、夏休みを利用した県外ボランティアの受け入れを行う。
- その他、被災者の雇用を生み出す仕組み作り(キャッシュ・フォー・ワーク等)にも取り組みたい。

仮設住宅集会所のカフェボランティア+葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修 (10/15~16)

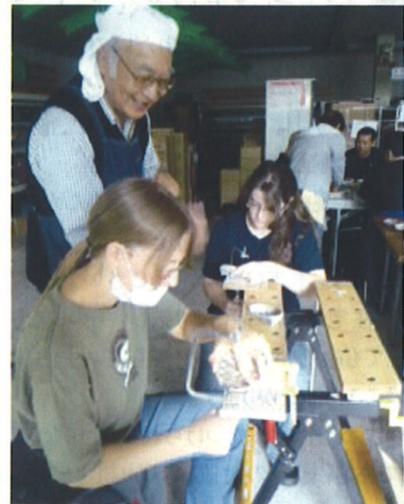
10月15日(土)、宮古市内にて2チームに分けてボランティア活動、そして葛巻「森と風のがっこう」での宿泊研修をしてきました。東京から4名の有志を加え、1泊2日のゆいっこ盛岡のボランティアツアーです。宮古での活動内容は、「貝磨き」そして「仮設住宅集会所でのカフェボランティア」です。

まず「貝磨きボランティア」とは、宮古市の復興プロジェクト「かけあしの会」の方々が手掛けるプロジェクトです。アワビの貝殻を使ったネックレスや携帯ストラップ等を作るお手伝い。その名も「虹の祈り」プロジェクト。(※「かけあしの会」…被災者の皆様



▲同じ貝なのに様々な表情をみせてくれます。一つ一つ風合いが違うのが個性となり、本当にステキです

のために、スピードを上げて行動し「目となり、耳となり、口となり、共に動き考える」愛のある経済活動を進めるグループです。)と、アワビの貝の裏側って見たことありますか?パールホワイトをベースに緑、茶色、ピンクっぽい部分があり、確かに「虹」の様な色なんです。私達はその工程の中で、貝の表面を3種類の紙やすりと、その他のアイテムで削り、滑らかに表面を整える作業を行いました。この日は、秋田から外国人の英語の先生達も4名参加。はじめ、地元の皆さんは「英語が話せない!」とちょっと焦った



▲手前のお2人は和弓とアーチェリーの経験者との事。話がとても盛り上がっていました

様ですが、皆さん流暢な日本語を話せる方々でした。私も含め、8割日本語でワイワイ作業を進めて行きました。また、東京からの参加者の方が英語が非常に堪能で、通訳をして下さり、本当に助かりました。また、地元の漁師さんは、機会を巧みに操り、黙々と作業をされていました。「かけあしの会」の皆さま、本当にありがとうございました。

さて、「かけあしの会」さんでは、その他色々な復興ギフトを作っています。そしてこのたび、11/6の「もりあげ↑マーケット@盛岡肴町アーケード内」にて、こちらの商品を購入するチャンスができました。同時に、貝磨きボランティアも体験することができますので、ぜひいらしてください。

そして別チームは、宮古市西が丘と近内の仮設住宅の談話室にお邪魔しました。それぞれの談話室には、ボランティアセンターの職員の方が1名ずつ当番で入られていて、普段は住民の方々の様々な対応をされている、との事。職員は地元の方でしたが、宮古市内に10数か所ある談話

室を毎日サポートする労力のせい、ボランティアセンター内でも連絡のやり取りがスムーズにいったいない部分もあるようでした。日々のご対応、本当にお疲れ様です。

西が丘の仮設住宅は、近くにスーパーがあったり、子どもが遊べる広場があったりと、環境としては他の仮設住宅よりは若干過ごし易い雰囲気ではありました。職員の方に1件ずつ声をかけて頂き、午前中は、集まって頂いた方々と現在の生活や震災のお話をしました。談話室の外でご年配の女性の方が、犬2匹と日向ぼっこをしており、談笑していたのですが、震災直後、避難所に入った際、犬を避難所の入口に入れさせてもらい、3月の冷え込む寒さの中、一緒に入口で寝た時もあったそうです。何気ない会話をしているこの時間が、平和で穏やかな空間であることを実感しました。宮古の仮設住宅には、約半数に談話室や、自治会が設置



してありますが、目の届きにくい方々への支援を続けていきたいと考えております。

▲白い元気な犬と丸々太ったつづらな瞳の老犬でした

その後、近内の仮設住宅へと移動。こちらはお年寄りではなく、3人の子供が談話室にいました。お話を伺ったところ、普段から決まった子ども達が数名利用するのみ、ということで同じ談話室でも使用のされ方、使用する年代がそれぞれ違うことを知りました。私がこの談話室に入るやいなや男の子が近寄ってきて、瞬時に談話室はプロレスリングと化してしまいました。内陸の子どもに比べ、元々活発な子どもが多く、更に、生活などの環境変化により、ストレスが溜まっている部分もある様です。

老若男女問わない方々が利用することが考えられる談話室。そこに立ち入るボランティアも、様々な事を想定して対話の技術を高める必要を感じます。これから10年以上宮古市とお付き合いしていくであろう、いわてゆいっこ盛岡。今後の支援活動の在り方と方向性を考える上で、非常に貴重な経験をさせて頂きました。



▶ 同じ談話室でも、使用のされ方、使用される年代も様々…。私達ができることを考えるきっかけになりました

宮古での活動後、葛巻町の「森と風のがっこう」へ移動。携帯が繋がらない、別世界への入口となる長いトンネルをくぐるのは今回で2回目。その日の夕食は、「地域資源プロデューサーのイッシー」が作ったパン格拉ディシュカレーと、「森と風のがっこう」スタッフが作って下さったタイのグリーンカレーを、「右手で」頂きました。よくテレビで、指で食べ物を食べる映像を見たりしますが、指のみというのは全くの初体験でした。思ったよ



▲指だけで食べたカレー。指から伝わる美味しさいっぱい、心から「頂きます」と思えたひとときです

り、ご飯が熱い!!そして、慣れるまでちょっと食べづらかったけど、手で食べることから感じる美味しさがありました。指から伝わる食べ物の温度、質感、柔らかさ。普段は口に運んだ後の感覚しかありませんが、これに指からの感覚が加わり、食べ物を、より「食べ物」として感じることが出来ました。食事の後は、談笑チームとお風呂チームに分かれました。空き缶を敷き詰めながら作った風呂釜は、とても保温性が良く温まります。

そして迎えた朝、裏山の散歩にでかけました。裏山には子供達がここで過ごした証が数々残されており、進化し続ける「森と風のがっこう」を感じました。その後、薪割り味噌汁チーム、掃除と犬の散歩チーム、朝食準備チーム、それぞれが朝の仕事をしました。この仕事は序の口ですが、自然エネルギーを中心としたスローライフ。実はとても忙しく、やる事がいっぱいあります。朝食は、釜で炊いた粒の立ったご飯、具の入れ過ぎた味噌汁、ほうれん草のごまめし、そしてここで飼っている鶏の採れたて卵。「頂きます」に、感謝の意を込めて食事をする事は、普段ありませんね。朝食後はカフェでおいしいコーヒーを飲みながらゆっくりとした一時を過ごしました。

そして校舎に戻り、吉成さんのお話を伺いました。今回、普段自然エネルギーに興味を持ちながら勉強をしている方々が集まりましたが、その考えの延長線上、そこに吉成さんがいらした気がします。線と線が繋がった自分の考えと「森と風のがっこう」の体験。東京から来ているメンバーの中でも、その「出会い」に感動を覚えている方もいらした様です。



▲参加者の方々も自然エネルギーに興味をもたれていたため、吉成さんのお話はとても有意義な時間となりました

お休は、自分達で捏ねて伸ばした生地を釜で焼いた自家製ピザ。伸ばして、トッピングをのせて、焼くだけです。釜で焼く楽しさは、やってみると本当に面白く、そして焼きあがったピザは、人生最高のピザでした。



▼生地から捏ねて焼いた自家製ピザは、釜で焼くことでさらに美味しさが増し、最高の出来でした

後にしました。帰る途中、急遽予定になかった葛巻町の風車見学の為に、バスで山を登りました。強い風に吹かれて30mもある羽を回し続ける迫力ある風車は、圧巻の一言でした。大きな枠組みの中でのマクロの自然エネルギー、そして実生活まで落とし込んだスローライフの自然エネルギー。古代ギリシャの哲学者は言いました。「哲学とは実践である」。今回のツアーで深めた自然エネルギーへの更なる理解。これを実生活に落とし込んで初めて、「森と風のがっこうに行ってきた」と言える様な気がします。次回また、志を同じくする方々と、感動を共有したいと思います。

ここで、体験後に頂いた感想をお寄せ頂きましたので、ご紹介したいと思います。

★阪神大震災で3ヶ月ほど現地でNGOを立上げ運営した経験がありますが、当時と比べると今回の東日本大震災は、被害が広範囲に渡り、復興の速度にも地域格差ばらつきがあり、あわせて放射能汚染という問題もあり、長期間復興に要すると感じました。ただ共通しているのは、被災者の方々の自立、メンタルケアといった地元中心に長期的に関わるプログラムと、今回のような貝磨きや修繕などの作業でスポット的に対応できるプログラムに分けた方がよいと思います。ボランティアに関わる人には時間、経済、物理的な制約にあわせて、それに参加する動機も様々だからです。

★ボランティアの役割も次のステージに入っていて、今回のツアーは支援する側、支援される側という立場ではなく、一緒に何かを創ろうとする試みでした。実際に被災された方々からお話を伺い、どのような社会を作っていくか、大きく言うと日本の在り方を捉えなおす機会となり、長く広い視点で考えていく必要性を感じました。ゆいっこの普通の人たちが、楽しみながら、でも実は皆熱い気持ちを持って活動しているのは、長くやっていく大事なポイントと感じました。

★今求められている自然エネルギーへのスムーズな転換という方向性にツアー企画が合っていたので興味深かった。いかに効率のよい省エネ製品を創り出し、いかに自然エネルギーの安定供給を創り出すか、このバランスが成り立ってこそ原発依存から脱却するきっかけになるのでは。

★個性豊かなゆいっこスタッフとの交流が楽しく、サークルのような雰囲気でした。岩手の人々の様々な想いと人柄、自然に触れ、同時に復興に向けての課題を考えさせられた2日間になりました。

東京からツアーに参加して下さった、温井さん、坂本さん、鹿野さん、及川さん、ありがとうございました。



▶参加者全員でバチリ。この中は小さな教室のようになっています

あねさんショップ

以前から募集しておりました「着物ハギレ」。ついに、宮古市でハギレを取りまとめている方より小物のショップ開店のお知らせが来ました。「今回の被害に対し全国から支援を頂いて感謝しております。でも、いずれは自立したいと願う今度の着物生地での小物作りと販売を始めました。10月1、2日の宮古市産業祭りでの販売が始まりです。」

お店の名前は「あねさんショップ」。『あねさん』とは宮古弁で女性の事です。因みに年配の方は、昔のあねさんと呼ばれます(笑)」

ということで、10月1日(土)～2日(日)に開催された「第17回宮古市産業まつり」に、あねさんショップ販売ブースの手伝いに行ってきました。

会場は宮古市民総合体育館。船の形をしたマリコープDORAの隣です。今回は復興の気持ちを込め、昨年までよりも大規模なお祭りになったようです。

いつも私達と一緒にボランティア活動をして下さっている地元「あねさん」の商品がずらりと並びました。全て手づくりです。出店場所にも恵まれ、午前中から盛況でした。

今回の商品は、以前よりゆいっこ盛岡のblogやツイッター等でもご支援をお願いしていた着物のハギレで作られた小物などです。例えば…メガネや通帳、何を入れてもOKな万能小物入れ等、ご支援頂いたハギレで作っています。そして、ティッシュケース。絹の着物の布を使用しているため、非常に高級感があり、思わずバッグの中にしのばせたくなる一品。プレゼントにも最適です。

今回一番人気だった商品は、箱ティッシュケースでした。お一人でいくつも購入されてる方もいらっしゃいました。その他、のれんなど生活空間に置くものが良く売れていました。また、巾着や花瓶置き、コースター、掛け軸(お気に入りの絵葉書を飾るミニサイズのもの)など多種多様な商品がお店を彩りました。

本当に多くの方が産業まつりにいらっしゃってました。

知り合いを見つけては声を掛け合い、楽しそうに話す場面があちこちで見受けられました。また、外は快晴。とっても気持ちの良い日でした。ただのんびり外のベンチに座って、流れてくる緩やかな音楽を聞いているだけでも気分転換になりそうな感じがしました。

多くのご支援頂いた皆様、宮古のあねさんたちの頑張りで、予想以上に沢山の商品を買って頂くことができました。また今回の出店でお客さまからの反応も知ることができたのではないのでしょうか。

私達も、今回もまた達成感とともに一緒に楽しく時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。



▶ハギレがこんなにステキに変身。味がありますね

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(10/21現在)】 **¥747,601**

【支援金をいただいた方(8/27～10/21)】

近藤様、渡邊様、眞鍋様(京都府)、ロクハラ様、じゃじゃおいけん様、hina取引先作家一同様(岩手県)、舘鼻様(岩手県)、杉山様(岩手県)、八重樫様(岩手県)

支援金箱設置ご協力ありがとうございました!

- 京都市ハーレーダビッドソンカスタムショップTNT cycle様
- 志士の会2003-kyoto事務局様(京都府)

着物ハギレ支援ありがとうございました!

宮古市で手作り小物を制作販売している「あねさんショップ」さんにお送りしている「着物ハギレ」のご支援をいただきました。お名前を掲載させていただいている方の他にも、直接お送りいただいた方もいらっしゃいます。本当にありがとうございます!

上村様、山田様(京都府)、印藤様(三重県)、高橋様、斉藤様、伊藤様、近藤様、平山様、大芦様、神村様、眞鍋様(千葉県)、荒木様(京都府)、長野県飯田市社会福祉協議会様

活動記録(8/27～10/21)

月	日(曜日)	活動内容
9	4(日)	●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
	17(土)	●仮設住宅への敷きパッド配布 ●宮古秋祭りボランティア
	18(日)	●小岩井クラフト市ツアー ●仮設住宅修繕(宮古市高浜地区)
10	1(土)	●宮古市産業まつりボランティア
	2(日)	●さんま祭り (宮古市近内雇用促進住宅)
	15(土)～ 16(日)	●宮古市近内仮設住宅集会所カフェボランティア&貝磨きボランティア+葛巻町「森と風のがっこう」宿泊研修

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。振込は下記口座までお願いします。

岩手銀行 津志田支店 店番/070 普通預金
口座番号/2065288 口座名義/ゆいっこ盛岡支部

引き続き「着物生地」のご支援をお願いします。

「絹」の着物生地のハギレ、反物、着物や帯をお願いします。美品であれば新品でなくともよろしいです。おゆずりいただける方は、ゆいっこ盛岡までメールまたは電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。



活動報告

復興支援イベント「もりアゲ↑マーケット」開催 (11月6日 盛岡市肴町)

宮古を盛り上げていこうという熱い気持ちを、盛岡からも後押しできたら…というイベント、『もりアゲ↑マーケット』を、11月6日(日)10時～15時まで肴町アーケード内で開催しました。被災地の為に何かしたいけど、なかなか沿岸まで行く時間がなく、できないでいた、等という方には必見のイベントになったと思います。フリーマーケット、宮古の物産販売、ボランティア体験…、などホットライン肴町は、その名の通り、とてもホットになりました。

雨が降る中、どれだけの



▲上 想いを込めて前日に準備した餅まき用の餅。下 雨の中、沢山の方々にお集まり頂き、大盛況のイベントに、餅まきは、アツという間に終了。



▲上 / 初めての杵と臼での餅つき体験。おじいさまも嬉しそうに見守ってくださいました。下 4回目に登場した餅つきの神様。見よ、この姿! 餅つき方には無駄がなく、杵を持つ手にも力が入ります。

皆さんに足を運んで頂けるのか不安もありましたが、午前中行った「復興祈念餅まき」は、予想を上回る盛況ぶり、イベント全体の盛り上げに寄与できたと思っております。あっという間に終わってしまい、スタッフもびっくりでした。餅まきのお餅は、前夜にゆいっこスタッフが一生懸命準備しました。スタッフで丸め、「復興祈念」の紙を添え、1つ1つビニール袋につめました。前日に用意した紅白のお餅は全部で350個!

餅つきは、スタッフを含め、杵と臼で餅つきをする経験が意外となかったりするので、初めてされるお子さんや熟練のご年配の方などみなさんで楽しめました。「よいしょ～! よいしょ～!」の掛け声とともに、みなさんと一体化し、その場の雰囲気はとても温かいものでした。このノウハウを基に、是非宮古でも餅つきをしたいものです。時間を分け、全

部で4回の餅つきを行ったのですが、4回目の餅つきでは、餅つきの神様?も現われ、大いに盛り上がりました。つき方、アドバイスの仕方、いでたち、どれをとってもかなり見ものでした。是非、ゆいっこ餅つき隊に加わって頂きたい、とスタッフ全員同意見。

天井には、宮古市重茂地区よりお借りした大きな大漁旗。着物ハギレで小物の制作・販売をされている『あねさんショップ』さん、貝殻でアクセサリを制作・販売されている『かけあしの会』さんにはわざわざ宮古から駆けつけて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。少しでも被災地のアピールに繋がってくれればと思います。『あねさんショップ』さんの作品は、ゆいっこホームページでも何回か紹介させて頂きましたが、本当に温かみのあるものばかり



◀『あねさんショップ』さんの前には、沢山のアクセサリ類が所狭しと並べられました。日々の生活にプラスすると、楽しくなりそう。



▶こちらは「貝磨き」コーナー。何度も紙やすりをかけ、携帯ストラップやネックレスに仕上げていきます。皆さん真剣な眼差しです。



◀手作りされた小物のバリエーションは様々で温かさが伝わってきます。スタッフも購入しました!!

野田村の被災した



▲こちらは「アクリルたわし」を作るコーナー。色とりどりの中から作っていきます。立ち寄りてくださる方が多く、人気のコーナーでした。

です。ヘアアクセサリ、ブローチなど装いにアクセントをつけてくれるラインナップ。次回の販売も待ちきれません。ぜひ皆さまもご覧になってみてください。そういった小物の材料であるハギレの元となる、着物をほどこ体験コーナーもありました。また、『かけあしの会』さんの貝磨き体験コーナーでは、参加者のみなさんが熱心に作業されていました。そして手作り品の制作・販売をされている『チームレインボウ』さんのアクリルたわし作り体験コーナーでは、色鮮やかなものにあふれ、たわしにするにはもったいないくらいかわいいものばかりでした。このように、共に盛岡でも出来る復興支援の新しい形を、今回のイベントでご提示できたのではないかと思います。『チームレインボウ』さん、ご協力大変ありがとうございました。また一緒に活動できればと思います。

お仕事、ご家庭の事情で沿岸支援に行きたくても足を運べない方は、是非ゆいっこにご相談下さい。内陸にいても一緒に出来る支援を考えていきましょう。県外では、予想通りだんだんと被災

地への関心が薄れていく中、私達ゆいっこ盛岡は、これからも末長く、様々な活動をしていきたいと考えています。そして、今回ご協力頂きました肴町商店街組合の皆さま、イベントに携わって頂いた皆さま、心より感謝申し上げます。イベントに先立ち、ポスター掲示、チラシ設置、またHPなどでわざわざ告知して下さったりと本当にありがたいことばかりで、温かいお言葉も沢山頂きました。こうして皆さま方とつながりながら、今後も活動をしていきたいと考えております。

そして今回のフリーマーケットの出店料は、全額ゆいっこの活動資金とさせて頂きました。当日皆様から頂いた支援金と共に、有効に活用させて頂きます。心より御礼申し上げます。

- ゆいっこ盛岡支援金ボックスへの募金 / 7,683円
- フリーマーケットブース料 / 13,000円
- ゆいっこ盛岡手ぬぐい売り上げ / 2,000円
- ゆいっこ盛岡フリマ売り上げ / 1,690円 (ゆいっこ盛岡フリマは、ボランティアスタッフの吉田由紀子さんに出品のご協力をいただきました。ありがとうございました。)

▶スタッフ長谷川が前日より仕込み、つきたてのお餅とベストマッチでした。長い行列が何度もできました。



▲当日は支援コーナーの他に、多くのフリーマーケットスペースも。慣れていらっしゃる方が多く、まるでお店が開店したようでした。また、被災地支援団体「マザーバード」さんのフリマブースでは、パステルシャインアートのワークショップも開催されました。



復興まつり (11月3日 宮古市)

11/3(木)に、宮古市のコープDORAにて、いわて生協さん主催の「復興まつり」がありました。そこに出品された宮古の『あねさんショップ』さん、田老の『ゆいとり』さん販売ブースのお手伝いをして参りました。『あねさんショップ』さんは以前ご紹介させて頂きましたが、『ゆいとり』さんも、『あねさんショップ』さん同様、地元の方々が心を込めて手作りした小物類を販売しています。

10月の「産業祭り」をコンパクトにしたようなイベントでしたが、相変わらずの盛況ぶりでした。ステージでの歌や踊り、モチまき…。また、様々なお店が出店しており、どこも賑わっていました。『あねさんショップ』さん、『ゆいとり』さんも、客足が途切れる事もなく、たくさんの人達に見て、買って頂けたと思います。また、隣のブースでは『かけあしの会』さんの携帯ストラップや復興ギフトの展示販売もして参りました。

10月の「産業祭り」といい、今回の「復興まつり」といい、市民全員で宮古を盛り上げていこうという熱い気持ちを感じ取ることができました。



▲「復興まつり」はみんなで盛り上げていこう、という気持ちが伝わってくる熱いイベントでした。



▲「あねさんショップ」さんの販売ブース。お客さまの反応がダイレクトに返ってくるので、お手伝いの私たちもドキドキしました。



▲イベントブースはもちろん、ステージでのパフォーマンスも大盛り上がりでした。

土葱の配布 (11月13日 宮古市近内雇用促進住宅)

11/13(日)、土葱を収穫し、宮古の近内雇用促進住宅で配る、というボランティア活動を行いました。この支援物資である土葱は、九戸村の関向竹志さんからご提供頂いたものです。当日にまず九戸村で葱を収穫をし、そのまま宮古へ向かう、という弾丸ツアーとなりました。



▲広大な葱畑に驚きました。生でかじってみたら甘くておいしかったです!

九戸村では、地元の方々と収穫しながら袋に積み、70袋強をバスに乗せました。ゆいっこメンバーより、葱袋の方が座席の割合を占めていたので、外から見たら不思議な光景だったと思います。宮古でいつもお世話

頂いている、コーディネーター須賀原さんのお姉さまのご自宅で、お茶と南部せんべいを天ぷらで揚げたおやつを頂きました。とても美味しかったです。途中、岩泉で昼休憩を取り、一路宮古へ。バスの中は葱のにおいで強烈でした。



▲いつもお世話になっているOKバスさんのバスに積み込まれた葱の山。スタッフは何処?!

宮古に着いて、何度かお邪魔している近内の促進住宅の方々に、

積んできた葱をメンバー全員でお渡ししました。皆様、葱を持っての訪問に驚かれていましたが、とても喜んで頂き、雨の中収穫した甲斐がありました。また、九戸の方々の気持ちも一緒に運べたかと思うと、嬉しいです。

帰りは葱のにおいが残るバスに揺られ、無事に帰って参りました。おかしなもので、到着する頃にはそのにおいにも慣れてしまいました。急激な気温の変化もあり、これから風邪なども流行りますが、葱を食べて頂き、寒い冬を乗り越えてほしいと思います。



▲メンバー全員で葱をお配りしました。皆さん、あまりの量に驚かれておりましたが、とても喜んでくださいました。



▶須賀原さんのお姉さまのご自宅でしばし休憩。南部せんべいを天ぷらで揚げたおやつが絶品。ごちそうさまでした。

仮設住宅の縁台作り (10月22日 宮古市高浜地区仮設住宅)

私達ゆいっことは、仮設住宅に住んでいらっしゃる方々からの要望もあり、9月より「ひさし取付け」の修繕作業をメインの活動としてやってきました。しかし、この作業は国の予算で取り付けられることが決定し、私たちの活動も方向転換。次のニーズである「縁台の設置」へと取り掛かりました。仮設には多くの問題点があり、住んでいる方々にしかわからない不便があります。ひさしを作っている間に住人の方に伺ったのですが、仮設の窓側には物干しが付いているようですが、物干しの位置が悪く、洗濯物を干す際に不便なのだそう。そこで「縁台」という案が出されました。活用用途も様々で、時には踏み台として、また時にはベンチとして…、そういう想いを込め作らせて頂きました。

10/22の縁台作りには、岩手日報労働組合さんの呼びかけにより、各地の新聞社の方々をはじめ、多くの方々に参加頂きました。



▲試行錯誤しながらの作業。皆さんが喜んでくださることを願い、一生懸命作らせて頂きました。

ゆいっこ盛岡のメンバーは、ひさし作りの経験もあるので、工具の扱いにもだいぶ慣れ、テンポよく作業を進めることができました。初めて参加される方にとってはやはり難しい点もあったようでした。この様子を見て、始めた当初の私たちもこんな

感じだったな、と感慨にふけりました。あれから2カ月…、チームワークも、完成度も上がったように感じます。後半は、皆さんだいぶ慣れてこられたようで、結局この日出来上がった縁台は全部で12台。これらを高浜の仮設に設置して、今回の活動は終了しました。

修繕活動を行う際に、宮古の佐々木さんにはいつも大変お世話になっております。建材の用意、ひさしや縁台の設計、作製の指導、そして、お昼ごはんの差し入れまで。この活動は私たちだけでは出来ず、多くの皆様のご協力があるからこそ今まで続けられています。今回も、遠くは関西から参加して頂き、こうやって支援の輪が広がり続けてくれたら、と心から願っております。

その後、11月20日をもって、高浜地区の仮設住宅に必要な縁台35台を設置し終わりました。しかし他地区の仮設にも同様の問題はあります。今後も現地の方々のコミュニケーションを大切に、的確な支援につなげたいと思います。



▲地元の方々、そして多くのボランティアの方々のご協力のもと完成した縁台。気持ちもひとしおです。

クラフト市ツアー (9月18日 雫石町小岩井)

9月の3連休は、フル回転活動のゆいっこ盛岡でした。以前から企画・募集していた小岩井CRAFT市ツアーを実施しました。このツアーの対象者は、宮古市にお住まいの方々です。blog等での募集の呼びかけは一切せず、現地でのチラシ配布でのみ募集



▲全国各地から集まってきたクラフトマンたちの作品が森の中に並び、素敵な空間でした。

集しておりました。なかでも田老のグリーンピア内の仮設住宅にお住まいの皆さんには非常に多くご参加頂きました。お声掛けをして下さいました世話役の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

朝7時にグリーンピアを出発。いつもお世話になっている岩手県北バスさんの大型バスに定員いっぱいに乗って、一路雫石の小岩井農場へ。「小岩井CRAFT市」とは、タイムグラの安部智穂さんが主催されていて、全国各地から沢山のCRAFTマンが集まります。会場は、小岩井のどんぐりコロコロの森です。森の中に所狭しとタープやテントを張って出店されます。陶器、ガラス、木工、草木染めの布、竹細工、フェルト小物など、毎年この時期に開催され、多くの方が訪れる秋らしいイベントです。

今回は、このイベント受付横に「チャレンジショップ」が特設されておりました。ここには被災地の方が作られた手作りの小物や、出店している作家さんがチャリティー商品が並んでいました。今回、田老の方々が作られた商品を、ここに出品するべく届けることが1つのミッションでした。また2つ目の目的としては、手仕事で収入を得ていきたいという想い

です。多くのレベルの高い作品が並ぶこのイベントから、今後の商品を作るにあたり、糸口をみつけれたら、という気持ちもありました。そして、大自然の中で美味しい空気を吸って頂き、ひと時でも癒しの時間を持つことこそが、家庭のお母さん達が元気でいられることにつながりますよね。何をしたわけでもありませんが、もう少し一緒に居たくなるような居心地のよいツアーでした。



▲田老のお母さん達によって作られた作品&作家さん達のチャリティー商品が並べられた「チャレンジショップ」の様子。今後の作業につながっていくことを心から願っております。

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(11/16現在)】 **¥967,579**

【支援金をいただいた方(10/22~11/16)】

三浦様(岩手県)、カニングハム様(秋田県)、六波羅様(東京都)、(株)ブーン/高品様と自力整体教室の生徒様(東京都)と募金にご協力いただいた皆様(和田様ご夫妻、村田様、江花様、久保田様、結城様、高科様、大久保様、田上様、山崎様)、もりアゲ↑マーケットにてフリーマーケットに出店・出品いただいた皆様と募金にご協力いただいた皆様、小岩井クラフト市にご参加いただいた皆様(岩手県)、支援金BOX(設置ご協力/東京青果様、松作(株)様、岩手中央青果(株)様、Heg様、じゃじゃおいけん様、ハーレーダビッドソンカスタムショップTNT cycle様、志士の会2003-kyoto事務局様)にご寄付いただいた皆様

<着物生地>おゆずりください

宮古市の「あねさんショップ」では、着物のハギレを使って小物を作り販売しています。その材料である「絹」の着物生地のハギレ、反物、着物や帯のご寄附をお願いしています。美品であれば新品でなくとも結構です。おゆずりいただける方は、ゆいっこ盛岡までメールまたは電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

活動記録(10/22~11/16)

月	日(曜日)	活動内容
10	22(土)	●仮設住宅の縁台作り、着物ほどこ(宮古市高浜地区)
11	3(木・祝)	●「復興まつり」手伝い(宮古市)
	6(日)	●復興支援イベント「もりアゲ↑マーケット」開催(盛岡市肴町)
	13(日)	●土ねぎ配布(宮古市近内雇用促進住宅)

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。振込は下記口座までお願いします。

◆岩手銀行 津志田支店

店番/070 種目/普通預金

口座番号/2065288 口座名/ゆいっこ盛岡支部

◆ゆうちょ銀行

口座番号/6602251 記号番号/18350

口座名/ゆいっこ盛岡支部

◆郵便振替

番号/02200-1-110096 加入者/ゆいっこ盛岡支部

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。

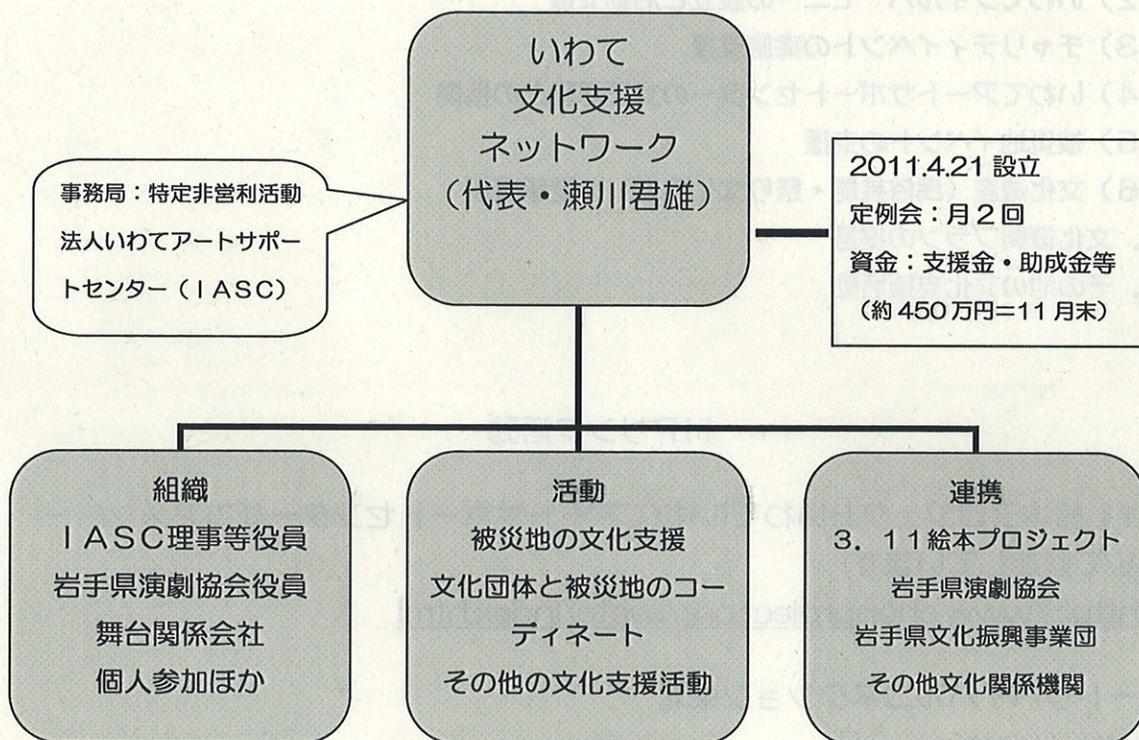
いわて文化支援ネットワーク

【活動趣旨】

いわて文化支援ネットワーク（以下「ネットワーク」）は、東日本大震災で被災した地域の文化芸術による様々な支援活動を行う。

大震災によるイベント開催の中止や自粛や経済活動の低迷によって、被害の大きかった沿岸地域のみならず被災県全体の文化芸術活動が著しく低迷している。地域復興には

文化芸術面からの復興も欠かすことが出来ない。人々は文化芸術による心の糧や次代への記憶の継承も必要としている。ネットワークではこうした地域の文化復興活動を支援・推進する。



【構成・規約】

趣旨に賛同する岩手県内の文化団体・個人により構成され、代表は岩手県文化芸術コーディネーターの委嘱団体である特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター理事長。経理及び監査等はIASCの規約に準拠。

【協力連携】

各種文化団体やNPOのほか、岩手県生涯学習文化課・NPO文化国際課、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会等県内関係機関やAVN（アートビジョンネットワーク・東京・震災文化支援ネットワーク）や日本演出者協会、アーツエイド東北等県外文化団体と協力連携をはかる。

【資金】

寄附金・各種助成金・補助金・IASCからの拠出金（事務経費の一部に充当）
その他の資金（入場料ほか）

【活動計画】(別添活動内容)

- 1、各種の文化支援活動への参加・サポート
 - (1) 3.11 絵本プロジェクトいわてへの参加
 - (2) 次代をになう子どもの文化芸術体験事業岩手県実行委員会への参加
 - (3) その他支援
- 2、文化支援資金の募集
- 3、文化復興イベントの開催計画
- 4、被災地からのニーズとのマッチング
- 5、文化イベントの実施・支援
 - (1) コンサート・演劇公演・美術展等の実施支援
 - (2) いわてフィルハーモニーの設立と活動支援
 - (3) チャリティイベントの実施支援
 - (4) いわてアートサポートセンターの支援活動との協働
 - (5) 被災地イベントの支援
 - (6) 文化遺産(民俗芸能・祭り文化含む)の継承支援
- 6、文化復興プランの提言
- 7、その他の文化支援活動

HPリンク活動

3.11 絵本プロジェクトいわて(いわてアートサポートセンターがコアメンバーとして参加しています)

→<http://www.ehonproject.org/iwate/index.html>

アトリバイバルコネクション東北

→<http://arct.jp/>

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

→<http://www.ictnet.ne.jp/~arts/>

FANTASIA(寺崎巖=いわてフィル)

→<http://www.d3.dion.ne.jp/~tera2/>

R45 演劇海道(こむろこうじ=岩手県演劇協会副会長)

→http://kom-san.blog.ocn.ne.jp/r45_/

その他

いわて文化支援ネットワーク活動内容

(予定・検討中も含む)

2011.11.30 現在

○芸術鑑賞アシストプラン

「いわてフィルハーモニー」

被災地では学校の芸術鑑賞事業の中止が相次いだ。その理由はホールの被災は勿論だが、経費を復興経費に充てるため学校の文化予算が吸い上げられていることが大きい。県レベルではその代替経費負担は難しい。こうした小中学校等の鑑賞事業をサポートし、併せて二次被害を受けているアーティストの活動支援を行うため、盛岡のプロの演奏家を中心に、東京・仙台等からゲストを招聘し、管弦楽団「いわてフィルハーモニー」を編成した。

指揮は盛岡在住の寺崎巖(日本弦楽指導者協会理事)。演奏のほか、指揮者体験・演奏体験等のワークショップも行う。

「いわてフィルハーモニー」のアシスト公演は野田村、普代村、洋野町の3町村4ステージ(6月23日、24日の両日)。岩泉町小本1ステージ(10月29日)。

今後、いわてフィルハーモニーは、県内唯一のプロのオーケストラとしての活動を継続する予定。盛岡など内陸部でも公演を計画。公演収入が岩手県内ではあまり期待できないので、安定的な活動を支える資金調達などが課題となっている。

「その他」

大蔵流茂山狂言盛岡市中央公民館公演(被災者支援公演 10月30日)をサポートした。

○楽器アシストプラン

沿岸被災地で流失したピアノ等の楽器の新たな購入や修復、寄贈ピアノの配送などの支援を行う。なお、宮古市や山田町界隈で被害のあったピアノは約100台。仮設住宅ではピアノの音が障害となり、ヘッドフォンで聞く電子ピアノが必要となっている。多くの団体ではピアノ支援を行っているがほとんどは学校や幼稚園・保育園などへの支援で、ピアノ教室や個人へは個人の財産になってしまうという理由で支援は行われていない。

いわてアートサポートセンターではピアノ教室や個人を対象に支援を行っている。

資金は企業メセナ協議会のGBファンド助成と自主調達(支援金)。

これまで中古ピアノの斡旋 9 か所（配送・購入支援）、電子ピアノの購入 11 台、バイオリン 2 台、陸前高田市太鼓グループにバチ 20 セット、笛 10 本の購入支援を行った（支援経費総額 212 万円）が、まだ支援要望があり資金調達が追い付いていない。

○子どもの文化芸術体験アシストプラン

文化庁の表記事業岩手県実行委員会のメンバーとして参加、アーティストと被災地のコーディネート支援する。これまで、大蔵流茂山狂言・糸操り人形結城座・人形劇「トワワイルスタ」・劇団銅鑼・デイリリーアートサーカス（移動美術）などの活動を県内 20 か所にコーディネートした。

1 校 3 回以上の支援を行う文部科学省事業では「いわて文化支援ネットワーク」のコア団体である「いわてアートサポートセンター」が事業の受託し、県内 6 校で対応。宮古市では被災地の鍬が崎小学校で演劇ワークショップを行い。津波体験取材した創作劇を作った。

また、「いわてフィルハーモニー」の有志メンバーで、一本木小学校のワークショップを実施（11 月、3 回）。

上記 2 つの事業は今後も継続予定。

○伝統的イベントアシストプラン

全壊した陸前高田市の伝統行事（動く七夕）の支援。

動く七夕は、七夕飾りの山車を製作し大きな太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く奇祭で、陸前高田市が全国太鼓フェスティバルを行う動機ともなった行事。例年、通常 12 台の山車が繰り出されるはずだが、残されている太鼓は修理中も含め 3 台。1 台の購入を支援するほか、太鼓フェスティバルの舞台製作の支援。他団体の助成活動のマッチング（真如苑・岩手県文化振興基金）を行った。

○伝統文化アシストプラン

地域で継承されている民俗芸能の復興や、地域のことばを活用した語り・演劇・朗読等で地域文化の継承をサポートする。

地域で伝承されている民俗芸能は、芸能保持者の被災・転出、用具の流失によって大きな痛手を受けている。岩手県は全国でも有数の民俗芸能の宝庫でもある。特に国の重要文化財で神楽宿を巡業する形式で特色ある宮古市の黒森神楽は、沿岸の神楽宿の多くを失っている。このため、県外公演のサポートや内陸部（盛岡）での神楽宿企画を支援する。

○被災地慰問及び支援公演アシストプラン

演劇においては、日本演出者協会や岩手県演劇協会と連携し、劇団等の派遣協力を行う。音楽においては「いわてフィルハーモニー」を核とした支援活動を行う。また、AVN（アートビジョンネットワーク・東京）や他の表現団体と提携し、美術・ダンス・文学等による支援活動を行う。

実績では「劇団キャラメルボックス」の慰問公演（10 月 12 日）を田野畑村に斡旋した。今後も、被災地とアーティストのコーディネート継続する。

○文化支援企画イベント（自主企画）

いわてアートサポートセンターと提携し、「12 の贈物」（小説集）の朗読劇を平成 24 年 1 月～3 月まで盛岡、沿岸、東京で実施する。

出演は県内アナウンサー、岩手出身俳優、いわてアートサポートセンター朗読クラブ、いわてフィルハーモニー（生演奏）ほか。

平成 24 年度は、沿岸被災地での復興文化イベントの実施を企画検討する。

○人材養成事業

被災地とアーティストを結ぶコーディネーターが不足している。また生活や福祉、学校分野と結ぶコーディネーターも同様である。人材養成と安定した活動ができるシステムづくりが必要とされている。

いわてアートサポートセンターは岩手県文化振興基金の助成を得て、養成講座を行う予定だが、自己負担分約 50 万円の経費が不足している。

○震災支援活動や被災地文化活動事業へのサポート

3.11 絵本プロジェクトいわてなど、他の文化支援活動・震災支援活動のサポートを行う。また、また、岩手県芸術文化協会ほかの文化団体と協力し沿岸被災地の劇団や音楽グループの活動支援を行う。

これまで、宮古市の劇団麦の会に支援した。

○岩手県文化復興プランの提言書の作成

長期的な視野に立った提言と震災と文化にかかるフォーラムを計画中。



3.11
絵本プロジェクト
いわて
Books for Children

3.11 絵本プロジェクトいわて事務局
〒020-0013 岩手県盛岡市愛宕町14-1
Tel: 019-654-5366 FAX: 019-653-3505
E-mail: iwate@ehonproject.org
www.ehonproject.org/iwate

「3.11 絵本プロジェクトいわて」の活動について

平成 23 年 12 月 5 日

1、提唱

国際的な児童図書編集者・末盛千枝子さん（彫刻家 舟越保武さん長女）から「被災地で心の傷を負った子どもたちへ絵本を贈ろう」という活動の提唱があり、盛岡市中央公民館を拠点に、盛岡市内のNPO団体（いわてアートサポートセンター、参画プランニングいわて、盛岡市婦人ボランティア野の花会）や盛岡教育事務所が参加してはじまったプロジェクト。

2、本の集積と分類

(1) 12月2日現在の集積状況

231,787 冊（全国から 0 歳から小学生を対象とした絵本・児童書）

(2) 開梱・分類の状況

活動当初は年齢別に四分類しコンテナに仕分けしていた。現在、分野別・作家別分類にしたものを最終分類している。

3、ボランティア

(1) 開梱・分類作業

盛岡市中央公民館創作展示室で午後 1 時～3 時、毎日 20 人～30 人程度の女性中心のボランティアが荷解きと分類の活動を展開。（12 月 2 日現在、126 日間 延べ 2,709 人）

(2) 配送・読み聞かせ

絵本は、避難所、仮設住宅、小学校、幼稚園、保育所等に直接、絵本ケース（コンテナ）に 50 冊程度まとめ、被災地の希望に沿った分類をして届けている。5 月末からは幼稚園・保育園には「えほんカー」（軽トラックを改造。日本で初開発）で届けている。希望があれば開梱・分類作業を行っているボランティアが読み聞かせも行っている。

図書館用を希望された自治体に対しては、希望の冊数を箱詰めして、受入体制が整うまで盛岡市内の小学校の余裕教室に保管。（12 月 2 日現在、野田村、大槌町、陸前高田市に各 10,000 冊準備済み。）

4、えほんカー

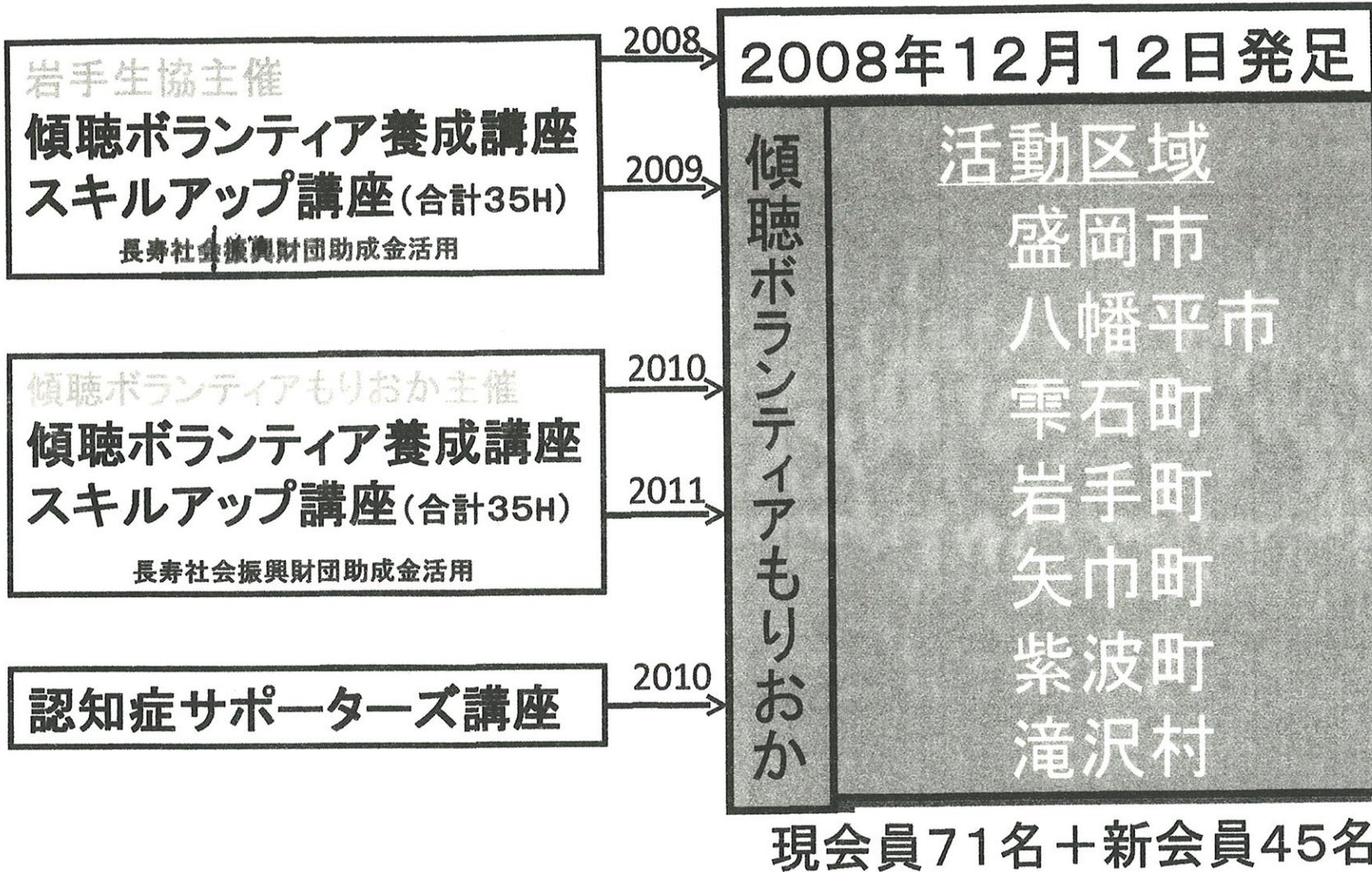
「えほんカープロジェクト」を 4 月から開始し、1 号車が 5 月 20 日に完成。日本郵便年賀寄付金配分の決定により、6 号車まで発注し、8 月 7 日に納入された。被害の大きかった自治体（ボランティア団体含む）へ絵本満載のえほんカーをプレゼントする。8 月 10 日大槌町に 1 台、9 月 6 日宮古市に 1 台、10 月 18 日釜石市に 1 台寄贈した。（12 月 7 日普代村に 1 台寄贈予定。）

5、寄贈実績

4 月 4 日、宮古・山田を訪問したのを始めとして、12 月 2 日現在、209 ヶ所にあわせて 76,625 冊を寄贈した。北は青森県八戸市、南は宮城県石巻市まで 14 市町村に出向いた。

「えほんカー」が被災地を走り、子どもたちが自分の好きな本を選べるということが、大きな評価をいただいている。

発足と経過



活動体制と状況

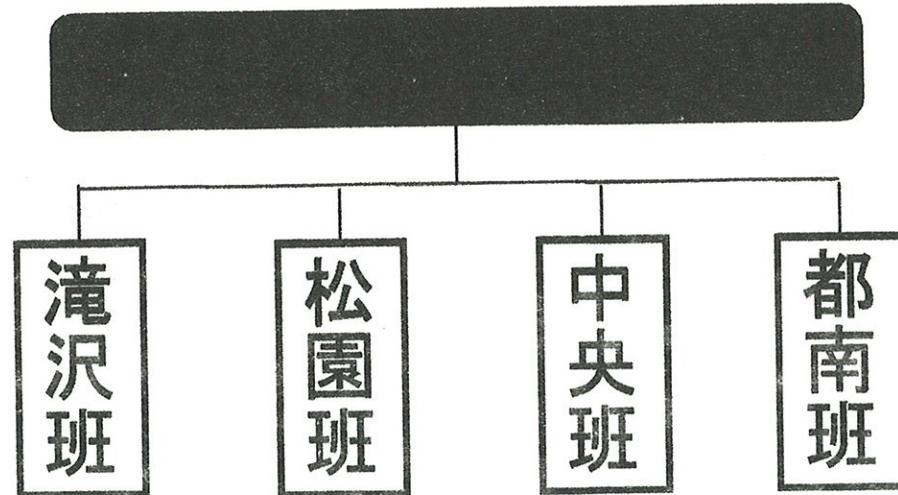
役員体制

会長

副会長(2名)

運営委員(6名)

班長(4名)



月間活動状況

訪問施設数 13回

延50人参加・約150人傾聴

個人傾聴数 14人

ほっとサロン 1回

8人参加・約15人傾聴

聴

被災地傾聴の取り組み経過

3月13日 盛岡市災害ボランティアセンターに登録

盛岡地域の避難所から傾聴活動要請待ち

4月 1日 宮古市、山田町被災状況調査

沿岸被災地の避難所から傾聴活動要請待ち

4月21日 県災害対策本部医療班、自衛隊から活動要請

自衛隊「お話し伺い隊」と同行して傾聴することが決定

4月25日 役員4人が自衛隊と大槌に同行し傾聴

4月27日からの本格的なコラボに向けて参加者を募集する一方、役員が自衛隊と同行し避難所で傾聴を体験

4月27日～5月30日 自衛隊と連携して傾聴活動

4、5月の実施状況(自衛隊と連携)

実施日	傾聴場所	参加人員	実施体制	備考
4月25日(金)	大槌町浪板地区交流センター	4	自衛隊同行(同乗)	自衛隊から昼食提供 午後傾聴
27日(水)	釜石市仙寿院	6		
28日(木)	釜石市市民体育館	6		
29日(金)	釜石市市民交流センター	6		
30日(土)	釜石市旧釜石第一中学校	6		
5月 6日(金)	陸前高田市松原苑	5		昼食持参 午後傾聴
14日(土)	陸前高田市六ヶ浦会館	5		
15日(日)	陸前高田市雷神公民館・米崎小学校	7	自衛隊同行	午後別傾聴
16日(月)	釜石市民体育館・旧釜石第一中学校	4	単独	午前・午後傾聴
22日(日)	大槌町安渡小学校・十王館宅	6		
23日(月)	陸前高田市高田第一中学校(独自開拓)	8	自衛隊同行	午後別傾聴
27日(金)	大槌町安渡小学校・稲荷神社・大徳院・十王館宅	6	単独	午前・午後
29日(日)	陸前高田市長洞公民館・華蔵寺・米崎小学校	7	単独(自衛隊紹介)	午前・午後
30日(月)	陸前高田市広田小学校	8	単独(自衛隊紹介)	午後傾聴

※5月15日以降の交通費(私用車借上げ代は、全国の傾聴ボランティアからの寄付金で充当)

傾聴活動のきまり

- 名札の着用
- 時間の厳守
- 情緒的一体感の元での共感的・受容的傾聴
- 個人情報守秘義務
- ピアサポートの実施
- 活動報告書の提出
- 傾聴活動はすべて無料



チャイルドラインいわてニュース

創刊号 ~ 2011-8-25 発行 ~

*** ご あ い さ つ ***

チャイルドラインいわて代表 三上 邦彦

岩手県にもこの10年来開設が期待されていた「チャイルドラインいわて」が平成22年6月19日に設立し、同年11月23日にホットラインを開設しました。チャイルドラインは、18歳以下なら誰でもかけられる無料の専用電話です。研修を受けたスタッフらが子どもたちの「話したい」「打ち明けたい」と思うことに耳を傾け、その心に寄り添い、誰かと話したい、困ったこと、悩んだこと、うれしかったことを伝えたいという子どもが匿名で話せるホットラインです。

岩手にチャイルドラインができたことで、岩手県の子どもたちにもチャイルドラインの存在が子どもたちへ伝わりやすくなりました。3月11日の東日本大震災以降、私たちは、震災で被災したり、各地で不安な思いで過ごす子どもたちに、チャイルドラインの利用を呼び掛けています。そして、岩手の子どもたちだけでは

なく、様々な地域の子どもたちから、複雑に揺れる子どもたちの心を受け止めています。子どもたちの問題の多くは、大人が優先して解決を図ろうとする傾向があります。チャイルドラインは子どもの問題は子どもに聞くことから始めようと考えています。そのため周囲の大人は、自分の周りの子どもたちに関心を持つことがとても大事になります。今回の震災では、自分が助かったことに心を痛める子どももいます。継続的な心のケアもとても大事なことです。知らない相手だからこそ話せることもあります。被害の程度や、相談や悩みの有無に関わらず、子どもたちが日常的に話せる場として、また、子どもたちに寄り添う場として、子どもが笑顔で安心して生活できる環境を考えていく「チャイルドラインいわて」に、今後ともご理解とご支援を賜りたいと存じます。

18歳までの子どもがかける電話

チャイルドライン

0120-99-7777

☆4つの約束☆

ヒミツはまもるよ
どんなことも、いっしょに考える
名まえは言わなくていい
切りたいときには切っていい

平成23年度通常総会開催報告

去る7月5日(火)18時30分より、県立大学アイーナキャンパス学習室1において、総会が開かれました。会員28名のうち21名が出席(委任状5通)。今後の会計に関わることや普及についての質問も出され、静かではありましたが、会場の皆さんの『チャイルドラインいわて』を盛り立てていこうとする気持ちが伝わるような温かい総会でした。議事の中で報告のあった内容を一部紹介いたします。

◆平成22年度 収支報告について◆

- ◇ 総収入 : 1,007,136 円(科目内訳 : 会費、寄付金、補助金、事業費)
- ◇ 総支出 : 750,741 円(科目内訳 : 事業費、管理費)

※『チャイルドラインいわて』の活動は、会員の方をはじめ、多くの方からのご支援(寄付金)や助成金によって成り立っています。この場を借りて御礼申し上げます。

《 補助金の内、助成金(653,100円)についての報告 》

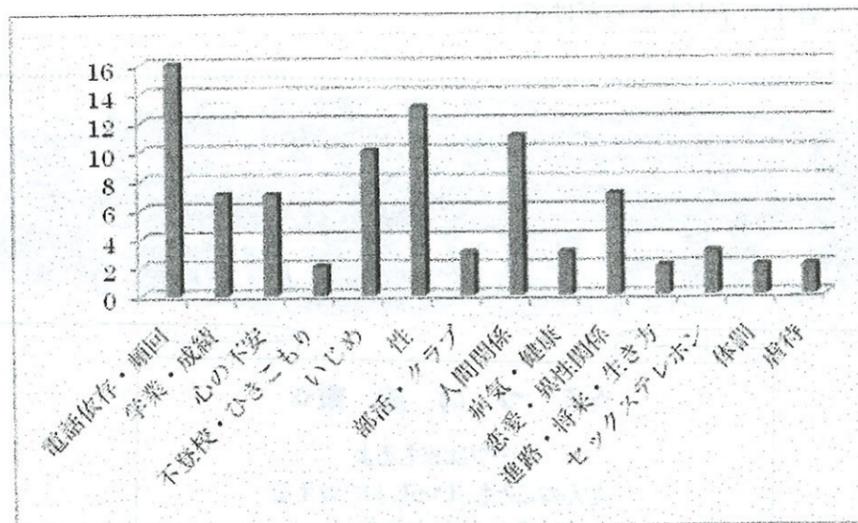
- ◇ 岩手県福祉基金から…『チャイルドラインいわて』のポスターとカードの作成に
- ◇ 長澤基金から……受け手養成講座の開催資金に

◆平成22-23年度役員紹介◆

◇ 代表理事 : 三上 邦彦	◇ 理事 : 佐々木 一憲
◇ 副代表 : 藤澤 昇	女澤 貴公
加藤 義男	◇ 監事 : 伊勢 志穂
◇ 事務局長 : 打田内 裕子	高橋 典成

◆電話開設について◆

- ◇ 開設期間 : 平成22年11月23日～平成23年5月31日
- ◇ 開設回数 : 12回
- ◇ アクセス数 : 229件(対話できた件数)
- ◇ 内容別件数(無言、不明178件は入っていません。一件で複数の内容が含まれるものもありました)



支え手体験記

○「支え手」になって

昨年11月、電話相談スタート。直前になって、「支え手としてお願いします」。さて、「支え手」の役割って何だろう。チャイルドラインガイドラインでわか勉強。「受け手をケアします」「受け手の資質向上をはかります」「必要なときに状況判断をおこないます」。なるほどとそれなりに納得してスタート。それから8カ月。「支え手」として役割が果たしているか、その資格があるか、それは「受け手」の方たちからの評価を待つしかない。

○チームで電話を受ける

「受け手」と「支え手」は対等な立ち位置にいて、お互いに切磋琢磨していく同志です。子どもと話すのは「受け手」ですが、「支え手」も一緒になって子どもの声に耳を傾けます。その後、一緒に「ふりかえり」をおこないます。この「ふりかえり」こそが大事です。

「支え手」という役割を置いて「チームとして電話を受ける」というシステムは、他の電話相談ではあまりみられないすばらしいやりかただということがわかってきました。それだけに「支え手」の役割の重要性をあらためてかみしめています。

○これから

「受け手」の方の個々の持ち味を大切にしよう。電話という限られた手段をとおして子どもの気持ちを聴こうとご苦労された「受け手」の方に「ご苦労さまでした」というねぎらいの声かけを忘れなないようにしよう。「支え手」の養成講座があれば参加したい。電話からみえてくる子どもたちの状況を世の中に伝えていく取り組みもしたい。(Y・K)



受け手として……

チャイルドラインの受け手になり、早8カ月が過ぎようとしています。昨年11月23日の記念すべき第一回目の受話器を取る際は、緊張で声が上がっていたのを覚えています。いろんな子ども達からの多種多様な悩みや相談の電話が入ってきます。先日は、泣きながらの電話を受けました。その気持ちを受け止めながら、解決方法を助言しましたがなかなかうまくいきません。返答をどうしたものかと迷っていると支え手から、「いろいろ助言せず、なんでも話を聞くから話していいよと甘えさせたら。」とのアドバイスを受けました。受け手の心構えなど研修してきたつもりでしたが、実際に電話を取ると、なかなかうまくいかないものです。支え手のアドバイスや、振り返りの時間などで勉強しながら、子どもの心に寄り添える受け手をめざしていきたいと思います。(A・K)

3・11 東日本大震災に関して

《 沿岸被災地訪問 —藤澤副代表の報告から抜粋— 》

去る4月16日、被災地の子どもたちの状況を把握するため、日帰りの日程で沿岸部の被災地に向かいました。同行訪問者は、チャイルドラインいわてのメンバー・東京のチャイルドライン支援センターのメンバー3名・岩手日報記者さんお一人でした。向かった先は、大船渡の大洋学園と宮古児童相談所です。大洋学園では、刈谷学園長が約1時間程、「被災状況と現在までの経過や活動について」「大洋学園での子どもたちへの対応や大洋会の地域への支援の状況」「現在必要な支援について」などお話をいただきました。その後大船渡から沿岸線を北上して宮古に向かいました。途中車窓から被災地の悲惨さを目の当たりにしました。宮古児童相談所では、菅野所長から「県外児童相談所職員による避難所の巡回相談について」や「今後の動き」などを伺いました。そして、宮古から盛岡へ帰りました。

《被災地向けカードの配布》チャイルドライン支援センターは、新たに被災地向けカードを作成し、県内すべての小中学生と県立高校生向けに送付しました。カードには、「思いがけない体験をしたときは誰でも不安になります。ひとりでかかえこまないで、誰かに話すことが大切です。誰にも話せないときはチャイルドラインに話してみてください。」などのメッセージが記されています。

チャイルドラインいわて 事務局だより

今後の予定

《その1》— 『北海道・東北ブロックエリア会議及び研修』開催について —

☆ 日頃の活動をより充実させるための研修と、他地域のチャイルドラインの会員のみなさんとの交流の場です。昨年に引き続き、今年もまた盛岡での開催となりました。

(日時・会場)

10月1日(土) 13時 ~ 18時 (アイーナ8F801会議室)

10月2日(日) 9時30分 ~ 12時 (アイーナ5F501会議室)

《その2》— 『受け手養成研修』について —

開催期間：2011年11月12日～2012年1月28日(全12回)

会場：プラザおでって、アイーナ

定員：40名(定員になり次第締め切ります。)

対象：チャイルドラインの活動に興味のある方、または受け手としてボランティア活動を希望される方

受講料：一般12,000円/学生5,000円(分割可)

※11月12日(土)の公開講座のみ参加は1,000円/学生500円

参加申込：電話かFAX、メールで下記項目をお知らせください。詳細をお知らせします。

① 名前 ② ご住所 ③ 電話番号 ④ 年齢 ⑤ 養成研修または、公開講座希望

問合せ・申し込み：チャイルドラインいわて事務局(打田内)

TEL:090-6257-9251/FAX:019-681-8440

E-mail:orion81@clear.ocn.ne.jp

◆あなたもチャイルドラインのメンバーになって活動しませんか。

1986年にイギリスではじまったチャイルドラインは、欧米はじめ、東欧、アジアなど世界30カ国以上に広まっています。日本では41都道府県72団体に活動が広がっています。「チャイルドラインいわて」は昨年6月に発足し、11月からはフリーダイヤルの電話を開設し、子どもたちの声に耳を傾ける活動を実践しています。皆さんも「チャイルドラインいわて」のメンバーになって一緒に活動をしませんか。

◆支援金・寄付金のご協力をお願いします!

会員、または支援会員：個人、年間一口2,000円 / 団体、一口10,000円

(振込先)郵便局振込番号02290-4-117308 □座名「チャイルドラインいわて」

(事務局)〒020-0862 盛岡市東仙北1-1-34-112(打田内気付) / 電話：090-6257-9251

* 『チャイルドラインいわてニュース』を創刊するに当たり、代表
編 からのご挨拶を掲載させていただきました。当団体は、歩みだし
集 たばかりですが、多くの皆様からより一層のご理解とご協力をい
後 いただきながら、多くの子どもたちの声に耳を傾けていきたいと思
記 います。どうぞよろしくお願いたします。

問い合わせ先

チャイルドラインいわて事務局

〒020-0862

盛岡市東仙北1-1-34-112

(打田内気付)

特定非営利活動法人いわて連携復興センターの活動

【行政・NPOとの連携の場を設定】

□行政・NPOとの定例ミーティング

復興計画や支援スキームを策定している行政や、支援に入っている県内のNPO・社協等と情報交換を定期的に行い、被災地が今必要としている支援について協議を行っています。また、宮城・福島でも組織されたれ復興センターと連携会議を実施しています。

——→ 具体例：岩手県復興局・きたかみ復興支援協議体との定例ミーティング、3県連復会議

□県外の支援団体と連携の場を設定

全国的なNPOのネットワーク組織「ジャパンプラットフォーム」や「日本NPOセンター」と会議を共催し、岩手県内外の支援団体と全県的な会議の場を設定しています。

——→ 具体例：仮設分科会、JCN現地会議

*上記他、国・県・NPO主催の様々な会議の場に参加し、被災地の現状や支援団体の活動を報告しています。

ポイント  **連携の場を設定し、そこで得られた情報をまた次の場で落とし込むことで、被災地全体の情報共有や共通の理解を深めることができます。**

【中間支援NPOとしての活動】

□支援団体のマッチング

支援する側と受け手のミスマッチが起きていた現状を踏まえ、ネットワークを生かしたマッチングやコーディネートを行っています。

□NPO法人設立・運営・助成金申請支援

震災後、わが町の復興のために集まった人たちが今後も継続的に支援を行いたいとNPOの法人格を取得しようとする動きが高まっています。このような方々に対し、NPO法人の認証からスタッフを雇用した際の労務管理、また助成金申請書の書き方等様々なアドバイスをしています。

□コミュニティ支援

沿岸地域から内陸部へ避難された方へ新たなコミュニティの場を提供するとともに、避難先の自治体との連携を図る場を提供しています。

ポイント  **いわて連携復興センターは震災前から繋がりのある県内の中間支援NPOが集まり組織されたNPO法人です。既存のネットワークやこれまで培ったノウハウを生かし、新規団体の立ち上げやコミュニティの支援を行います。**

【さまざまな協働事業】

□仮設受託環境アセスメント調査

岩手県復興局と協働で仮設の住環境に関する調査を実施。調査に当たっては県内外の支援団体と連携し、被災者に負担のかからない聞き取り調査を行いました。

——→ いわて連携復興センターホームページで調査結果を公開中

□新しい公共支援事業

岩手県復興局とともに、事業に関わる協議体「岩手県連携復興会議」を設立し、被災地で活動する団体や支援団体とのマッチング及び会議の場を設定する事業を行っています。

□北上市と協働協定締結

いわて連携復興センターと北上市は、被災地の情報やニーズを迅速に把握し対応してしていく事を目的とした協働競争を結び、パートナーとして復興支援活動にあたっています。

ポイント  **新しい公共の担い手として行政・NPO・企業等様々なセクターと協働で事業を進めることで、岩手県全体の市民活動の向上に寄与していきます。**

**特定非営利活動法人いわて連携復興センターは
被災地と岩手県内外の支援団体を繋ぐ役割を担っています**

仮設住宅でお過ごしの方、ボランティアの方々が、
編んでくださった作品です。

ハート・ニットプロジェクトとは？

日本全国、世界各地から寄せられた、たくさんの毛糸を
3.11東日本大震災被災地の方々にお届けします。
編み物をする事で、少しでも心が癒されればと
私たちは願っています。
そして皆さまが作られたハンドメイドの作品を販売し、
売上全額を編まれた方々へお渡しします。
それが「HEART KNIT PROJECT」です。



作品を売ります
編み上がった作品は、全国各地の販売会で販売し、売上全額を
作った方個人に還元します。



仮設住宅で編んでいます
仮設の談話室で談笑しながら、
編み物中。三陸沿岸でこんな輪が
広がっています。



ニットでハートをつなごう

ご不要になった
毛糸(未使用)、編み棒、
かぎ針を
随時募集して
おります！



たくさん届きました
毛糸をお寄せくださいと呼びかけたところ、予想を上回る大量の毛糸が集まりました！



被災地へお届けします
集まった毛糸に編み棒(かぎ針)を合わせてキットを作り、被災された方々にお届けしました。



皆様の作品を販売します

スキーシーンで活躍する帽子、手袋、ヘアバンド、ネックウォーマーなど、ウインターアイテムもたくさん完成しました。

♥私たちは今回の震災で、避難所で生活をなさっているご婦人たちが、編み物をする事で、少しでも心が癒されれば？と思い、このプロジェクトを始めました。まず、材料となる毛糸の提供を、スキー仲間のブログや友人へのメールで呼びかけたところ、予想をおおいに上回る量の毛糸が全国・海外からも届き、避難所にお届けに伺いました。

♥避難所から仮設住宅へ移られた被災地の女性は、今、お年寄りから若い方まで、自ら立ち上がり経済活動へと動き出しています。ハートニットはそのお手伝いできたらと各地で販売会を開いています。

ハート・ニットプロジェクト

岩手県盛岡市大通 3-11-1 旭ビル1F スポーツデスク内 TEL 019-625-1993

活動ブログはこちら▶▶▶ <http://sportsdesk-skiclub.dreamlog.jp/>



Heart_Knit



Facebook ハート・ニットプロジェクト

避難所でお越しの皆さま、ボランティアの方々が、 編んでくださった作品です。

ハートニットプロジェクトとは？

日本全国、アメリカからもお届け頂いた、たくさんの毛糸を、
3.11東日本大震災被災地の方たちにお届けし、
編み物をする事で少しでも心が癒されればと、私たちは願っています。
すべてがハンドメイドの作品を販売し、売上金額を作って下さった被災者の方へ
お渡しすることを目的としたプロジェクトです。
それが「HEART KNIT」です。



thanks

たくさん届きました

毛糸を欲しいとスキー仲間呼びかけ
たところ、予想をおおいに上回る量の
毛糸が全国・海外からも届きました。



♥私たちは今回の震災で、避難所
で生活をなさっているご婦人た
ちが、編み物をする事で、少し
でも心が癒されれば？と思い、この
プロジェクトを始めました。まず、
材料となる毛糸の提供を、スキー
仲間呼びかけたところ、予想を
おおいに上回る量の毛糸が全国・
海外からも届き、避難所にお届け
に伺いました。

♥熱心に避難所で編んでおられる
方々に、少し経済活動のお手伝い
が出来たらと、編み上がった作品
を販売する企画を立ち上げまし
た。また、この企画に賛同して下
さったボランティアの方達も一緒
に編みたいと、共同でたくさんの
作品を編んでくださいました。

♥これらの売上金は、編んでくだ
さった被災者の方々に全額お渡し
いたします。

皆さまの
作品を販売
します



HEART KNIT

ニットでハートをつなごう

action

お届けに伺いました

毛糸と編み棒をキットにして、大槌
の避難所にお届けに行ったときで
す。男の子も「オレもやってみ
る！」と指編みのキットを嬉しそう
に抱えていました。



Connect our
hearts together
with the knit-
"Heart Knit" project

knitting

編んでいます

2度目の大船渡訪問。前にお配りした毛糸
で可愛い小物入れが沢山編み上がって
いて、「毎日編んでたよ」って仰って下
さいました。山田では炊き出しを兼
ねてお寄りしました。お配りする
なりみなさん楽しそうに編み始
められ、炊き出しが終わった頃
には、それらしき形になっていま
した。



knit cafe

ニットカフェ

大船渡でのニットカフェ。繋温泉
・鶯宿温泉の避難所の他、ボ
ランティアが盛岡・東京でも開
催しています。



ご不要になった
毛糸、編み棒を随時
募集しております！

スキーシーンで活躍の、帽子、手袋、ヘアバンド、
ネックウォーマーなど、ウインターアイテムがた
くさん完成しました。詳しくは下記のサイトまで。

<http://sportsdesk-skiclub.dreamlog.jp/>

ハート・ニットプロジェクト

岩手県盛岡市大通 3-11-1 旭ビル1F スポーツデスク内 TEL 019-625-1993

活動ブログはこちら▶▶▶ <http://sportsdesk-skiclub.dreamlog.jp/>



盛岡市ボランティア連絡協議会

1 組織

盛岡市ボランティア連絡協議会(以下「ボラ連」)は、盛岡市内で活動をしているボランティア活動の健全な発展と相互の連絡・協調・情報・親睦を図ると共に、盛岡市民のボランティア活動に対する意識の高揚と円滑なる実践活動を積極的に推進することを目的としています。活動内容としては、ボランティアまつり「ふれあい広場」の開催、情報交換会などを行っています。現在は、110団体、9,740名ほどの会員が、様々なボランティア活動を行っています。

2 東日本大震災への対応

震災に伴って、ボラ連コーディネートセンター設置。ボラ連内のボランティア活動に関する情報収集、情報提供、ボランティア活動に係る調整を行いました。活動内容は、次の通り。

(1)アピオでの個人物資の受付、仕分け (5月から7月上旬)

岩手県地域福祉課の依頼で、アピオに設置した個人物資の仕分け、個人ボランティアからの電話受けと、仕分けした物資を沿岸の仮設住宅へ届ける活動を行いました。

(2)ボランティアバスのボランティアリーダー(4月~8月)

盛岡市社会福祉協議会が運行したボランティアバスにボランティアリーダーとして参加。のべ47名の方に協力をさせていただきました。

(3)宮古市内仮設住宅集会所のサロン支援(11月、12月)

宮古市生活復興支援センターで行っている、仮設住宅でのサロン活動に、ボラ連も各団体の特技を活かした支援を行いました。

活動日時 11月26日と12月3日

内容 マジック披露、子供との遊び、軍手を使った指人形作り、傾聴など

3 ボランティアまつり ふれあい広場(9月)

毎年盛岡市内で行っているボランティアまつりを、東日本大震災による被害を受けた方々のくらしの復興の実現を支援するために、山田町でふれあい広場を開催しました。今回は、財団法人盛岡国際交流協会が開催する「世界の屋台村」と共同で開催しました。天候にも恵まれ、多くの方に参加していただき、山田町のみなさんに喜んでいただきました。

参加団体 18団体 88名

連絡先

盛岡市ボランティア連絡協議会

盛岡市若園町2-2 電話 019-651-1000(盛岡市社会福祉協議会内) FAX019-622-4999

震災復興への取組みについて

団 体 名	岩手県商工会議所連合会	電 話	019 (624) 5880 (県連次長 佐藤 誠司)
震災復興への 対応・取組	<p>【企業・団体の本来の活動として】</p> <p>① 被災県内商工会議所支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害復興対策本部の設置について ※会議所支援委員会と会員支援委員会 ・内陸部の会議所と沿岸会議所の横軸連携復興対策本部の立ち上げ ・被災会議所訪問と緊急支援物資運搬（3月30日、4月8日、4月20日） <p>② 横軸支援（職員派遣と物的支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮古⇄盛岡（窓口相談業務支援） ・釜石⇄北上（データ整理、電算システム等立上げ支援） ・携帯電話 パソコン 印刷機 事務用品 自転車、バイク <p>③ 要望活動</p> <p>国、県、市、日商に対して県連合会として要望</p> <p>④ 岩手県産業復興相談センターの設立（東北被災3県の中で最速）</p> <p>窓口相談から再生支援まで一貫した支援体制を確立させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月30日 県中小企業再生支援協議会内に「岩手県産業復興相談センター」を設置、地元地域金融機関や全国銀行協会等の外部団体、外部支援機関等から、専門家の派遣を受け入れ、被災事業者からの相談を受け付ける体制を構築。 <p>また、被災沿岸部の商工会議所（久慈・宮古・釜石・大船渡）、商工会（洋野町・野田村・普代・田野畑村・岩泉・山田町・大槌・陸前高田）に「産業復興相談センター事務所を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月3日 事務所の開所式を開催 ・10月7日 実際に相談業務を開始 ・10月7～26日現在の相談件数は、124件。 （内訳 来所件数67件、電話相談26件、訪問3件） <p>⑤ 債権買取等を行う「岩手県産業復興機構」の設立支援</p> <p>出資総額（想定）500億円（中小企業基盤整備機構8割、県内金融機関及び県2割）</p>		
	<p>【社会貢献活動として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地への訪問イベントや盛岡市内での支援イベントの開催による支援 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡商工会議所による会員事業所対象の義援金募集 ・日本商工会議所、仙台商工会議所と連携による遊休機械無償支援PJ （第1号 宮古商工会議所管内7事業所へ機械設備28台の無償提供） ・県内経済5団体による岩手県への平成28年度岩手国体について開催要望 		



写真：伊藤大輔氏撮影

特集

**仮設住宅ぐらし
仮であれ楽しい我が**

「仮設のトリセツ」
とは

仮設住宅に住む人々、その生活の現状や、仮設住宅の役割、そして仮設住宅に住む人々の心構えについて、取材した。仮設住宅に住む人々の生活の現状や、仮設住宅の役割、そして仮設住宅に住む人々の心構えについて、取材した。

「仮設住宅に住む人々、その生活の現状や、仮設住宅の役割、そして仮設住宅に住む人々の心構えについて、取材した。仮設住宅に住む人々の生活の現状や、仮設住宅の役割、そして仮設住宅に住む人々の心構えについて、取材した。」

01



わいわい新聞
人と人との心をつなぐ
コミュニティ新聞

人と人との心をつなぐ
コミュニティ新聞

02



わいわい新聞
人と人との心をつなぐ
コミュニティ新聞

人と人との心をつなぐ
コミュニティ新聞

特集

**「仮設住宅ぐらしの健康」
「仮設住宅ぐらしの健康」**

「仮設住宅ぐらしの健康」
「仮設住宅ぐらしの健康」



1

「仮設住宅ぐらしの健康」
「仮設住宅ぐらしの健康」

「仮設住宅ぐらしの健康」
「仮設住宅ぐらしの健康」

- 1 特集「仮設住宅ぐらしの健康」
- 4 「わいわい」
- 6 「わいわい」
- 8 連載「仮設住宅ぐらしの健康」

「わいわい」
「わいわい」

ワークショップ

いわて三陸復興のかけ橋

～新しき明日へ向かって～

2011年12月18日(日) 11:00～

会場 岩手県立大学宮古短期大学部

参加者募集
(参加費無料)

講師 平田 オリザ 氏

東日本大震災津波から9カ月が経過し、国内外、県内外から多くの皆様からの支援を得ながら懸命に復旧・復興に向けた取組みが進められています。この動きをさらに大きく広げていくには、支援を受ける側も支援を裏切るものとしていく工夫が必要になります。

本ワークショップでは、「自立性を回復する、自ら考え判断する、地域社会のつながりを養う」をキーワードにして、講演とワークショップを通じて「どのようにして支援を裏切るものとするか」を再確認し、また、真の復興につながる素材も発見していきたいと考えています。

第1回ワークショップ

日時 2011年12月18日(日)11:00～

会場 岩手県立大学 宮古短期大学部

プログラム 主催者挨拶 岩手県立大学 理事長 相澤 徹

講演 ■「いわて三陸 復興のかけ橋 ～新しき明日へ向かって～(仮)」(20分)

岩手県知事 達増 拓也

■「新しい広場を作る」(60分)

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授 平田 オリザ 氏

講演定員

200名

ワークショップ(13:00～16:00)「イメージを共有するために」

※ 現在、地域づくり・復興に携わっている方、携わって見たい方大歓迎

ワークショップ

定員 30名
程度

第2回ワークショップ

日時 2012年2月中旬(予定)

会場 沿岸南部で調整中

※平田オリザ氏による講演・ワークショップを予定しています。

お問合せ

いわて未来づくり機構・公募型復興企画推進作業部会事務局(岩手県立大学地域連携室内)

〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-89

電話 019-694-3330 ファックス 019-694-3331

メール workshop@iwatemirai.com URL <http://iwatemirai.com/fukkou/>

<主催>いわて未来づくり機構、岩手県立大学、(財)さんりく基金

<後援>岩手県、岩手大学、岩手県商工会議所連合会、(社)岩手経済同友会(依頼中)

■ **申し込み方法** 郵送、ファックス、メールまたはホームページからお申込みください。

郵 送 〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-89 岩手県立大学地域連携室内

いわて未来づくり機構・公募型復興企画推進作業部会事務局

ファックス 019-694-3331

メー ル workshop@iwatemirai.com

ホームページ <http://www.iwatemirai.com/workshop/>

※ メールの場合は申込書の内容を記入してください。

■ **申し込み締め切り**

平成 23 年 12 月 14 日 (水)

※ 講演、ワークショップとも定員を超過した場合には、参加者の調整をさせていただきますのでご了承ください。

定員を超過した際の連絡は 12 月 14 日 (水)

までに行います。

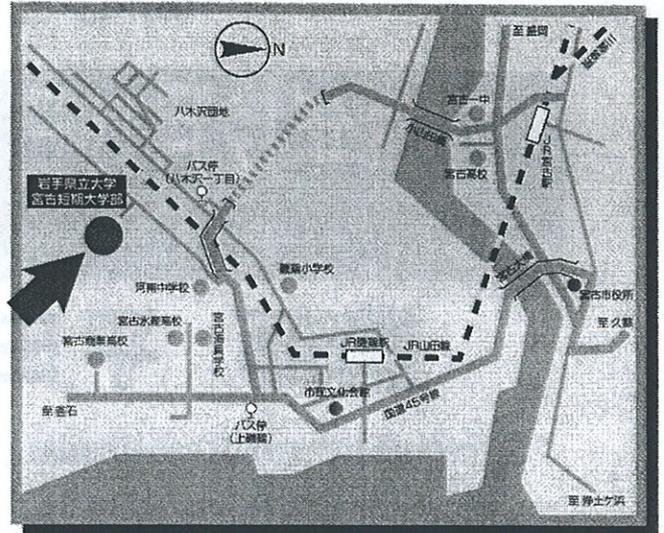
■ **会場へのアクセス**

岩手県立大学宮古短期大学部

住所 宮古市河南 1-5-1

電話 0193-64-2230

アクセスマップ



講師 平田 オリザ 氏 プロフィール

1962 年東京生まれ。劇作家・演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督、(公財)舞台芸術財団演劇人会議理事長(財)地域創造理事、三省堂小学校国語教科書編集委員、文部科学省コミュニケーション教育推進会議委員(座長)ほか。1995 年『東京ノート』で第 39 回岸田國土戯曲賞受賞。2003 年『その河をこえて、五月』で第 2 回朝日舞台芸術賞グランプリ受賞。フランスを中心に世界各国で作品が上演・出版されている。2002 年以降、国語教科書にも採用された平田のワークショップの方法論に基づき、年間 30 万人以上の子供たちが教室で演劇を創作している。

講演・ワークショップ参加申込書

お名前	ご所属 (お住まい市町村名)	参加希望
	()	講演・ワークショップ
	()	講演・ワークショップ
	()	講演・ワークショップ
代表者連絡先	(電話)	
	(メールアドレス)	

ニーズ型 アイデアを公募 企画提案型



公募型復興企画の実施に向け意見を交わした作業部会

いわて未来づくり 復興企画実施へ 機構・作業部会

豊かな郷土づくりを目指す産学官連携組織「いわて未来づくり機構」は、県内外から広く復興に関する提案を募集し、実現を目指す「いわて公募型復興企画(仮称)」を実施する。被災地からは直面している課題、県内外の民間業者などからは課題を基にした未来を見据えた展望などを公募。同機構がコーディネーター役を務め、それぞれ解決に向けたマッチングを行う。12月中旬から募集開始の予定で、広くアイデアを募って復興を推進していく。

同機構では、7月の総会で同企画の実施に向けた作業部会の設置を決め、準備を進めてきた。県内外の有識者7人で構成される作業部会(座長・相澤徹(県立大学長))の、実質的な初会合は18日に盛岡市内で開かれた。同企画の進め方などについて協議。この中で、ニーズ型と企画提案型の二つに分けて公募していくこととした。ニーズ型は被災地で直面している課題などを解決することを目指すもの。比較的小規模な支援を想定している。インターネット上に専用の公募サイトを開設し、マッチングを行う

いく。県内の沿岸市町村に住所(主たる事務所)を置く法人や団体、グループ、個人事業者がニーズ

を登録。これに対して県内外(国内外)の法人や団体などが支援の申し出を行う。支援側からの申し出が先でも可。海外からの支援も想定し、英語、中国語による登録も可能とする。

企画提案型は、支援側から長期的な展望に立った課題解決策を募る。応募のあった提案はサイト上でブラッシュアップ(磨きを掛ける)意見を募る一方、部会でも解決

の可能性などについて検討した上で、マッチングの相手を探していく。委員からは「相手が見つけられずに宙ぶらりんになったときの対応が重要。できないならできない理由を明らかにしなければ信頼性を失う」「ちよっとしたアイデアも取り入れていくことが必要」などという意見が寄せられた。

事務局では今回の意見を踏まえてさらに検討を

加えた上で、企画の名称も含めて月内に実施方針をまとめる。来月18日にはキックオフイベントとして宮古市でワークショップを開催。これと合わせてホームページを開設し、公募を開始する。

岩手日日(平成23年11月19日付)
(転載許可済)

いわて生活者サポートセンターの業務内容について

NPO法人いわて生活者サポートセンター 藤澤俊樹

1 いわて生活者サポートセンターとは

(1) 信用生協との関係

① 基本的関係

信用生協:多重債務等お金のトラブルの経済・法律面の解決支援

サポートセンター:多重債務等の原因となっている問題、多重債務等から派生している問題(心の問題)の解決支援

⇒目的は、ともに「家計の再建」

②その他の役割分担

- ・ 信用生協における相談に必要な調査・研究事業
生活困窮世帯の家計調査(別添)、公募型地域課題研究など
- ・ 信用生協における相談に必要なツールの開発等
お金の悩みホットライン相談マニュアル、資金需要ガイドライン、生活のいろいろな場面で使える各種の制度、経済的事由での自殺防止を目指したスクリーニングツール、あなたもゲートキーパー
- ・ 補助、委託事業の共同実施等
社会福祉推進事業、自殺防止対策事業、多重債務者等生活再建モデル事業、生活再建事業、パーソナルサポート事業
- ・ 家計診断
- ・ 就労問題がある相談の(信用生協からの)引継ぎ
- ・ 継続的支援の必要のある相談者の(信用生協からの)引継ぎ

(2) センター数、スタッフ数等

センター:盛岡、北上、釜石

スタッフ:盛岡(相談員2、事務1)、北上(相談員1)、釜石(相談員1)

いずれも信用生協相談センター内に存置

本年4月からパーソナルサポート事業を受託、「これからの暮らし仕事支援室」を盛岡市菜園に設置(職員6名)

(3) これまで取り組んできた具体的事業内容

ア 「心の悩み相談」:ギャンブル依存症等を対象としたカウンセリング等

ギャンブル依存症:心因性の進行性の病気 参照:別添冊子

診断法:DSM-IV等を基にしたチェックリスト

ギャンブル依存症の症状:コントロールの喪失

渴望

耐性の増大

対処法:抗うつ剤のような薬は開発されていない

⇒カウンセリングが唯一の治療法とされている

ギャンブル依存症は本人のみの問題にとどまらない

⇒共依存の問題

対象	頻度	参加状況
本人向けグループカウンセリング	月2回(盛岡第2,4木曜日、北上第2,4月曜日) 午後6時から(盛岡は6時半)	1回当たり2~5名
家族向け勉強会	月1回(盛岡第3木曜日、北上第3月曜日) 時間は本人向けと同じ	1回当たり3~10名
個別カウンセリング (本人、家族対象)	随時	月3~5名

ファシリテーターは、当初精神科医、現在は産業カウンセラー

※今年度の課題は、ギャンブル依存症と発達障害の問題。

⇒発達障害の問題を抱えた方に対しては、従来の「底つき体験」アプローチが意味を成さない。したがって、独自のプログラムを作らなければならない。

※発達障害:低IQの問題でなく、大人になってからの高IQの方の問題(アスペルガー、AD・HD, PDD, 自閉症スペクトラム)

イ「家族の悩み相談」:DV, 子供の虐待等の相談

DV:随時対応(以前はシェルターも設置)

子どもの権利擁護:弁護士会と連携し、月1回相談日を設けていたが、相談件数が低調なため、現在は随時対応に変わっている。

ウ「くらしの再建・自立支援」:生活自立支援資金(貸付;プロパー事業)⇒30万以内
配偶者暴力被害者自立支援事業(贈与;県委託事業)
⇒8万程度

エ 家計診断:2種類(簡易型、ライフイベントを踏まえてのキャッシュフローつきのもの)のソフトを使つての診断

オ 緊急支援資金:他の資金で手当てできないときの緊急資金貸付(1万円を限度)

要件	各制度の対象にならないあるいは資金交付まで時間がかかる場合 当該事情について1次的に相談を受けた機関の確認書があること 今後の生活の見通しが立つこと
----	--

カ 家計サポートセミナー

背景:相談者の中に生活の仕方自体が分からない人が一定程度含まれていること。

目的:生きていくことに関する基礎知識(食、料理を含み)の習得と金銭管理リテラシーの向上

2 くらしとお金の安心支援事業

(1)背景

多重債務相談の減少と生活困窮相談の増加

債務整理後も生活再建が困難になっている家庭の増加

相談機関のたらいまわしによる相談の2次被害の発生

(2)理論的背景

社会的排除(社会的包摂)理論

(3)目的

真の家計再建に向けた支援

相談の2次被害の防止

社会的包摂を通じた地域活性化

(4)イメージ

駆け込み寺

寄り添う相談

ハーティサポート(愛称)

(5)事務の流れ

相談(ニーズ、収入、家族関係等の聞き取り)

↓

可能性の一番高い制度の案内(別添資料:制度一覧参照)

↓

申請への同行

↓

何らかの制度の確実な利用(家計診断)

↓

生活再建

(6)事業のフレームワーク

コーディネート:盛岡市消費生活センター

実際の相談:サポートセンター

連携機関:盛岡市地域福祉課、生活福祉課、児童福祉課、盛岡市社会福祉協議会、東北労金、マイム、信用生協(現在は県内全域に拡大)

(7)相談概況

平成21年2月に事業開始以来、相談件数1,036件

3 くらしとお金の安心支援事業相談事例の紹介

(1)自立支援型

68歳女性、息子と二人暮らしをしていたが、酒を飲んでの息子の暴言が原因で妹の家に身を寄せた。妹のうちにいつまでもいるわけにも行かず、生活保護を受け、自立することに。
アパートの斡旋(生活保護に便宜を図ってくれる業者有り)、生活自立資金支援(8万円程度:家電品等購入)により、アパートでの1人暮らしを開始。アパート探し、生活保護の申請にも同行し、手続きの円滑な進捗を支援。
明るい声で、転居完了の報告有り。保護の決定。

39歳男性。母、兄との3人暮らし。失恋、失職、借金、家族との関係断絶(当初は家族によるネグレクトを主張)により、生活保護を受け、自立することを計画。
相談の過程で、精神的に通常でない状況も見られたため、市センター、県精神保健福祉センター、サポートセンターの3者で連携サポート体制を構築。最初は名前さえ乗らず、対人恐怖症的なところも有り、「こころ」を開かせることに3度ほど相談機会が必要だった。自分はこの世の中に生きていく価値がないと繰り返すも、借金については、扶助で破産(途中相談が発生し、任意整理に変

更)、アパート探し、保護の申請(同行)、緊急支援資金、信用生協職員による物品カンパ等により、アパート生活を開始。精神科医師の診断・治療も併行させながら、就職活動のコーディネートと精神的なケアを各機関で分担した。

その後、社会とのこれまでの紐帯は一切断ち切ったとの理由から、一時は毎日のように相談(雑談)に来ていたが、半年ほどして、自立に向け課題を与え始めたところ、来所の間隔があくようになる。不眠(?)と不安の大きさを理由に、再度精神病院で診断(同行)。入院生活となる。退院に向けたカンファレンスに小職も参加。医師、看護師、親族とともに目標設定とそれに向けた課題克服に向け検討を重ねている。

薬の処方は何度も変え、状況が好転。7ヶ月の入院を経て、退院。その後も毎月カンファレンスを継続。最初の数ヶ月はかたくななところがあったが、現在は体調もよく、基金訓練に通ってパソコン技術を勉強している。

60歳男性。中卒後、関東地方で就職。瓦職人として生活を営んでいたが、手首を負傷し、仕事継続を断念。東京で生活保護受給を開始したが、いわゆる貧困ビジネスにひっかかり、保護費の大半を巻き上げられる状況に嫌気をさし、郷里である岩手県に戻る。就職活動もままならず、盛岡で路上生活に。

岩手県立大学ボランティアチームの食糧支援の際、学生から相談を依頼され、生活保護を受給について相談。本人に受給の意思があったことから、申請に同行、アパート探し、必要な物品の調達等を経て、アパート生活開始。

当面手首の治療を最優先し、その後就職活動に専念する予定。

現在は、背中への痛みにも襲われ、静養しながら、からだの治療を優先させている。

自分も支援を受けていた活動に参加。他の路上生活者の自立の支援も行っている。

(2)生活破綻型

52歳男性、もと公務員、ギャンブル等を原因に借金を重ね、多重債務化。離婚後、在職中に民事再生の手続きをとるとも、個人借り等を再生手続きに乗せなかったため、その清算のために退職。

すぐに就職して住宅ローンを払うつもりが、1年以上無職の状態が続き、自宅競売、昨年1月に所持金50円ほどになったところで来所。相談中も首をつるしかないと自殺を口走る。

生活保護申請に同行し、その後、緊急支援資金、助け合い資金を経て、保護決定。

精神的にも就職活動に専念できる状況が生まれ、4月に就職決定。

「相談に来ていなければ、今頃自分はこの世からいなくなっていたかもしれない」との感想。

(3)たらいまわし型

46歳男性。仙台で派遣切りに会う。東京の会社から就職の内定をもらうが、東京で生活を始める資金(旅費、アパートの敷・礼金、給料日までの生活費)がなく、仙台のハローワーク、ろうきん、社協等に相談。いずれも門前払いをくらい、住民票のある盛岡に戻り、相談にいたる。

離職者向けの各制度を説明し、相談への橋渡しを行い、盛岡のろうきんで、離職者対策資金貸付金の融資を受けられることに。

(4)ポータルサイト型

39歳男性。同居の父親と仲たがいで、八戸から盛岡へ転居。20年来気分障害をわずらう。精神1級。手帳有り。年金を浪費し、資金不足をきたしたため、盛岡市社協へ相談。「うちは時間がかかるから」との理由でサポートセンターへ回付。状況聞き取りから、総合的な支援が必要と判断。盛岡市保健所へ同行。保健師から精神障害者が受けられるサービスについて説明を受ける。通院先を当方の紹介で決定。初回診察同行。盛岡市障害福祉課の手続にも動向。これからのくらし支援室で就職セミナー等を受講。頸椎の障害を当方が紹介した整形外科医で発見。岩手医大を受診するも手術まで時間がかかることから、北海道の病院を選択。医療費として50万円信用生協から貸付。現在入院中。

4 自殺対策事業

(1)経済的事由での自殺防止を目指したスクリーニングツール開発

① 背景

消費生活の場面での自殺問題が登場する回数の増加

実際に自殺問題が発生した場合の相談員への影響の甚大さ

消費生活相談員の自殺問題に対する無知・忌避的態度

経済的・生活問題での自殺の増加

② 目的

経済・生活問題での自殺の防止

消費生活相談員のメンタルヘルスの維持

消費生活相談と医療保健分野との連携の強化

③ 成果品:添付のとおり

④ 効果

消費生活相談員の自殺問題に関する知識の向上

消費生活相談の場面での自殺問題の顕在化(正面から取り組めるようになる)

消費生活相談と医療保健分野との間での連携の萌芽

⇒県庁くらしの安全課から県民生活センター、各振興局向け文書施行

県庁障がい保健福祉課から各保健所への文書施行

↓

県組織2系統でのツール活用の促進体制の構築

⑤ 現状:該当者が5割を超す状況

⑥ 課題:疫学的検証の必要性

判断基準の再検討

受診勧奨のツール

活用の促進

(2)お金の悩みホットライン(事業主体:信用生協)

① 背景

貧困問題の拡大

経済・生活問題での自殺の増加

夜間に経済的な問題について相談できる機関の少なさ

② 目的

相談(電話)費用の心配なく相談出来る機会の提供

夜間でも話をじっくり出来る相談機会の提供(夜9時まで受付)

適切な機関等への誘導(医療保健アプローチの活用)

経済・生活問題での自殺防止

5 パーソナルサポート事業:今年度より岩手県から受託

(1)背景

- パーソナルサポートとくらしとお金の安心支援事業の親近性
- くらしとお金の安心支援事業における就職関係の連携の弱さ

(2)イメージ

寄り添い、伴走
専門知識を持った友人
制度横断
社会的包摂

(3)相談手法

インテーク面接
↓
ケース会議(AB)
↓
支援プランの決定
↓
プランに基づいた同行援助
↓
就職活動のスタートラインへ
↓
就職支援ナビゲーターへの引渡し
↓
家計管理、就労継続のための相談

(4)4月以来の利用者 2500名超

6 近時の相談に見られる特徴とその解消に向けた課題

(1) 多重債務から貧困の問題へ、社会的排除から社会的包摂の考え方へ

- ⇒福祉分野との連携の必要性(金銭管理リテラシー、家計管理能力の向上も課題)
援助技術等の習熟
- ⇒岩手県立大学と新たな支援モデルの構築に向け共同研究を実施中(2年間)

(2) 精神疾患を患った消費生活の相談者の増加

- ⇒相談者にとっては、担当する機関が異なる問題であってもどれも自分が抱え、悩んでいる1人の人間に起きている問題
- ⇒医療・保健・福祉分野との連携の必要性(岩手医大精神科を始め精神科病院との連携は拡大している。また共同研究で組織した勉強会メンバーを通じ、ACTなどの技法についても習熟出来るよう取り組みしている)

(3) 「新来談者中心アプローチ」の相談スタイルの確立

お困りごとで

体調を崩しておられませんか？

心身のストレスチェックをしましょう！！

この質問項目は、相談にこられた方の心身の状態を把握するものです。

御協力いただける方は、本用紙に記入をお願いします。

記入いただいたデータは、本用紙を開発したNPO法人いわて生活者サポートセンターに提供され、個人が特定されないかたちで、統計等の分析に使わせていただく場合があります。

氏名		年齢	性別	仕事
	歳		1. 男 2. 女	1. 有り 2. 無し

【1】はじめに以下の5つの質問にお答えください

- 1 最近、仕事を失いましたか。 1. はい 2. いいえ
- 2 最近、経済的に破綻しましたか。 1. はい 2. いいえ
- 3 現在抱えている経済的な問題は、自分の手には負えないくらい大きなものですか。 1. はい 2. いいえ
- 4 その問題について、絶望感、恐怖感を感じていますか。 1. はい 2. いいえ
- 5 経済的な悩み事に関し、相談できる相手はいますか。 1. はい 2. いいえ

【2】次に以下の6つの質問にお答えください (ここ30日以内について)

番号	質問項目	0 全くない	1 少しだけ	2 ときどき	3 たいてい	4 (点) いつも
1	神経過敏に感じましたか。					
2	絶望的だと感じましたか。					
3	そわそわ、落ち着きなく感じましたか。					
4	気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか。					
5	何をするにも骨折りだと感じましたか。					
6	自分は価値のない人間だと感じましたか。					
						合計
						点

【3】最後に以下の9つの質問にお答えください。

- 1 今も苦痛と感じるほどのいじめや、暴力などの体験が過去にありますか。
1. はい 2. いいえ

- 2 最近、親しい人や大切な人を失いましたか。 1. はい 2. いいえ

- 3 ご親族に、何らかの事情で自殺された方はいらっしゃいますか。
1. はい 2. いいえ

- 4 精神的な面で治療を受けていますか。 1. はい 2. いいえ

- 5 慢性的な疾患があり悩んでいますか。 1. はい 2. いいえ

- 6 現在抱えている悩みで、眠られない状態が2週間ぐらい続いていますか。
1. はい 2. いいえ

- 7 過去に自分を傷つけたり、自殺を図ったことがありますか。
1. はい 2. いいえ

- 8 死んでしまいたいという考えが持続していますか。
1. はい 2. いいえ

- 9 自殺をする具体的な計画がありますか。 1. はい 2. いいえ

その他不安に感じていることがあれば、
なんでも自由にお書きください



御記入ありがとうございました。気になることがおありになれば、いつでもお気軽に相談してください。

ずっといっしょだから
安心して!



これからのくらしと 仕事をサポートします

一人より二人の方が
心強いよ!



これからのくらし仕事支援室は、あなたや家族が抱える、くらし、仕事、お金、こころ、生きることに関する、苦しみ、悲しみを分かち合い、あなたの気持ちにより添って、よき友としてそれらの解決を目指すところです。岩手県から委託を受けて、ハローワークと連携しながら、NPO法人いわて生活者サポートセンターが運営しています。

くらしが
きつい

経済的に
たいへん

毎日が
つらい

仕事が
見つからない

生きる
望みがない

一人で
さみしい

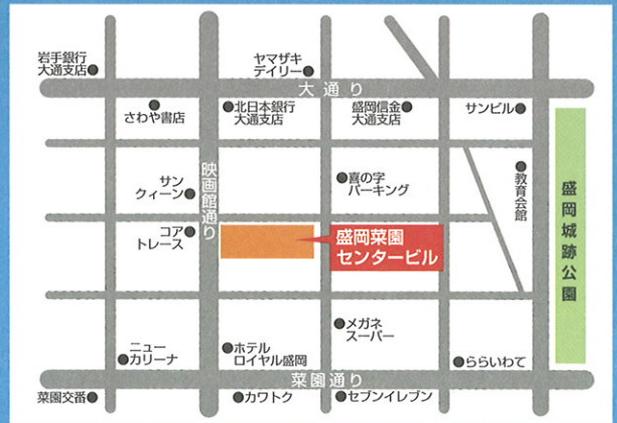
困りごとが
解決しない

どうしたら
いいか
わからない

コレクラと
ハローワークの
専門支援員が
2人3脚で
サポートします



相談無料・秘密厳守します。
専門支援員が対応します。
安心してご利用ください。



ウェブサイト <http://korekura.jp/>
メール info@korekura.jp

携帯サイト
はこちら



ご相談はこちらへ

岩手県委託 いわて求職者個別支援モデル事業

これからのくらし仕事支援室

コレクラ
korekura

〒020-0024

盛岡市菜園一丁目12-18 盛岡菜園センタービル5F
開所時間/月～金曜日 10時～17時

TEL 019-626-1215 FAX 019-625-1545

職業相談連携先

ハローワーク盛岡 個別支援相談窓口

〒020-0024

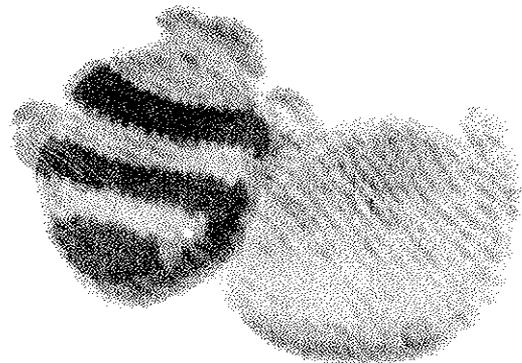
盛岡市菜園一丁目12-18
盛岡菜園センタービル2F
職業訓練修了者等就職支援室内

TEL 019-606-2256
FAX 019-908-2062

開所時間/月～金曜日 8時30分～17時

アクリルたわしの普及・被災地支援事業として、みんなで地道に&ハートフルに活動しています。

ちーむ☆ れいんぼう



サカナの形のめんけえ (=かわいい) アクリルたわし

大抵の汚れは水&アクリルたわしで落ちるので洗剤いらず。
界面活性剤入りの合成洗剤を使わずに済むので、
川の水を汚さず、赤ちゃんにもやさしいエコたわし☆

(しつこい油污れは古布で拭き取ったり、
牛乳パックの切れ端をヘラ代わりに使ってざっと落としてから、
石けんを少したわしにつけて洗うだけでピカピカに)

台所もお風呂も洗面所の汚れも、
このアクリルたわしでお掃除できちゃいます♪

きれいな海と川を夢見て、
たわしザカナはあなたのおうちで大活躍することまちがいないし！



*作る

環境学習交流センターでの
「アクリルたわし講座」ほか、
被災地や県内イベント、
出張講座などでみんなで一緒に
『作る』活動をしています。



*広める

水や洗剤にまつわるお話や
アクリルたわしの使用方法・
効果などを伝えることで
水の保全活動につなげています。



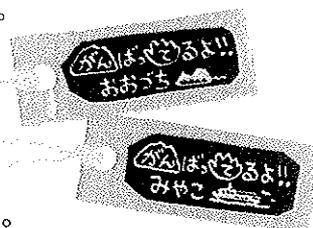
*買ってもらう

出張環境学習会などで
販売を行っています。
アクリルたわしの売り上げは
被災地支援として
沿岸各地へお渡しします。



私たちと一緒にたわしを編みませんか？

ちーむ☆れいんぼうでは、一緒にたわしを編んでくれる方を随時募集しています。
最初は自分用に、うまくいって沢山編めたら支援用に...と自由に取り組んでいただければと思います。
初心者でももちろん大丈夫です。センター職員や講師が手取り足取り楽しくサポートします。
また、被災地の方や県内の団体の方で「たわしを編みたい」という方も募集中です。
出前講座などしておりますので、お気軽にお問合せください。



ちーむ☆れいんぼうの活動の詳細については、下記までお問合せください。

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1 アイーナ5F 環境学習交流センター
TEL: 019-606-1752 FAX: 019-606-1753 E-mail: eco@aiina.jp
担当: 田近 (10:00 ~ 18:00)

被災地支援の活動の報告

3・11に発生した東日本大震災後、環境学習交流センター業務の沿岸への出張や活動は今年度はほぼ見込めない状況でしたが、被災地への支援活動としてむしろ積極的に展開を図りました。

流域支援活動として、三陸エコビジョンフォーラムの実行委員会に参加し、県内外の環境NPO・災害支援NGOとともに検討を重ねてきています。また、出張環境学習講座として、避難所等へアクリルたわし講座や、避難所と校舎を分けながら再開した小学校で、



岩手大学の高木先生の声かけで実現した、自転車発電機での体験学習などを行ってきました。

9月4日に遠野あえりあにおいて、三陸エコビジョンプレフォーラムとして、三陸ゆかりの研究者や気仙沼市唐桑町の畠山重篤さんらの講演や提言、パネルディスカッションを行いました。

この中で、パネリストの白澤良一さんから、大槌の津波後の状況、ガレキが撤去されて現れたのは、子どもの頃遊んだ風景であり、砂浜、防潮林、波打ち際、磯があり、かつてそこは巨大なジオトープであり、生き物の宝庫だった。

まちづくりはリセットの時代で、自然をないがしろにしてきた人間の奢りが災害を悲惨なものにしている。まちづくり、開発をする人も気づかなければならない、というお話が象徴的でもあり、深く印象に残りました。

11月23日には、再生可能エネルギーのテーマで映画会と飯田哲也さんの講演及び12月9日～11日の3日間にわたるフォーラムを行います。

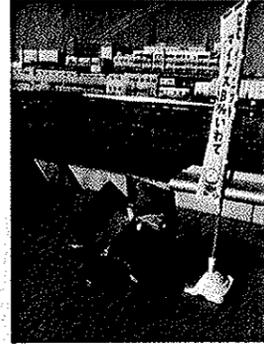
この震災以降、全国のNPO・NGOとの連携も数多く実現してきました。

災害時における分散型エネルギーとして震災直後、燃料不足で車の通行はほとんど途絶えた中、BDF施設はフル稼働し、支援物資を積んだトラックが沿岸と内陸を往復しました。今後、いわてバイオディーゼル燃料ネットワークと連携して、さらに活動を拡大し、BDFの利用も拡大していきます。

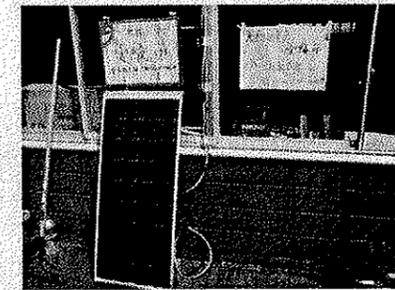
大槌町の吉里吉里小学校では、遠野農林振興セン

ターやNPOが連携し、被災地でのガレキから薪をつくり燃料にした薪ボイラーで、お風呂や洗面、調理のために給湯を行いました。その後、地元でNPOが生まれ「復活の薪」として全国に販売を始めました、ガレキだけでなく、間伐材からの薪の生産を始めています。

太陽熱に関して、ソーラーッキング友の会横浜ジャパン様よりソーラークッカー2台をご提供いただき、被災された地球温暖化防止活動推進員さんに使っていただきました。



また、太陽光発電を普及する全国規模のNPO法人太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)様より、ベランダ太陽光発電キットをご提供いただき、直接、盛岡までおいでいただき調整していただきました。その後、県内の被災された推進員さんにお届けして、学校等で教材として活用いただいております。PV-Net様は、岩手県内では、宮古市において、太陽光発電



電を取り付けられた家庭での被害状況や停電時の自立運転の状況の調査を行っております。

3月27日遠野市社会福祉協議会において、地元のNPOと神戸や静岡の団体が集結し、遠野被災地支援ボランティアネットワークとして遠野まごころネットが発足しました。

今後も長い復興過程において、遠野まごころネットはじめ多くの機関、団体、個人と連携して、地球1個分の暮らしを目指して、環境パートナーシップいわてとして、活動を進めて行きたいと思っております。



報告 (佐々木)

自主事業 ①



NPO法人自然環境復元協会(東京)がJAXAから譲り受けた「宇宙を旅したアサガオ種子」の二代目、2500粒を岩手県立大学平塚教室が受けて苗を育成し、被災地仮設住宅の夏のクールダウン効果と潤いを期待し「実行委員会」を設立して取り組んで来ました。その概要を報告します。2008年3月エンデバーで土井隆雄飛行士が教育プログラム用として国際宇宙ステーション(ISS)に運び、12月まで9ヶ月間ISSさほうのモジュール内に保管して回収されたアサガオ(品種ムラサキ)の種子の二代目。

県立大学には6月7日・11日に到着、紙のエコポットを作成して播種、苗の成長状況から7月2日を現地施工の目標の下に準備に入りました。平塚教授の人脈から、釜石・大槌の二地区に設置を決めて現地での打ち合わせ、最少投資で最大の設置を行うべく施工方法の検討を行い、少なくとも100戸の住宅の方々への提供を決めました。設置時期を失すると効果が失われるため資金目途を後回しにして必要資材の入手を進めると共に、岩手県立大学・小岩井農牧(株)・遠野まごころネットなど同調者をもって「実行委員会」を立ち上げました。NPO ASIA Environmental Alliance 及びNPO日本ビオ

トープ協会東北地区委員会から逸早く協力と資金提供の申し出があり、NPO環境パートナーシップいわてへのプロジェクト提案を行い、事業として承認を頂き積極的に取り組む事となりました。釜石地区では、県の環境カウンセラーである加藤直子さんのご尽力で「釜石市・昭和園ブランド仮設住宅・118戸」を対象に加藤さんのグループ(釜石レディース)と共に、地域住民、ボランティアセンターから派遣された横浜・東京などのボランティア。大槌地区では被災された県の環境審議会委員でもある白澤良一氏の計らいで「大槌町・楳内地区大槌仮設住宅・45戸+a」に、NPO遠野まごころネットから派遣された静岡などのボランティアと共に緑のカーテンを設置しています。今後のメンテナンスや日常管理は住民や地域のサポーターが対応する事としておりますが、涼しくなる前に種子の収穫やネットの取り外しなどの作業があり、次年度の緑のカーテンまで、球根類の花の提供も視野に入れてあります。「もりおかエコライフ展」にも出展して、被災地のみならず広く一般に普及する事で省エネ・潤いと共に県民の環境意識の向上に繋がる事を願っています。ご協力頂きました皆様へ心から感謝申し上げます。(野澤記)

びっくり! エコ100選

…京都発!!
京都と岩手をつなぐ!!

京都議定書発効を機に
「一人でも多くの人に一つでも多くのエコ」
を合言葉にみんなで実践し、
広げるエコをコンセプトに展開。

一本の線を引いた巻物を準備し京都の子どもたちが絵やメッセージを描き被災地の子どもたちへとつなぎました。京都から東京までは自転車で運びました。同じく岩手の子どもたちからも発信し京都の子どもたちにつなぎました。8月にはびっくりエコ100選会場（高島屋）に展示しました。

7月18日には、ペンネームハイムーンで知られている高月先生（京（みやこ）エコロジーセンター館長）がセンターを表敬訪問され、8月25日には、京都大学の浅利先生を含む5名の実行委員の皆さんが来盛し、センターと県庁を訪問され、その足で、絵巻で協力していただいた岩泉町の泉山さん・大槌町の白澤さんと合流し、びっくりエコの現状と遠足プロジェクトの打ち合わせ交流会を行いました。

10月にチャリティオークションで集まったお金は遠足費用として被災地の子どもたちにプレゼントされる予定（京都へのお誘いもあります？）です。



↑ 泉山さんと合流



↑ 白澤さんを囲んで



↑ 大槌町の子どもさん



↑ 高月先生センター訪問



↑ 岩泉町の子どもさん



↑ 新品の自転車を寄贈 乗り具合は?



● これからの暮らし仕事支援室 業務概要

- ◎ 開所時間 月曜日から金曜日まで 10時から17時まで（祝祭日・年末年始を除く）
- ◎ 場所 020-0024 盛岡市菜園 1-12-18 盛岡菜園センタービル 5階
- ◎ 連絡先 電話 019-626-1215 FAX 019-625-1545
- ◎ メール info@korekura.jp
- ◎ ウェブサイト www.korekura.jp

◎ 業務内容

- ・ 広く県民を対象とした暮らし、仕事、こころ、お金など生活に関する相談及び情報提供
- ・ 就職して自立した生活をする事を志向する方を対象とした、個別的、継続的、制度横断的、寄り添い型、伴走型の支援サービス(パーソナル・サポート・サービス手法による)
- ・ その他ボランティア等の養成、関係機関との連携等を行います。

● 支援のあり方

この事業では、パーソナル・サポート・サービス手法(社会の縦割り構造の弊害を乗り越える横断的寄り添い・伴走型の支援)を用いたサービスを提供します。また、専門知識を持ったパーソナル・サポーター(専門支援員)とハローワークの就職支援ナビゲーターとが連携して「良き隣人」としてその支援に当たります。

● どんな人が相談できるのか

暮らし、仕事、お金、こころなどに困難を抱えている方ならどなたからでも相談を受け付けます。相談は面談又は電話にて受け付けます。

● 「これからの暮らし仕事支援室」パーソナル・サポーターの紹介

消費生活専門相談員資格者、キャリアカウンセラー資格者、介護福祉事業経験者等専門知識を持った6人のパーソナル・サポーター(専門支援員)が対応します。

● 被災者への対応について

被災地に近い場所での相談機会の確保など、被災者の生活再建支援のための事業も行っています。

● 「いわて求職者個別支援モデル事業」とは

この事業は、長期失業者等の本人の立場に立って、生活の立直しから就労に至るまで、当事者の問題全体を構造的に把握した上で、支援ニーズに合わせてオーダーメイドで支援を調整、調達、開拓する継続的なコーディネートを行い、もって個別的・継続的・制度横断的な支援を行うものです。

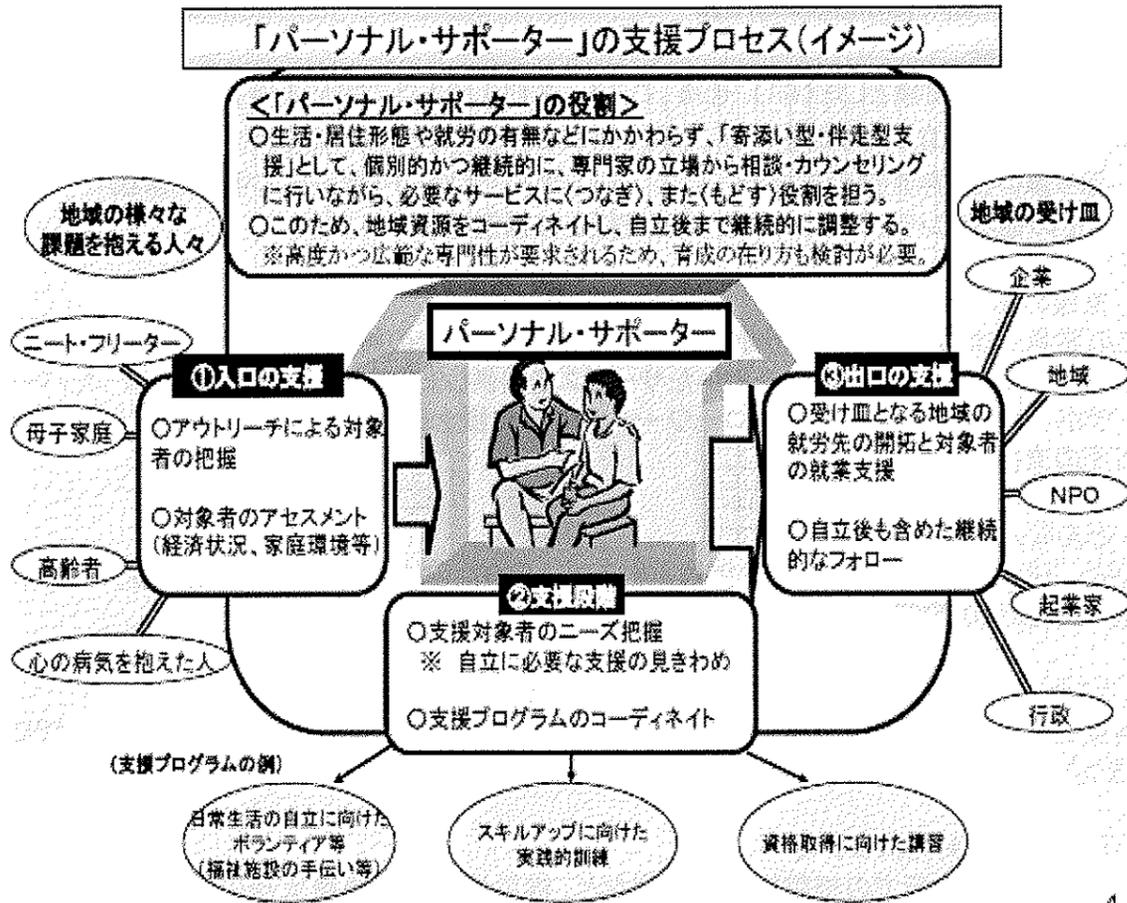
また、震災被災者、その他自立した生活を送ることに困難を感じている県民の相談を受け付け、困りごとなどを傾聴し、制度の案内、これからの暮らしに光が見えるような寄り添い型の支援も行います。

● これからの暮らし仕事支援室のモットー

- ・ いちばん苦しんだ人が いちばん明るくなれるように
- ・ 負けない！ くじけない！ あきらめない！
- ・ 語り合い 分かち合い 助け合い 支え合い
- ・ 人による 人のための 人としての尊厳回復

パーソナル・サポート・サービスとは?

-平成 22 年 5 月 11 日付内閣府資料「パーソナル・サポート(個別支援)・サービスについて」から抜粋-



若手派遣員 個別支援員 個別支援員モデル事業

これからの暮らし仕事支援室

〒020-0024 盛岡市菜園 1-12-18
 盛岡菜園センタービル 5 階
 電話 019-626-1215 FAX 019-625-1545
 メール info@korekura.jp サイト www.korekura.jp

若手派遣員 個別支援員 個別支援員モデル事業

これからの暮らし仕事支援室

〒020-0024 盛岡市菜園一丁目12-18 盛岡菜園センタービル5F
 TEL 019-626-1215 FAX 019-625-1545
 開所時間 月～金曜日 10時～17時

これからの暮らしと仕事をサポートします

こ れ くら い.jp

トップ

これくらとは?

相談について

アクセス

お問い合わせ

これからの暮らし情報 (被災者用)

職業相談連携先

ハローワーク盛岡 個別支援相談窓口

〒020-0024 盛岡市菜園一丁目12-18 盛岡菜園センタービル2F 職業訓練終了者等就業支援室内

TEL 019-606-2256 FAX 019-908-2062

開所時間 月～金曜日 8時30分～17時

「パーソナル・サポーター」と出会って

私がパーソナルサポーター(以下PS)の方と出会ったのは、私が「うつ病」と診断されてからちょうど1年目の事でした。病院に入院して半年ほど経った頃です。病棟の精神保健福祉士(以下PSW)からPSを紹介された当時の私はまだ「人間不信」の固まりでした。と言うよりも「早く自分が死ねばいいのに」と思っていました。

後でPSからは「初めて会った時は目も合わせてくれなかったよね」と言われました。そんな状態の私はこれまでの私の経緯と抱えている問題をぼつぼつと半ばあきらめの境地で話し終わるとPSからは「これからはPSWさん、私、そしているんな人が『チームAちゃん』を作って応援するからね。1人じゃないんだよ」と言ってくれました。その言葉をかけてもらった途端、その頃は泣くことさえしなくなっていた私も涙が出てきました。PSW、PSと3人で泣きました。

私は幼少のころから「母親にあわせ続けて生きている自分」に気付かず、勉強やスポーツを自分の限界まで頑張ってやっては病気になる、ひどい時は入院という人生を送って生きてきました。大学を卒業し結婚、実家を出ましたが今度は義母から様々なひどい言動を受けながら、また自分でも気づかぬうちに人に合わせながら生き、そんな中で出産・育児が始まりました。夫を頼りに暮らしていましたが、うつ状態がひどくなり眠れない、食べられない生活が続く生活のために働くことも困難になりました。夫との仲も悪くなり離婚を迫られ、子供と引き離されました。

もともと「人に頼る」という発想の無かった私は、相談機関に片っ端から電話をかけた事もありますが、根本的な解決には至りませんでした。それからはずっと「死ぬこと」ばかり考えていました。いつもいつも「死にたい」と思っていました。主治医からは実家に戻るのではなく入院を勧められました。それからは自分の居場所は入院した病棟のベットの上だけでした。

半年ほどして退院許可が出たのですが、私には帰る場所がありませんでした。(自殺する場所は入院中いろいろ考えましたが・・・)自分の住む場所、病気療養、離婚、子供、仕事、母親との確執、生活費、料理、家計管理などの生活に関わる事、社会に出ていく事全てに不安があり、当時の私の問題は一つ一つ解決していませんでした。

そんなときに親身になってくれた病院のPSWの人が「PSを知っている、気軽に話を聞いてくれるから行ってみよう」と声をかけてくれました。そしてPSは、障がい者となった事に「引け目」を感じていた私に「普通」に接してくれました。

その後 PSから広がった公私にわたる様々な団体・個人のサポートを得て、私は自分の問題をゆっくりひとつずつ自分のペースで解決し、改善し、今は退院してひとり暮らしをしています。

離婚問題は PSが女性センターの人につないでくれて、カウンセリングを受けることができました。弁護士さんにも会いました。そして私の「これから」について、いろいろな人と話し合いました。女性センターさん、弁護士さんも「チームA」に入ってくれていたのだと思います。そして主治医の立会いの下、話し合いをして離婚することができました。子供の事、今後のことを相手方と話し合い、希望通りに終える事ができました。

生活に関しては、様々な選択肢から1人暮らしを選びました。申請した障害年金だけでは生活費が足りなかったのですが私は「すぐに働いた方がいい気がする」と話すと、主治医は「無理をせずゆっくり」というので、まずは就労体験から始めることにしました。PSから私のような病気をもっている人たちの就労支援をしている先を数件教えてもらい、その中から、興味を持っている仕事を選びました。その担当者も「チームAさんなんだよ!」と言って一緒に何件か就労場所を見学しました。今は自分の体調を見ながらゆっくりと通っています。

足りない生活費については、生活保護制度について説明を受けました。内容について分からないことや私自身、偏見があったのですがPSから説明を受けて納得し申請しようと思いました。私に不安だったのは「扶養調査」というものでした。母が私と離れることを承諾するのか、生活保護を受けることに対してどのように反応するのか。

数日後、PSと一緒に生活保護の窓口に行きました。私の病気の根源は母親との関係なので主治医は生活保護申請の際に意見してくれました。生活保護の担当者の方も「私もチームAさんだから」と、PSとともに母親と話し合いをしてくれました。その後は手続きがスムーズに進みました。今では母もPSを信頼しているようです。母との関係もPSがクッションになっているので、私も以前のような関わりでは無くなりつつあります。PSは「お母さまにはお母さまの心配事があるのでしょう。今度はそちらが聴けたら・・・」と書いていました。でも私は今のところ、母に興味はありません。

PSは行政の窓口や担当者、制度をたくさん知っていて次々にバスの繋ぎながら私を支え続けてくれました。必要書

類の入手方法、行政の他にも必要な窓口や団体をよく知っていてとても手際が良かったです。

住むところにも悩みました。主治医、PSW、PSと話し合い普通のアパートでの一人暮らしは不安なのでマンション（家具付き個室と食事付共同生活施設）を選択しました。PSと数か所見学に行きました。以前の私は人に会うのが辛かったのですが、今は私のことを分かってくれる人が近くにいたり、活気のある場所に住めてとても満足しています。

私が決めたこのマンションは、交通の便もとても良いところです。車を持たず、少しずつ社会復帰をめざしていた私にとっては本当に良い選択ができたと思います。後で知ったのですが、PSはそのマンション管理者である不動産会社に、生活保護受給者、精神疾患のある人の受け入れと、私の複雑な事情や、料金について生活保護でもらえる基準についてなどいろいろな事を何度も話し合ってくれていました。私が契約に行った時には不動産会社の担当者の方が「これからは安心してのびのびと自由に生活してくださいね」と、とても温かい言葉をかけてくださいました。「これからは不動産屋さんも"チームAさん"なんだよ」とPSから言われて驚きました。そしてこれから、このマンションは私のような人達を積極的に受け入れることにしたのだそうです。（コレって凄いいことだと思いました）PSは「同じような需要はたくさんあるんだよ」と言っていました。

このような病気になって、改めて同じ問題を抱えている人達が多く存在するのを知りました。そして生きる辛さや苦しみを外に出すこともなく、心身・経済的に貧しく暮らしている人達がたくさんいる事、そしてその人達を支援している人たちもこの町にたくさんいるのを知りました。当事者の人達が普段どうしているのかをPSに聞いたところ、「当事者・家族・支援者の会」に連れてってくれました。これからはそこも私の居場所になりそうです。

家計管理も不安なので、PSにもらった家計簿をつけてチェックしてもらっています。様子を見ながらですが、社会福祉協議会の金銭管理のサービスというものも利用してみようと思っています。

退院後、一人暮らしを始めて、自分の生活が少しずつ落ち着いてきた今、私が思うのは「東日本大震災」で被災し、未だ困難な生活を強いられている人達への支援についてです。そして被災した方々以外にも世の中には辛さや苦しみ、悩みを抱えて生きている人が大勢いると思います。もしかしたら、私のように「死にたい」皆さんもいらっしゃるのではないのでしょうか？ そんな人達へ今私が言えるのは「ちょっと、とりあえずパーソナルサポートセンターへお茶しに行ってみませんか？」ということです。



この制度はモデル事業ということで、設置されている場所が限られているそうです。私にはまだまだPSのサポートが必要です。また、私以外にもPS制度を必要とする人、まだPSとも出会っていない人がたくさんいると思います。パーソナルサポートサービスは行政や、病院など単体の機関では支援しきれない問題を抱えた人達に「複合的な支援を提供できる」とても良いシステムだと思います。ぜひこの事業を継続し、被災者の皆さんをはじめ、現在の生活に困難を感じている人達がもっと気軽に利用できる様になればと思っています。

最後になりますが、現在私はとても心安らかな生活を得ることができ、そんな日常生活の可能性を見つけてくれたPS、そして「チームA」に関わってくれた皆さんに心から感謝しています。私がこの文章を書いている間も、まだ、すべてが順調というわけでは勿論ありません。状況や体調も一進一退を繰り返す、今でも気持ちや体調が落ち込んだりすることがあります。

現在、PSが繋いでくれたものや制度を利用しながら、私の生活や存在は成り立っています。そして各種制度を利用していくうちに多くの人達と出会いました。

PSと出会う前、私は「独り」だと思っていました。しかし今は違います。

正しく制度を理解し、本当の意味で「親身」になってくれたPSやそこから派生した人々とのつながりに私は「人は人でしか癒されない」と思っています。

担当PSからのコメント

3歩進んで2歩下がる、3歩進んで4歩下がる を繰り返しながらここまできました。自分の声を同じような苦しみを抱えている人たちに伝えて、支援に結びついて欲しいというAさんの思いにPSが力をもらいました。

「自立すること」が問われるのであれば、その前提として「適切な選択をすることが可能な環境であること」が非常に重要ではないかと思えます。その環境にたどり着いていないことに目を向けず、自立や自己責任の議論をすることは誤りなのではないかと思っています。

これからのくらしと仕事をサポートします

くらしが
きつい

生きる
望みがない

仕事が
見つからない

一人で
さみしい

毎日が
つらい

どこに相談
したらいいか
わからない

困りごとが
解決しない

経済的に
たいへん

コレクラと
ハローワークの
専門支援員が
2人3脚で
サポートします

相談無料・秘密厳守します。
専門支援員が対応します。
安心してご利用ください。

ウェブサイト <http://korekura.jp/>
メール info@korekura.jp
Skype™ アカウント korekura-sodan
※スカイプがつかない場合、お電話でご連絡下さい。

携帯サイト
はこちら



ご相談はこちらへ

岩手県委託 いわて求職者個別支援モデル事業
コレクラ **これからのくらし仕事支援室**

コレクラ 〒020-0024
korekura 盛岡市菜園一丁目12-18 盛岡菜園センタービル5F
TEL 019-626-1215 FAX 019-625-1545
開所時間/月~金曜日 10時~17時

職業相談連携先

ハローワーク盛岡
個別支援相談窓口

〒020-0024
盛岡市菜園一丁目12-18 盛岡菜園センタービル2F
職業訓練修了者等就職支援室内
TEL 019-606-2256
FAX 019-908-2062
開所時間/月~金曜日 8時30分~17時

「3.11」と盛岡ハートネット

もりおか復興支援ネットワーク資料（2011年12月5日、プラザおでって）



心の病の人も、ご家族も、被災された方も…みんなが幸せに！

精神障害当事者・家族・関係機関・市民のネットワーク「盛岡ハートネット」
事務局：黒田大介（写真は古里・石巻市の大川小の壁画）

盛岡ハートネットとは？

- ◇盛岡市内在住の精神障害者家族3人の提唱で2007年10月発足。精神障害当事者、家族、関係機関、市民のゆるやかなネットワーク。保健師、精神科医、臨床心理士らを講師に、震災前までは計17回、2～3カ月に1回ペースで例会を開催。震災後は7月から毎月1回、お茶っこの会を開いています。
- ◇設立趣旨は「当事者、家族、関係者、市民がつながり、対話し、相互理解を深めよう」
- ◇参加資格なし。誰が参加してもいいです。法人格、会則、代表、事務所…いずれも、ありません。補助金も年会費もなく、例会ごとに参加費数百円で運営。
- ◇最低限の取り決め＝4つのルールしかないネットワークです。形にはこだわらず、一人一人のニーズを大切に、ニーズを反映する仕組みづくりを模索しています。

会則はないけれど…4つのルール

①代表は選びません。参加された皆さん一人ひとりが主役です。

→事務局はあくまで裏方です。

②お金ない人は参加費払わなくてもいいです。世の中お互い様。

→お金がない人にこそ必要な集まりだと思います。

③安心して楽しくおしゃべりしましょう。プライバシー厳守です。

→ゆるやかな集まりですが、個人情報大切に！

④大事なことはみんな決めよう。みんなのハートネットです。

→アンケートの記述や事務局に寄せられる参加者の「声」やニーズを生かした例会のテーマ設定を心掛けています。

盛岡ハートネットの歩み

◆最初は精神障害者家族会の延長

岩手県精神障害者家族会連合会（岩家連）の第30回記念盛岡大会で知り合った家族会・関係機関を中心に案内を配布し発足。第1回～第4回例会ぐらまでは、参加者は精神障害者家族が中心の集まりだった。

◆だんだん当事者・家族・関係機関・市民のネットワークに

第8回例会「キラりん一座 in 盛岡」で、優れた当事者活動を盛岡のみなさんに紹介するなど、例会を積み重ねるうち、家族のみならず当事者・関係機関・市民の参加も増え、盛岡以外からの参加者も増えてきた。

◆だんだん市民団体としての側面も

シンポジウム「心とお金の悩み解決」や第12回例会「自殺予防 私たちにできること」など自殺予防に取り組み、自殺予防民間団体ネットワーク「さん・Sunネット」に加盟。震災後は7月から「お茶っこの会」を毎月開催。もりおか復興支援ネットワークにも加盟！

第1回例会「盛岡市の精神保健福祉サービス」

(2007年10月9日・盛岡市福祉総合センター)
講師：盛岡市の障害福祉&精神保健担当のみなさん
参加費：300円 参加者：60人



第2回例会「困ったら相談しよう」

(2007年12月5日・もりおか女性センター別館)
講師：ソーシャルサポートセンターもりおかの精神保健福祉士
参加費：200円 参加者：35人



第3回例会「紫波町の精神保健福祉活動」

(2008年2月12日・もりおか女性センター別館)
講師：紫波町ベテラン保健師八重嶋幸子さん
参加費：300円 参加者：42人



第5回例会「これからの統合失調症薬物療法 & クリニック時代の精神看護」

(2008年6月4日・もりおか心のクリニック)
講師：院長上田均さん&副院長高橋政代さん
参加費：200円 参加者：70人



第6回例会 シンポジウム「こころとお金の悩み解決」

(2008年8月26日・プラザおでって・盛岡市と共催)

講師：精神科医・智田文徳さん

盛岡市消費生活センター・吉田直美さん

参加費：無料 参加者：200人 寸劇の上演も！



第8回例会「キラりん一座 in 盛岡」

(2009年1月31日・プラザおでって)

- 第1部：キラりん一座（「心の病と共に生きる仲間達連合会キララ」メンバー）による演劇「心 天気になあれ！ Part 2」
第2部：キララメンバーと保健師北川明子さんのメッセージ
第3部：おしゃべり交流会

参加費：500円

参加者：100人



第9回例会「カウンセリングを学ぼう」

(2009年3月25日・プラザおでって)
講師：岩手大教授・臨床心理士 山口浩さん
参加費：300円 参加者：50人



第10回例会「生きていくチカラ」

(2009年6月9日・県精神保健福祉センター会議室)

講師：ルーテル学院大教授 増野肇さん

参加費：午前の部（講演）200円

午後の部（サイコドラマワークショップ）1000円

参加者：90人



第12回例会「自殺予防 私たちにできること」

(2009年12月4日、プラザおでって)

第1部：自殺未遂者の想い（事務局が4人の手記を代読）

第2部：精神科医・智田文徳さん講演

第3部：保健師北川明子さん&キララメンバーのグループワーク

参加費：300円

参加者：90人



映画「精神」盛岡上映会（共催事業・第14回例会）

（2010年5月30日・プラザおでって）
映画「精神」盛岡上映会実行委員会主催
盛岡ハートネット・CILもりおか・SSCM共催
ドキュメンタリー映画「精神」昼夜2回上映

監督・出演者メッセ
ージ発表、主催者の
思いや感想発表など
「トーク」の時間も

チケット1000円
来場者370人
益金25万881円
（自殺予防に役立
てもらうため、盛岡
いのちの電話に寄付）



第16回例会「ACT（アクト）を学ぼう！」

（2010年12月11日・盛岡市総合福祉センター）

講師：久永文恵さん（コンボACT-IPSセンター）

参加70人、参加費500円

例会に引き続き、第1回地域生活支援&ACT勉強会も開催



第17回例会「働くために」

(2011年3月5日・プラザおでって)

参加110人、参加費300円

第1部：当事者3人が就労体験や思いを発表

第2部：堀野修さん（岩手障害者職業センター）講演

第3部：グループワーク



数字で見る盛岡ハートネット

- ◆盛岡ハートネット例会案内送付者数＝560人・団体
 - 第1回～第4回例会までの参加者＝123人（家族会員中心）
 - 第5回～第17回＝437人（独自開拓が中心）
 - ◆参加者の世代は、10代～80代まで幅広い
疾患種別はさまざま。性別は女性が3分の2を占める
 - ◆内訳は当事者、家族、関係機関がそれぞれ3割ぐらい
残り1割ぐらいが市民（2011年3月5日現在）
 - ◆ブログアクセス＝約16万件（2011年12月2日現在）
- 参考：岩手県の精神障害者数＝＝＝＝1万7131人
入院患者数＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝4638人
通院医療費公費負担受給者数＝1万2493人
（2006年3月末現在）

「3.11」以後の活動

●被災直後～これまで…日ごろのつながりを生かした活動

- ◇沿岸各地のハートネット参加者の安否確認
→電話、メール、手紙。住所地を訪ね歩き差し入れも
- ◇チラシ「東日本大震災で被災された皆様へ」作成、配布

●復興期…小さな取り組みをベースに活動再構築

- 岩手では盛岡市内に精神科病院が集中。震災後、沿岸部の病院から転院してきた方が少なからずいるのでは？
- ◇安心しておしゃべりできる小さな集まり「お茶っこの会」を7月から月1回、盛岡市総合福祉センターなどで開催
- 特にも「災害以前から精神疾患の既往のある人」や「孤立状況にある人」といった、困難な状況下にある方々とつながればうれしいです！

つながりを大切に

大震災では、多くの「つながり」が失われました。大切な人、家財、慣れ親しんだ浜の光景…。

一方、精神障害者・家族になるとは、さまざまな「つながり」が希薄になるということでもあります。同級生、友人、親戚、ご近所といった「つながり」、さらには家族の「つながり」までもが、この病気になったことで希薄になり、ときに、断ち切られます。

そこには、差別や偏見で、病気のことをオープンにできない、病気に伴う生きづらさが周囲になかなか理解されない、ということもあるでしょう。

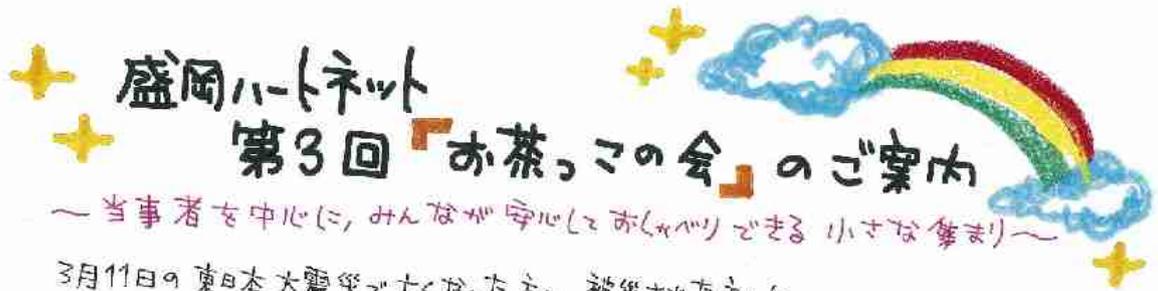
まして、心の病を抱えながら被災された方の苦しみ…。

盛岡ハートネット事務局として4年間、さまざまな困難を抱えつつ孤独の淵にある人と、いかにつながるかを模索してきました。だから、大震災という有事に際しても、ハートネットだからこそできることをやっていきたいです。

お茶っこの会

内陸在住の人も、内陸に引っ越してきた人も、震災で悲しみの淵にある人も、震災以外のことでも悩みを抱えている人も、思いの丈を語りたい人も、のんびりしたい人も...それぞれのペースを尊重する集まりになればいいなと思っています。

震災で失ったものは多い。でも、少しずつ新たなつながりをつくっていきませんか？



盛岡ハートネット

第3回「お茶っこの会」のご案内

～当事者を中心に、みんなが安心しておしゃべりできる小さな集まり～

3月11日の東日本大震災で亡くなった方々、被災された方々に、(心より)お悔やみとお見舞いを申し上げます。

精神障害当事者・家族・関係機関・市民のネットワーク「盛岡ハートネット」は、月1回、小さな集まり「お茶っこの会」を開いています。第3回のゲストは、心の病と共に生きる仲間連立連合会キアラ(佐藤英明代表)。8月28日に一関市大東町で「震災における精神障害者の医療と生活」をテーマにしたシンポジウムを開催。これまでとこれから、当事者同士、あるいは内陸と沿岸など、いろんな「つながり」を大切にしよう!という、心の通った素晴らしい企画でした。今回は、キアラのみなさんから「精神障がい者の被災体験とそこから学んだこと」をテーマにお話しいただきます。引き続き、みんながお茶しておしゃべりしましょう。震災を失ったものは多い。でも、少しずつ、新たなつながりをつくっていきませんか？

- 《日時》2011年9月23日(金曜日・秋分の日) 13:30～16:00(準備は13:00～)
 - 《場所》キアラホステル 第1・2会議室(盛岡市中、橋通1-1-10)
 - 《参加対象》当事者中心の会と考えていますが、ご家族ごぞ、どなたでもどうぞ!
 - 《定員》20人(要事前申し込み。準備の関係上、多くはお願いしませんが)
 - 《参加費》300円(お茶とお菓子代)※お金のない人は0円
 - 《ゲスト》心の病と共に生きる仲間連立連合会キアラ
- 2004年発足。会員は一関市東磐井地区を中心に約30人。演劇を通じて心の病への理解を広げると、地域に根ざした独自の活動を展開。岩手県初のリリー賞受賞団体。

- 安心して語り合うため、キアラメンバーは守ります。
- 会場準備、後片付けはみんながします。
- お茶っこの会は、「おしゃべり」するだけでなく、定員制にしています。定員がいっぱいになったら、お茶っこの会に参加される方を優先させていただきます。どうぞご了承ください。
- 会のサポートをしてくださる支援者さん、学生さん募集します。
- いっその割合(見習い)。誰とでも19:59(11)は、そろそろ閉まります。

【申し込み＆問い合わせ】盛岡ハートネット事務局 黒田 大介
 携帯: 090-2883-9043
 Eメール: yukapyon@estate.ocn.ne.jp
 携帯Eメール: opentalove@ezweb.ne.jp
 ブログ「Open, to Love」 <http://opentalove.exblog.jp/>
 運転中など、すぐ携帯に出る方はいませんか? (心)
 かならず かけ直しますので、怪しんでください。

第1回「お茶っこの会」

(2011年7月30日、盛岡市総合福祉センター)
お茶&お茶菓子＝陸前高田市特集。参加費300円
県立大の学生さんがボランティアに来てくれました！



第2回「お茶っこの会」

(2011年8月20日、盛岡市総合福祉センター)
お茶&お茶菓子=大船渡市特集。参加費300円
ゲスト=WRAP (ラップ) 研究会いわて (盛岡市)



第3回「お茶っこの会」

(2011年9月23日、盛岡市プラザおでって)
お茶&お茶菓子=釜石市特集。参加費300円
ゲスト=心の病と共に生きる仲間達連合会キララ(一関市)



第4回「お茶っこの会」

(2011年10月29日、盛岡市総合福祉センター)
お茶&お茶菓子=宮古市特集。参加費300円
ゲスト=五十嵐純子さん(地域活動支援センターみやこ)



第5回「お茶っこの会」

(2011年11月27日、盛岡市総合福祉センター)
お茶&お茶菓子=各自が持参。参加費100円



震災復興と心のケア

「やがて被災地は『ハネムーン期』を終えて『幻滅期』に入っていく…。この『幻滅期』を越えて、私たちは再建に向かわなければならない。それは〈心の傷〉を見て見ないふりをして前進することではないだろう。

多数派の論理で押しまくり、復興の波に乗れない“被災の当事者”でありつつづけている人たちを、忘れ去ることではないはずである。」

安克昌『増補改訂版 心の傷を癒すということ—大災害精神医療の臨床報告』（作品社、2011年）より引用。安先生は、阪神大震災で被災者の心のケアに尽力し、若くして亡くなった精神科医です。

◇大震災からそろそろ9カ月。今後、復興に向かう「多数派」と、復興の波に乗れず「被災の当事者でありつつづける人たち」との格差の拡がり懸念されます。

盛岡ハートネットは、これまで培ってきたつながりを大切に、震災以前から心の病を抱えている方はむろん、震災後に新たな精神的課題を抱えた方にとって、安心・安全感のある場を提供し、つながり続けていきたいと思ひます。

参考：盛岡ハートネット事務局の活動

- 県立大社会福祉学部精神保健福祉援助実習講師（7月6日）
「家族の視点、家族会活動の視点…を踏まえたネットワーク活動&災害時心のケアについて」
- これからのくらし仕事支援室「パーソナルサポート支援者養成講座」講師（7月16日、県民生活センター）
「精神障害当事者・家族のネットワーク活動…を踏まえたパーソナルサポーターへの期待」
- NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ発行のメンタルヘルスマガジン「こころの元気+」8月号に寄稿
「3・11震災レポート『心のケアを支える“心” 岩手の保健師たち』」
- コンボ、精神・神経科学振興財団主催「リカバリー全国フォーラム2011」（9月8～9日、東京）の分科会21「東日本大震災～被災体験とその支援から学ぶ」で、岩手の災害時心のケア活動や盛岡ハートネットの取り組みを紹介
- 宮古圏域障がい者福祉推進ネットの精神障害者家族懇談会講師（11月20日、宮古地区合同庁舎）
「つながりを大切に！」

気軽にご連絡ください

- ◆盛岡ハートネット事務局：黒田大介
(石巻市出身、盛岡市在住。本業は岩手日報学芸部記者で、音楽と考古学を担当しております)

携帯：090-2883-9043

パソコンメール：yukapyon@estate.ocn.ne.jp

携帯メール：opentolove@ezweb.ne.jp

盛岡ハートネットブログ「Open, to Love」
<http://opentolove.exblog.jp/>

→携帯番号もメアドもオープンにさせていただいて構いません。この資料の詳細については、すべてブログに収録していますので、ご覧ください。「盛岡ハートネット」で検索するといっぱい出てきます。

YMCA MIYAKO VC NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター活動報告 3月～9月



編集発行人： 濱塚有文 発行所： 特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

一人一人のボランティアを

田澤嘉紀（埼玉県警勤務、盛岡YMCAリーダーOB）

はじめに、この度の東日本大震災においてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた全ての方々にお見舞い申し上げます。

そして、YMCA宮古ボランティアセンターの開設にご尽力いただいた皆様、そこで活動して下さっている皆様に宮古市出身の一人として深く感謝申し上げます。

現在は仕事のため埼玉県内に住んでおりますが、私の地元は宮古市であり、震災直後に映し出された宮古市やその他の沿岸地域の被害状況を目の当たりにし、これまでに感じたことの無い絶望感と深い悲しみを感しました。

幸い、私の実家は海から離れた地域であり、家はもちろん家族にも被害はありませんでしたが、地元から遠く離れた自分に何かできることは無いかと考え、出した答えが「同級生の安否情報の共有化」でした。

私がしたことといえば断片的に手に入る安否情報をまとめ、メールアドレスのわかる人に一斉に送信するというたったそれだけのことだったわけですが、皆に感謝され安心を与えられただけ

でなく、一層の絆を深めることができました。

こうしたアイデアを思いつき、そして実際の行動に移させてくれたのも、私が学生時代に盛岡YMCAでリーダーをしていた経験の賜物かなと今は思います。

YMCAで活動した数年間はこれまでの人生において、最も充実していた時期でした。

自分で言うのもおかしいですが、私のボランティア精神は間違いなくYMCAで培われました。

これまでは、ボランティアというと何か特別なことのように感じていた人は多いと思いますが、今回の大震災を契機に人々の心の中のボランティア精神が一気に開花したように思います。

今後も一人一人が誰かのためにちょっと何かをしようと考えそれを行動に移せば、それだけで立派なボランティアですし、皆が今の気持ちを忘れなければ、東北はもちろん日本全体がもっと豊かになっていくと思います。

YMCA宮古ボランティアセンターが開設されました。

盛岡YMCAは、日本基督教団宮古教会のご協力で3月18日より、スタッフ、ボランティアが現地に入り、その後、全国YMCAの支援のもと、YMCA宮古ボランティアセンターを開設し、地域の復興支援の活動を開始しています。地域の被災した家屋の掃除のお手伝いをしたり、避難所をまわり、その様子を社会福祉協議会に連絡したり、関係諸団体と連携しながら活動を行い現在にいたっています。4月10現在、YMCAの派遣する第3次ボランティアグループが現地で活動しています、盛岡YMCAは、今後も継続してこのセンターを中心に支援を行っていく予定です。以下、先遣隊として現地に入った伊藤眞太郎ディレクターからの報告です。

3月21日（月）

東日本大震災から11日目、海岸線ではいまだに家が二重、三重に重なり、車や船がそこら中に転がっている。宮古市からの放送では、道路に出ている家のゴミ、瓦礫を撤去する案内が毎日放送されているが、なかなか進んでいない。電気や水道が通っていない地域も少なくない。ヘドロが乾き、砂塵が舞っている。

避難所で暮らす人たちの1日は、朝起きて避難所で与えられた役割をこなした後、半壊した自分の家の片付けへと出かける。しかし、大半の方々は老人でダンスや泥まみれの布団や畳などが運べず、作業が進んでいない。現地ボランティアは主に地元の高校生が手伝ってくれているが圧倒的に人手が足りない。



3月22日（火）



今日は、宮古小の避難所で出会ったMさん宅の片付け作業を手伝った。Mさんは、一人暮らしで、家の被害を見て希望を失い、家の前でじっと家を見つめるだけだったり、避難所の中で1日中過ごしていたりしていたと言う。しかし、一緒に作業をし、少しずつ家の中が片付いていく中で、少しの笑顔が

戻ってきた。



3月23日（水）

本日より、横浜YMCAから2名、日本YMCA同盟からの派遣で山の会からハイパーボランティアの方々3名が合流。被災された方々の状況は、刻々と変化している。希望を見出したり、生きる力が湧いてきたり、しかしまた諦めたり、無力感に押しつぶされそうになったり、抱えこんでしまったり。

被災された方が言っていた。津波から生き残るための鉄則が沿岸地域にはある。それは、家族や親戚、財布や通帳などと一緒に逃げず、とにかく自分の命を守ること、今回の津波でも生き残った方や、残った船は、この鉄則を守れた方が多いと聞く、船や家族の心配もあるが、鉄則を守り、沖へ全速力で逃げた船。陸の人は家族を探す、助けに行く前に自分の命を守った方。逆に戻った方々のほとんどは逃げ遅れ波にの



まれてしまったと言う。なんて、悲しく、つらい鉄則だろう。被災し、非難している方々は、私たちが想像もつかない苦しみをひとりひとりが抱えている。だからこそそのひとりひとりの心に私たちが寄り添うことが必要だ。人は一人では生きて

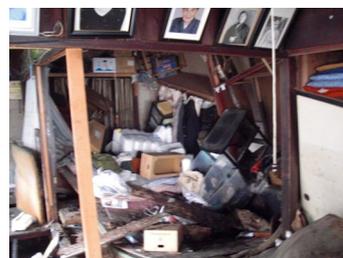
いけない、寄り添い、励ましあって生きていくもの。そうすれば、この地震・津波もいつかは乗り越えられるだろう。

3月24日（木）

新たに作業をする場が確実に広がっている。Mさん宅での作業中に更に2件のお宅から撤去を手伝ってほしいと要望を受けた、今後も支援できるエリアを広げ、ひとりでも多くの被災者に寄り添うことで、力となり、希望や勇気を与えることができたと思う。人数が増えたことで、様々なことが1日できるようになったことはとても大きな意味がある。

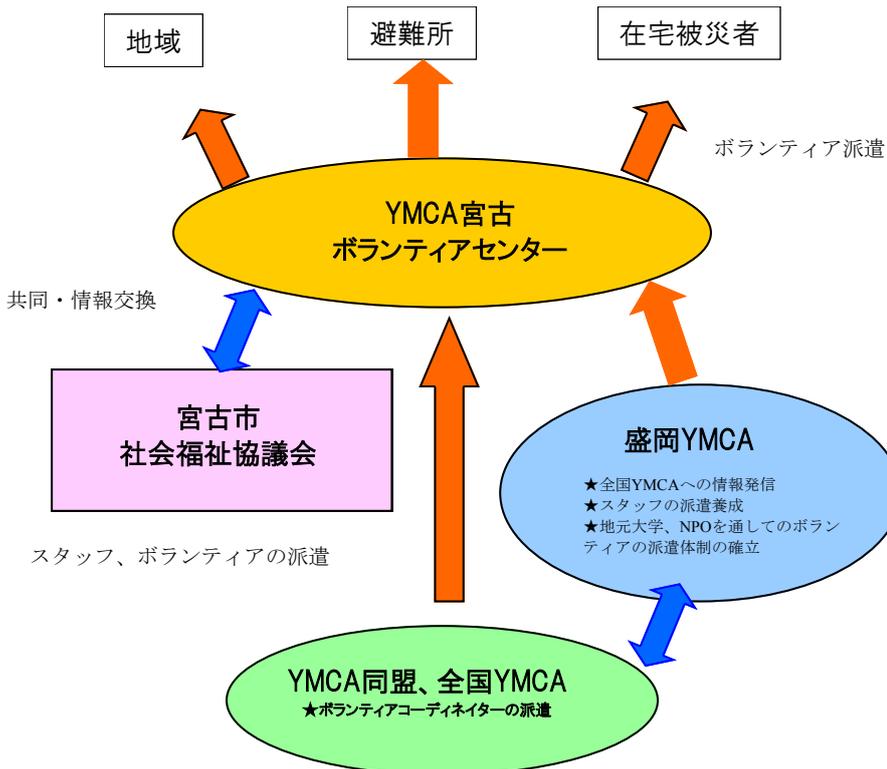
今日は各避難所を回る事ができた。県内の先生がたがボランティアで入っている所も多く、4月からその先生たちがいなくなった後のボランティア不足が懸念されている。

宮古教会の隣の家屋の様子。お年寄りが住んでいたため、一人では作業ができなく、私たちが協力している。 (左下)の写真的片付けた後の写真。床が海水に浸かり腐って抜けてしまった。



上の写真は宮古市の重茂半島、赤前地区の写真。上記の写真的ように、残っている家屋には自衛隊が入り安否確認を行い、「済・〇・×」のサインを示してから重機による撤去作業が行われているため、なかなか作業が進まないのが現状。

YMCA宮古災害ボランティアセンター
初期活動の形態(第1次フェイズ)



YMCAの救援・復興活動の特色は、当該地域における多岐にわたるYMCAプログラムの実績により、参加者、保護者、地域の方々から厚い信頼の積み重ねで、すぐに心と心をつなぐ活動ができること。地域行政・学校・キリスト教会などのネットワークを存分に活かしてその地域のニーズに沿った活動を展開できることです。今回の震災におきましても、特に子ども、お年寄り、外国人の方々にも注力しながら、被災のストレスを軽減し、生きる元気を取り戻していただけるよう現地のニーズにあった活動を長期的に実施してまいります。状況によって変化しますが、おおよそ下記のような段階で活動を行う予定です。

- ★ 第1次フェイズ 先遣隊派遣、緊急物資の配送・配給、ボランティア拠点等の立ち上げ、他団体との連絡調整・情報収集（即日～2週間程度）
- ★ 第2次フェイズ 計画的なスタッフ派遣、ニーズ聞き取り等（1ヶ月）安全の確保や現地受け入れ状況が整えば、ボランティア組織（受け入れ/派遣）
- ★ 第3次フェイズ 心のケア、トラウマカウンセリング、中、長期的な自立支援等

宮古レポート①

アドベンチャークラブの会員、千葉優ちゃんは、昨年盛岡の小学校から宮古の藤原小学校に転校しましたが、その後もはるばる宮古からYMCAの活動に参加してくれていました。

18日、宮古に着くと千葉優ちゃんの安否を確認するため避難所を回りました。優ちゃんが住んでいる地区も被害がひどく、信号機はついてなく、道路にはそれぞれの家から出された瓦礫の山が続いていました。避難所を4か所回ったところようやく優ちゃんを見つけられました。通っている藤原小学校よりも高台にある避難所にいました。3月末に予定していた2泊3日のキャンプに参加予定で、キャンプの中止を伝えると残念そうな顔をしていました。無事に会えて、震災後もキャンプを楽しみにしてくれていたこと、嬉しかったよ！また、キャンプで会いましょう！



東日本大震災YMCA
救援復興募金のお願い



今後、被災地への支援は、長期的に行われていきます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

●救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

- ① 郵便振替（同封の振込用紙をご利用下さい。）
- ② 銀行振込み（下記口座にお振込み下さい）
北日本銀行本店 普通預金
口座番号：7029115
名 義：盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
理事長 石渡隆司

感謝（順不同、敬称略）
★ご協力有難うございます
●東日本大震災救援・復興募金
花田 暁、勝又文子、伊藤真一郎



盛岡YMCA 宮古ボランティアセンター ニュース 5月号

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



編集発行人： 濱塚有史 発行所： 特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1

TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



被災地の方々が日常に戻るための支援

(日本YMCA同盟東山荘 佐久間真人)

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターに計3週間派遣された経験から感じたことを報告いたします。

宮古ボランティアセンターは、日本基督教団宮古教会が津波で被災（会堂内1.2m浸水）しながらも、森分和基牧師が一人で関係者安否確認、近隣支援に奔走し、やがて盛岡YMCAが3名の人間を派遣したことから、3月下旬より本格的な地域支援活動へ発展しました。

北海道、横浜、富山、同盟といったYからスタッフやOB等がこれまでに派遣され、過酷な現場でも自己完結し、最低でも1週間は滞在できる魂の熱い登山家の方たちと協力関係を持ちながら、教会堂で衣食住を共にしつつ、ボランティア活動を行っています。（詳細はブログ「被災地にクライマーを送る会」をご覧ください。<http://climber311.blogspot.com/>）

また岩手大学とも協働しており、チャーターバスで多くの学生を派遣してともに活動しています。

宮古ボランティアセンターは、宮古市社会福祉協議会運営のボランティアセンターと協力関係を保ちつつも、別個の民間のボランティアとして、近隣住民の支援、避難所支援をしています。

その目的は「被災地の方々が、日常に戻るための支援」です。瓦礫の撤去などの作業第一ではなく、顔の見える関係を作りながら、被災地の方々に少し元気になってもらえることは何かを模索しながらの活動を積み重ねてきました。また行政の支援からこぼれ落ちる人たちのことも探しつつ、活動をしています。現在は、引越

作業の依頼が多いようです。

私は阪神淡路大震災のときに神戸YMCAスタッフとして、長田の町で1年半震災復興活動を体験しました。阪神淡路大震災では4~50キロの範囲で約30万人が被災しましたが、今回は約400キロの範囲で約40万人被災。死者行方不明者は約4倍の規模で、まだ半数近くの方のご遺体さえ見つかっていません。津波の圧倒的な破壊力には、神戸の町が焼け野原になって行くのを見た私でも、想像を超えるものがありました。自分の家の周りが数キロにわたって瓦礫一つさえも残っていないヘドロの海になるなど、誰が想像したのでしょうか。

明らかに復興には阪神淡路のときよりも2~3倍の期間と労力がかかります。腹を据えて、それぞれのYMCAはまず自分達の仕事を一生懸命やり、その上で、細くとも、長くしぶとく支援活動を続けて行く必要があります。

東北の方たちは我慢強く、心優しい方が多いです。苦しみ悲しみも心の中に押しとどめ、私たちボランティアに「ありがとう」と頭を下げる方たちです。早く地元の運営によるボランティアセンターの活動が確立すればと、強く願っています。子ども達、高齢者、障害者のみなさんへの息の長い支援が求められます。ともに祈りを合わせ、考え、行動しましょう。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの活動

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターには、3/18から現在まで、全国のYMCA第5次にわたるディレクターとボランティアの派遣が行われ、1週間から2週間の期間のサイクルで交代しながら、継続的に進められています。



ディレクターはこれまで、盛岡YMCA、横浜YMCA、北海道YMCA、富山YMCA、日本YMCA同盟などから派遣され、ボランティアは、山岳家グループと宮古教会並びに周辺在住の方々となっています。4月中旬からは、岩手大学との連携で、一週間に5回程度、盛岡から日帰りボランティアとして一日約5時間のグループ活動を進めています。現在に至るまでのべ1,000名を超えるボランティアが被災地の支援活動を行っています。

4月中旬には、YMCAのサポート団体であるワイズメンズクラブ富士山部のメンバーから、被災地域での活動に役立てて欲しいとの申し出があり、軽トラックをお借りすることができました。富山YMCAから1ヶ月間提供された車と合わせて2台が使えることとなり、到着直後から荷物の運び出しや搬入、ボランティアの移動など多方面に活躍しています。



現在の主な活動は、瓦礫の撤去、住居や側溝のヘドロの除去を行っています。市民の方々からもYMCAの活動が理解され、ボランティアセンターのある宮古教会周辺の活動から遠方の地区からの要望も口コミで増えてきました。



4月30日(土)には、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを拠点にボランティア活動を行っている岩手大学の学生ボランティア「天気輪の柱」皆さんが企画し、宮古市花輪地区で被災した方々を招待しお花見を行うなど盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを通して活動の範囲も広がってきています。

表紙の写真から



いつの間にか、活動を共にした仲間が宮古を去る時には、記念写真を撮ることがセンターの恒例行事に。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターには、全国の関係者、山の会メンバー、岩手大学の学生など全国からボランティアが集まってきています。飛び交う方言も様々。多いときには、30名超える人たちが会場を提供してもらっている日本基督教団宮古教会の会堂に寝泊りし、活動行っています。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターでは、ミーティングを重視しています。午前中、作業の出発前に1回、午後の作業前に1回、夜に1回と計3回のミーティングを実施しています。ミーティングを通して被災されている方々の状況や、作業のやり方、方針などの情報を常にボランティア同士で共有しながら次の活動につなげていっています。

人生経験を積んだ社会人の方々が若者のように熱く、被災された方々のことを考え、愛情をもって知恵を出し合いワークを進めていく様子は、特に一緒に活動を行っている学生ボランティアにとっては、大きな学びの場にもなっています。

第1回 災害ボランティア養成講座

4月23日(土)いわて県民情報交流センターで第1回災害ボランティア養成講座を岩手大学と共催で開催しました。盛岡YMCA宮古ボランティアセンターでコーディネーターとして活動した佐久間真人さん(日本同盟)が講師を務め、約70名の市民の皆さんが熱心に耳を傾けました。佐久間さんは、1995年阪神大震災で被災しその後長田地区で1年半ボランティアコーディネーターに従事した経験から以下のポイントを語っていただきました。

◆ 現地ボランティアの姿勢

「安易な支援は、心の復興や自立の芽をそく形になる。ボランティアは、特別なことをやりすぎず、非日常から日常に戻っていく手助けにとどめる。ボランティアへの拒否反応が出ている被災者もいるので、まずは関係作りを」

◆ 心配な点

「避難所の子どもたちは、大人の顔色をうかがっておとなしく生活している。ボールを持って行ったら目を輝かせ、大人のいないところでキャッチ

ボールを始めた。阪神大震災の時は、いつもの遊び場に仮設住宅が建てしまっていた。子ども時代を子どもらしく過ごせないと、ベースになる心が育

たない。自分の感情をコントロールできない大人になってしまう可能性がある。これが一番怖い。子どもは大人より優先順位を高くしてほしい。」

◆ 震災と向き合う

「現地に行かなくとも、やらなければいけないことがたくさんある。募金をはじめ、もう一度家族で防災について話合ったり、地域のコミュニティーはあるか確認したり、身の回りを見直していくことが必要。



今後、被災地への支援は、長期的に行われていきます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

① 郵便振替(同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み(下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金

口座番号: 7029115

名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口

理事長 石渡隆司

感謝
2011年度 4月30日現在
順不同・敬称略
● 東日本大震災被災地支援募金 ●

伊藤真一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤藤馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川眞輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斎藤稜太、阿部雄偉、長澤博貴、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、スガケイ、カトウアキコ、イシダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、三上隆生

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター3ヶ月の活動

盛岡YMCAは、3月18日より日本基督教団宮古教会のご理解のもと教会を活動拠点に「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」を開設しました。現在に至るまで全国のYMCAから派遣される、職員、ボランティア、またクライマーの会の皆さんの協力を受けて支援活動を行っています。

5月末日段階でのべ、1,473名のボランティア、424名の職員が活動を行っています。



家中に散乱した家具、調度品を一つ一つ整理する。思い出の品もあるので注意が必要だ。



4月、家の掃除をした後、床下には、ヘドロがたい積している。床板をはがし、ヘドロをスコップで掬い取る作業が続く。



全国からYMCAに送られてきた物資。この他にも自転車20台を宮古市社会福祉協議会、洗濯機30台を各避難所、ボランティアセンターに届けた。

時には、床下にもぐりこんでの洗浄作業も。



ヘドロを除去した後は、高圧洗浄機で洗い流す。これが大活躍。



重油や、海水を吸った畳は、重たく、大人二人でも大変な作業だ。教会周辺から次第に遠方での作業の依頼が増えてきた。

岩手大学とのコラボレーション



宮古において震災当初は、ボランティアの主力は、地元の先生や高校生たちだった。4月になり、授業がはじまり、ボランティア不足が懸念される中、授業開始が5月初旬にずれ込んだ岩手大学がボランティアバスで毎日のように学生ボランティアを派遣してくれた。授業が始まった現在も毎週土曜日に学生を派遣してくれている。



活動は、床板はがしや側溝のヘドロ除去などの力仕事が多く、バールを使ったりと慣れない作業で大変ですが、宮古の方々にありがとうと言って頂いて嬉しかったです。微力ではあると思いますが、これからも続けていきたいです。そして宮古の方と深いつながりを築いていければと思います。
岩手大学 4回生 萩原亜弥香

地域と共に



▲写真左は、掘田さん。宮古在住。家が全壊し、YMCAのボランティアが作業をしに行く中でいつの間にかボランティアに加わってくれるようになった。地元のことをいろいろと教えてくれる。

ヘドロの除去等、作業はベテラン。入れ替わりやってくるボランティアに作業の手順を教えてくれる。棟梁と呼ばれている。

掘田さんの隣は、近所のおばあちゃん。訪ねてくるボランティアの名前を壁に張ってくれている。後ろの似顔絵は大阪から来たYMCAのスタッフが描いたもの。

新たなステージに向けて



5月になると側溝のヘドロの除去のニーズが増えてきた。高齢化が進み、地域共同でのドブ掃除ができなくなって10年になる町内もある。震災から時がたつにつれ、地域の抱える課題が浮き彫りになってくるのは、阪神のときと同様だと神戸からのスタッフが語っていた。



大阪YMCA OBの池田勝一氏が宮古ボランティアセンター所長に就任。阪神大震災や長年のYMCAの地域活動の経験を活かし、宮古における次のステージの活動にむけて準備を開始した。



東郷珠江です。滋賀YMCAユースボランティアリーダーOB、保育士、社会福祉士として、この度ご縁があり宮古の地で2ヶ月間ボランティア活動に参加させて頂いています。

2010年夏から世界旅行中！
合言葉はSmile！！

高校生ボランティア受け入れ



横浜の聖光学院高等学校が盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを拠点にボランティア活動を行った。

6月5日～8日、6月8日～11日と2グループに分けて総勢80名の高校生が参加した。オリエンテーションを受けて後、ヘドロの除去などの作業を行った。

10年、20年といわれる復興までの長い道のりを考えると若い世代がこの地を訪れ、考える機会を持つことはとても重要なことだ。

← 地域の人たちとともに側溝の掃除をおこなった。



北極点に到達した経験のある、菅原さん宅のお掃除にお手伝いに行ったが、いつのまにか、講義に…。真剣に耳を傾ける高校生たち。ボランティアは、してあげるのではなく、ボランティア自身が学んで行くことが大切だ。

宮古あきんど復興市出店



これからは、地域でなか楽しいことを行う。そしてより地域に溶け込むことが大切。池田所長の提案で、宮古あきんど復興市に参加。大阪から、YMCAののぼりや鉄板を取り寄せ、お好み焼き、たこ焼きの店を出店。本場大阪のたこ焼き、お好み焼きには、行列ができた。

今後、避難所、仮設住宅などにも出前出店予定。

登校時、交通整理



宮古の中央通りの信号は、所により、電気が通っていない箇所がある。

6月から、朝、YMCAのスタッフが交通整理のボランティアを開始している。

今後、被災地への支援は、長期的に行われていきます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納いただけます。

① 郵便振替（同封の払込取扱用紙をご利用下さい。）

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み（下記口座にお振込み下さい）

北日本銀行本店 普通預金

口座番号：7029115

名 義：盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口

理事長 石渡隆司

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤柊馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤田美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川眞輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斎藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、スガケイ、カトウアキコ、イシダソウ、鈴木聖流、阿部美結、高谷厚子、佐藤江利子、樽林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、柴角美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川眞輔、ワイズメンズクラブ東日本区

感謝
2011年度 5月23日現在
順不同・敬称略
● 東日本大震災被災地支援募金 ●

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 7月活動報告

7月に入り、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの活動は少しずつ変化してきました。これまでは津波が浸水したお家の片づけを中心に、ヘドロの除去などの作業を行ってきました。それに加え7月から避難所や仮設住宅でのたこ焼・焼きそばの炊き出しを行っています。7月中に行った場所は、宮古小学校避難所、赤前小学校仮設住宅、中里団地仮設住宅、宮古教会前、愛宕小学校仮設住宅の6か所です。それぞれの場所でたくさんの方にお越しいただき楽しんでいただきました。人が集まると会話が生まれ、普段なかなかお家から出てこない方も出てきて行列に並びながら会話を楽しんでいます。このように、たこ焼きや焼きそばを通して多くの出会いや関わりを作るお手伝いをさせていただいております。これからも、このような機会を設けながら、楽しく人が集う場を作っていきたいと考えています。(大塚)



まだまだ終わらない

床をはがしてヘドロの除去を行っています。津波が浸水したお宅では、浸水部分の壁、天井の除去洗浄の作業を行っています。

(7月5日 宮古市街)

暑くなってきたからこそ…

草刈りの依頼が増えてきています。こちらは仮設から引越す予定の家。細かい部分は手作業。

(7月4日 中里団地)



笑顔集う場所

宮古小学校避難所で行われた炊き出し。本格仕様の鉄板で、味にも自信あり!大勢の人が集まり、たこ焼きを通して多くの会話が生まれています。この時間がとても大切なように思えます。

(7月9日 宮古小学校避難所)



頼れる若い力

岩大生のボランティアです。毎週土曜日に来てくださっています。(7月18日 宮古市街)

また、青山大学女子短期大学からもボランティアに来ていただきました。(7月19日~21日)



新メンバー加入!

新メンバーとは車のほうです。たちばな建設株式会社、長浜ワイズメンズクラブ、滋賀YMCAのご協力でご支援いただきました。今後この車を活用させていただき、さらに活動を展開させていきたいです。

(7月23日 新メンバー、滋賀YMCA、長浜ワイズメンズクラブの方々と記念撮影)



今後、被災地への支援は、長期的に行われていきます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

●救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

① 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金

口座番号: 7029115

名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
理事長 石渡隆司

感謝

2011年度

7月31日現在
順不同・敬称略

●東日本大震災 被災地支援募金・献品●

伊藤真一郎、勝又文子、花田暁、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤終馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川真輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斉藤稜太、阿部雄偉、長澤博貢、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光揮、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、菅恵、カトウアキコ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、柴角美和、八幡香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川真輔、サイトウリョウタ、ナガイヒロアキ、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明德短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ 東日本区

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 8月報告書

8月は子どもたちの夏休みとなり、お盆もあり宮古の人々にとっても行事などがたくさんある期間でした。今年のお盆は宮古の方々の中でも初盆になった方が多く、特別なお盆になったと思います。犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたします。

7月の後半から宮古市も夏休みとなり8月6日には南公園の仮設住宅ではたこ焼・焼きそばに加え、スイカ割りとスイカの種飛ばしを行いました。4歳から小学校6年生までの子どもたちが仮設住宅となっている公園の脇で無邪気に笑顔を見せながら遊ぶ姿は大人の方々にも元気を与えたようで笑顔で見守るお父さんお母さんがたくさんいらっしゃいました。(大塚)



南公園仮設でたこ焼・焼きそば・スイカ割りをしました。
(8月6日 南公園仮設)



ボランティアの方がバルーンアートを行っていただきました。
(8月6日 南公園仮設)

「YMCA」と背中に大きく書かれたハッピーを着て、たこ焼・焼きそばを提供。お祭りの屋台みたいです。
(8月6日 南公園仮設)



お盆期間中はたくさんのボランティアの方々が来ていただきました。
(盛岡YMCA宮古ボランティアセンター)

南公園に集まった子どもたちと一緒に撮った1枚。
(8月6日 南公園仮設)



宮古での活動実績(6月末日のべ人数)
スタッフ数 468人
ボランティア数 1867人

今後、被災地への支援は、長期的に行われていきます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

① 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金

口座番号: 7029115

名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
理事長 石渡隆司

感謝

2011年度

8月29日現在

順不同・敬称略

● 東日本大震災

被災地支援募金 献品 ●

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤終馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川眞樹、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斉藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田歆子、北川けい造、菅恵、カトウアキコ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、サトウシヨウ、遠藤品、ナガイヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、柴角美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川眞輔、サイトウリョウタ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明徳短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ 東日本区

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 9月報告書

9月11日で震災から半年と同時に18日でYMCAが宮古の地で活動を開始し、半年が経過しました。この半年間ゆっくりとしたスピードでしたが、じっくりと宮古の地に根ざした活動を行ってきました。3月に活動を開始した時は、宮古にはYMCAが無く、宮古の方々がYMCAを知らない中での活動スタートでした。半年たった今、多くの方に声をかけられたり、教会まで足を運んでくださって多くの作業の依頼を受けたりするようになりました。このように私たちは宮古の街に、コミュニティーに受け入れられて活動の場が与えられていると感じながら、毎日の作業を行っています。宮古の方々に受け入れていただけるようになったのは、ボランティアの方々が一生懸命作業している姿を見ていただいたり、作業に伺ったボランティアの方やスタッフがコミュニケーションをとる中で信頼関係を築くことができたからだと思います。私たちは6か月という時間をかけて、多くの方々が宮古の方々と向き合って築いた信頼という財産をこれからも大切に活動を行っていかねばなりません。



↑ 玉入れ



↑ 応援合戦相談中…
→ 応援合戦！



↓ じゃんけん列車



9月4日は大阪YMCAのスタッフ・リーダーが来て下さり、鉾ヶ崎小学校で運動会を行いました。この鉾ヶ崎地区は津波の大きな被害を受け、約800世帯の家が無くなったそうです。仮設住宅へ移り住んでの生活が始まっていますが、仮設住宅の場所はバラバラでなかなか今までのように会うことができないそうです。そこでYMCAでは運動会を企画し多くの方が集う場を設け、思いっきり体を動かし、大きな声をだして笑ってもらいたいと今回の運動会を行いました。約80名の方々がいらっしやって、子どもも大人も一緒に身体を動かし、大きな声を出して楽しむことができました。おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちが笑顔で走り回っているのを見て笑顔になっていただき、楽しい時間を過ごすことができました。

これから宮古は秋から冬に向けてどんどん寒くなります。冬に向けて準備を進めながら、宮古の人々のそばで活動を行っていきたくと考えています。



↓ フォークダンス



← 運動会後の炊き出し



宮古での活動実績(8月末日のべ人数)
 ☆受益者数 7897人
 ☆ボランティア数 3764人

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」開設し、長期的な支援を宮古をベースに行っています。皆様のご協力をお願い申し上げます。

- 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。
 - ① 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)

口座記号番号 02290-9-54655

 ※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。
 - ② 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金
 口座番号: 7029115
 名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口
 理事長 石渡隆司

感謝 2011年度 9月29日現在 順不同・敬称略

● 東日本大震災 被災地支援募金・献品 ●

伊藤真一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤柊馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川真輔、伊藤克彦、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斉藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、菅恵、カトウアキヨ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本ヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄角美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川真輔、サイトウリョウタ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明德短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ、東日本区、高橋千鶴子、小川武

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 10月報告書

9月17日、18日の2日間で「みやこ秋まつり」にたこ焼きとお好み焼きの出店、そして山車を引くお手伝いをさせていただきました。このお祭は実施するかどうか議論されてきましたが、宮古の町に再び活気を取り戻そうと開催を決定して行われました。お祭りには多くの方が来て下さり、賑やかな時間を過ごしました。会場の中を歩いていると、YMCAのゼッケンや名札を見て声をかけて下さる方が多くいらっしゃいました。毎日横断歩道で立っている前を車で通っていたり、買い物でお世話になっていたり、作業風景をご覧になられたりと日々私たちの事を見て下さっている方から「いつも御苦労さま」、「いつもありがとう」と声をかけて下さりました。少しずつですがYMCAが宮古の地で知られている事を感じることができました。また山車を引っ張るお手伝いでは、地域のおばあちゃんに踊りを教えていただきながら、山車を引っ張りました。たこ焼きやお好み焼きを通して、また山車を引くなかで様々な地域の方々との関わりがありました。

これから宮古は冬に向けてスピードを上げて寒くなっていきます。震災のことを思い出す方も少なくないでしょう。そのような方に寄り添いながら、必要なサポートを行っていきたくと考えています。



→これから引く山車の前で。
(9月17日 魚菜市場)



↑みやこ秋まつりたこ焼きの屋台
(9月17日 魚菜市場)

↑みんなでこの山車を引っ張りました。
(9月17日 魚菜市場前の道路)

宮古での活動実績

☆受益者数 11483人
☆ボランティア数 5643人
(9月末日のべ人数)



↑お客さんに手相を見てもらっています
(9月17日 魚菜市場)



←以前宮古小学校でたこ焼きをやったときに来てくれた中学生がまた来てくれました。
(9月17日 魚菜市場)

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」開設し、長期的な支援を宮古をベースに行っています。皆様のご協力をお願いします。

●救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

- 郵便振替 (同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)
口座記号番号 02290-9-54655
※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。
- 銀行振込み (下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金
口座番号: 7029115
名義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援
理事長 石渡隆司

感謝 2011年度 10月26日現在
順不同・敬称略

●東日本大震災被災地支援募金・献品●

伊藤眞一朗、勝又文字、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤稔馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山久、荒川辰輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔輔、長岡彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斉藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、菅恵、カトウアキヨ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、サトウシヨウ、遠藤品、ナガイヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄角美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川辰輔、サイトウリョウタ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明德短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たねばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ、東日本区、高橋千鶴子、小川武、山澤美和、八幡浜教会、豊中ワイズメンズクラブ、タナカヒロアキ、東京東ワイズメンズクラブ、敬和学園大学、名古屋ワイズメンズクラブ、北村工務店、東京八王子ワイズメンズクラブ

宮古観光協会公認 YMCA宮古復興支援Tシャツ

君も宮古Tシャツを着てみないか？



←左胸には、漁師をデザインしたマーク。背中には、「浜守人」の文字がプリント。→



←左袖には、宮古市のマークと、「復興」「本州最東端の街」の文字がプリントされています。



←右袖には、YMCAのマークを特別プリントしてもらいました。
※ モデルは盛岡YMCA職員 家村知佳さん（シロクマリーダー）



★協力してくれた宮古観光協会の皆さん↑

いまなら豪華、三大特典

- ★ 宮古市観光ガイドブック
- ★ 浄土ヶ浜 ポストカード
- ★ 「宮古におでんせ！」宮古観光協会の皆さんからのメッセージ。



★1枚 2,000円 ★サイズは、LL、L、M、S、SSの5種類
★色は、紺色。文字、マークは白

 宮古に訪れたボランティアの間では、宮古観光協会が作成したTシャツ「浜守人」が大人気です。“はんもうど”とは、宮古弁で漁師の呼称です。正しくは「浜人」ですが、今回の震災の復興への願いをこめて「守」の文字を加えてデザインされています。一番打撃を受けた水産業の振興が宮古市の復興の象徴となるように願いがこめられたものです。
 今回、宮古市の観光協会のご好意で、通常の「浜守人」Tシャツの右袖にYMCAマークのプリントを付け加え販売することが可能になりました。しかも、通常のTシャツと同じ値段でのご提供です。これは、**全国の皆さんに宮古を覚えてもらいたい。陸中海岸国立公園の真ん中に位置するそして美しい自然に溢れる宮古に一度足をはこんでほしい**という願いがあるからです。
 このTシャツの益金は、宮古市復興の義援金、ならびに盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの支援活動に充てられます。

みんなで作ろう！まちをかざろう！

美術工作ワークショップ

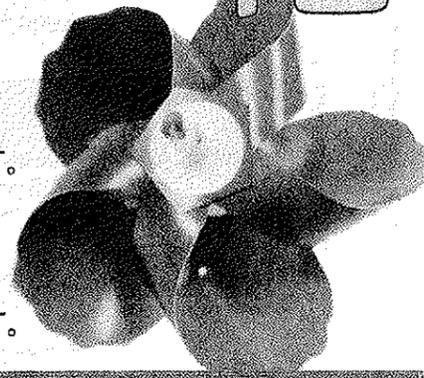
咲かせよう 風の花

いろとりどりの花のかたちをした風ぐるま「風の花」をつくります。

できあがった「風の花」で、まちを楽しく彩ろう。

小さな子どもから、お父さん、お母さん、

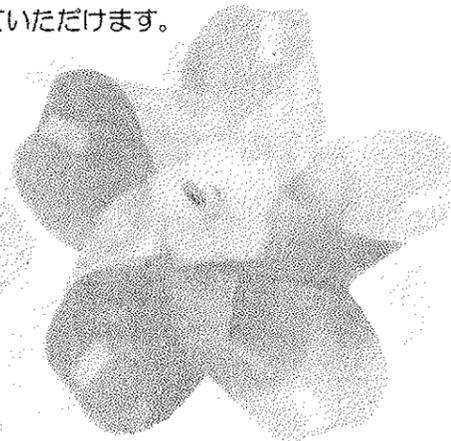
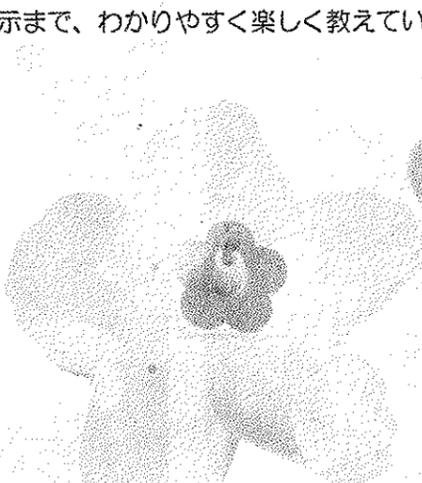
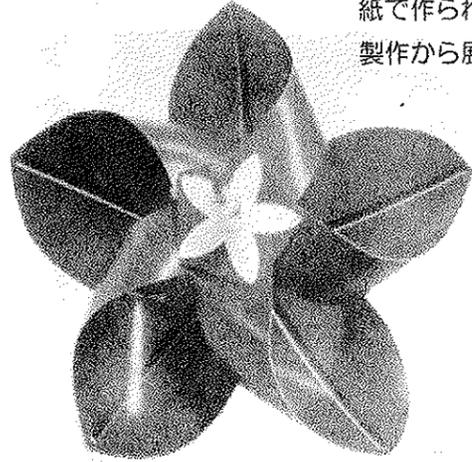
おじいちゃん、おばあちゃんまで、みんなでいっしょに楽しめます。



参加費 無 料	対象年齢	持ちもの	当日飛び入り歓迎
	小学校低学年～おじいちゃん、おばあちゃんまで	「はさみ」をご持参ください (お持ちにならなくても大丈夫)	ただし、工作以外の物に刃が刺さるため、参加者多数の場合にはキッドが行き渡らない場合があります。ご了承ください。

ワークショップ講師：広井 敏通 先生（ペーパークラフトアーティスト）

「風の花」の生みの親、広井敏通先生が伊豆下田（静岡県）より来訪。紙で作られた緻密で精巧な作品群は、国内外で高い評価を得ています。製作から展示まで、わかりやすく楽しく教えていただけます。



と き 平成 23 年 11 月 12 日（土） ①10:00～12:00 ②13:00～15:00

と ころ 宮古市立第二中学校グラウンド仮設（日の出町仮設）集会所
（宮古市日の出町 7-1）

申込み・問合せ NPO法人 いわてユニバーサルデザインセンター

〒020-0126 岩手県盛岡市安倍館町 6-2 はちやビル 3 号館 3 階
TEL: 019-681-3015 FAX: 019-681-3016 E-mail: iudc@samba.ocn.ne.jp (担当: 中浜)

この事業は東日本大震災復興支援財団「子どもサポート基金」の助成を受けて実施しています。

みんなで作ろう！まちをかざろう！

美術工作ワークショップ

咲かせよう 風の花

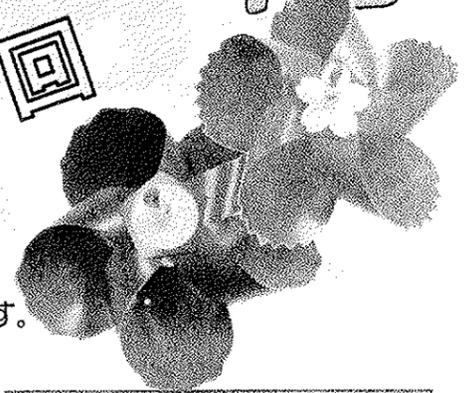
第2回

色とりどりの花のかたちをした風ぐるま「風の花」をつくります。

できあがった「風の花」で、まちを楽しく彩ろう。

ちいさな子どもから、お父さん、お母さん、

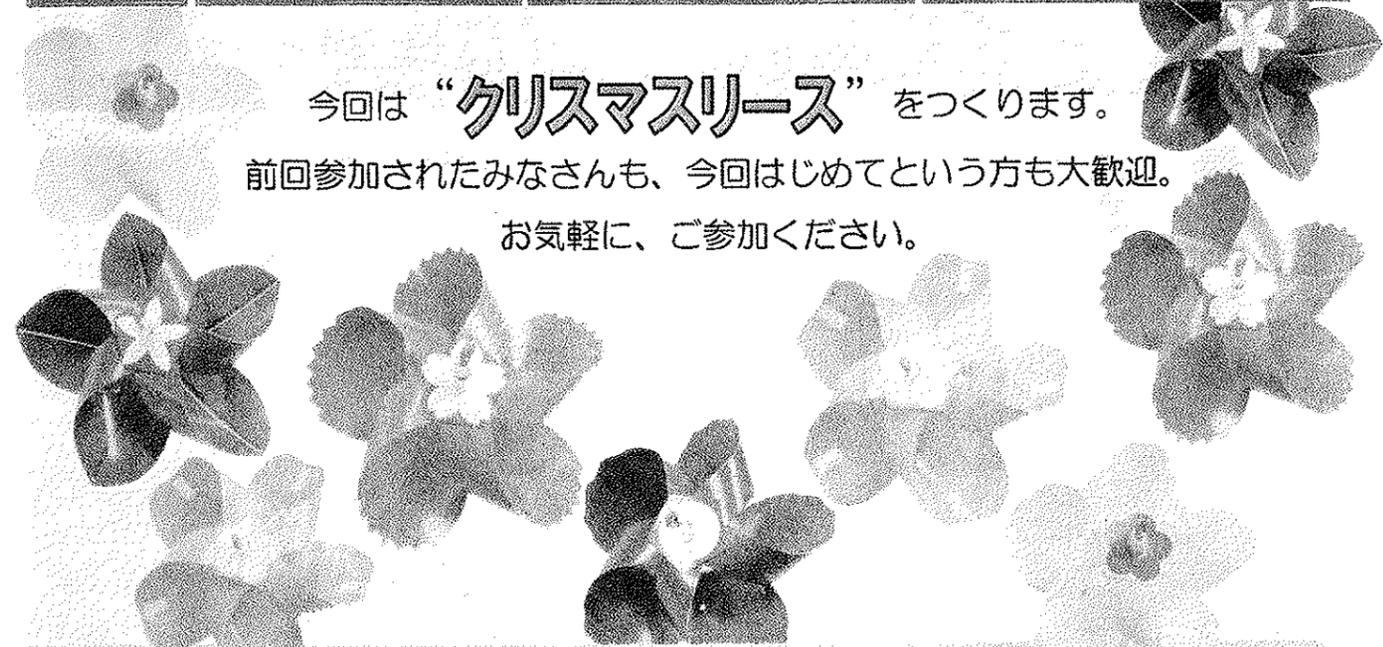
おじいちゃん、おばあちゃんまで、みんなでいっしょに楽しめます。



参加費 無 料	対象年齢	持ちもの	当日飛び入り歓迎
	小学校低学年～おじいちゃん、おばあちゃんまで	「はさみ」をご持参ください (お持ちにならなくても大丈夫)	ただし、工作以外の物に刃が刺さるため、参加者多数の場合にはキッドが行き渡らない場合があります。ご了承ください。

今回は“クリスマスリース”をつくります。
前回参加されたみなさんも、今回はじめてという方も大歓迎。

お気軽に、ご参加ください。



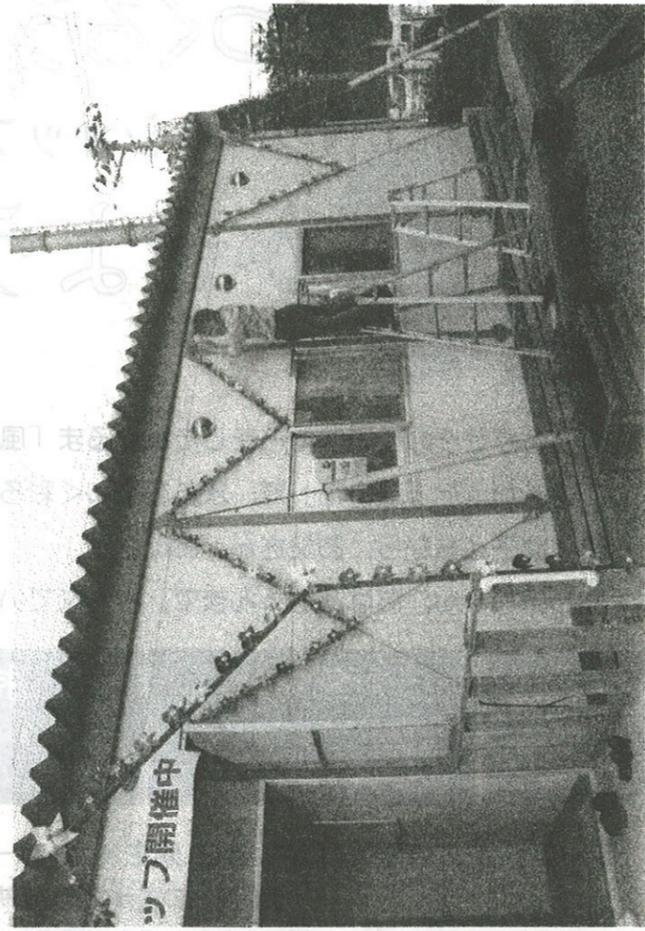
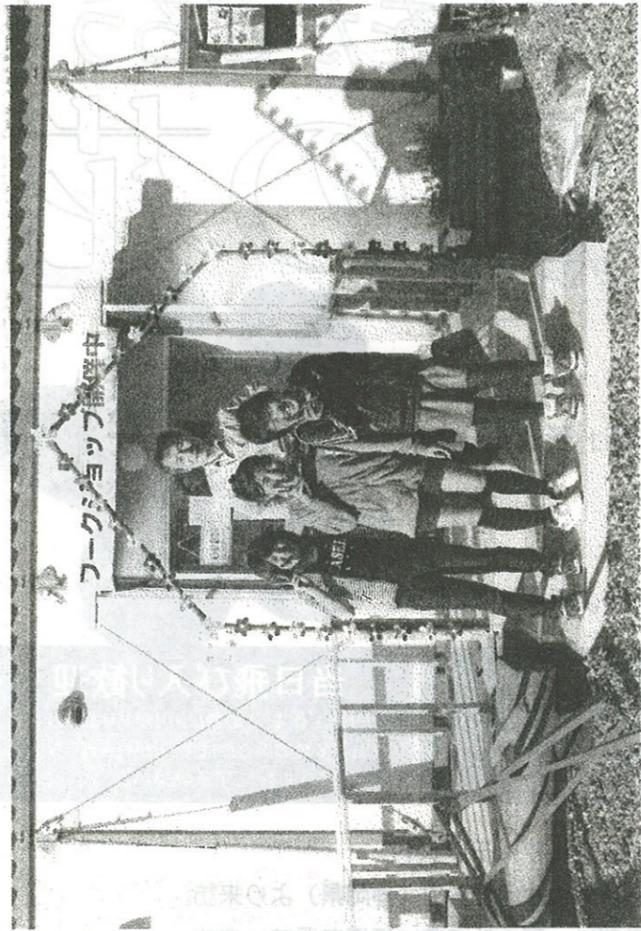
と き 平成 23 年 12 月 3 日（土） ①10:00～12:00 ②13:00～15:00

と ころ 宮古市立第二中学校グラウンド仮設（日の出町仮設）集会所
（宮古市日の出町 7-1）

申込み・問合せ NPO法人 いわてユニバーサルデザインセンター

〒020-0126 岩手県盛岡市安倍館町 6-2 はちやビル 3 号館 3 階
TEL: 019-681-3015 FAX: 019-681-3016 E-mail: iudc@samba.ocn.ne.jp (担当: 中浜)

この事業は東日本大震災復興支援財団「子どもサポート基金」の助成を受けて実施しています。



いわて災害復興情報リンク集

URL → <http://www.iding.org/hukko/>

東日本大震災発生を受け、各団体が各地域の支援と同時に現地の被災状況報告や、支援物資・義援金などの呼びかけをされています。

その災害支援に関する情報を発信しているホームページのリンク集です。

いわて災害復興情報リンク集

東日本大震災発生を受け、各団体が各地域の支援と同時に現地の被災状況報告や、支援物資・義援金などの呼びかけをされています。
その災害支援に関する情報を発信しているホームページのリンク集です。

災害支援に関する情報をNPO法人アイディングまでお寄せ下さい。

E-mail: fukko@iding.org

現地情報発信ホームページ一覧

H23.10.1(SAT)更新

・企業のチャリティ商品情報コーナー設置

・リンク追加2件

■リンクメニュー

■現地情報

■被災地支援情報

■被災者受け入れ支援情報

■市内企業からの支援情報

■専門家からの情報

■義援金に関する情報

■災害情報ポータルサイト

■企業のチャリティ商品情報NEW

※新着リンクは、各項目の上に更新されます

04057

■岩手県立大学ぶらボラ

被災地での支援活動を通して現地状況をレポート

URL: <http://ipuvc.cocolog-nifty.com/>

▼携帯からの閲覧はこちらから

URL: http://app.f.m-cocolog.jp/t/typecast?blog_id=1312740&user_id=1329916

■立ち上がろう!岩手『岩手発・被災地支援情報サイト』

三陸沿岸地域の現状を発信

URL: <http://www.riseiwate.net/>

■震災関連情報の提供

他言語による被災者の安否情報を発信

URL: <http://www.iwate-ia.or.jp/>

■紫波町災害ボランティアセンター

現地への支援活動などを発信

URL: <http://kazenami-design.sakura.ne.jp/index.php/support/>

■釜石やっべしFM

釜石のFMラジオ

URL: <http://www.fmii.co.jp/kamaishi/>

▲ページ上部に戻る

被災地支援情報

いわて復興応援グッズ

URL → <http://www.iding.org/sien/item/>

岩手県被災地の復興を応援するチャリティーグッズをご紹介します。



● NPO 法人 復興応援グッズ

- ※法人格省略 あ→A→1 用
- ▶ 企画プランニング・いわて
- ▶ 芽でるTシャツ
- ▶ SAVE IWATE NEW
- ▶ 三陸復興カレンダー

● 寄付金付き商品リンク

- 復興応援グッズ登録用紙



<登録用紙>

- 復興グッズ情報募集
- 復興グッズ販売会情報募集

● お知らせ

- ・11/24・・・三陸復興カレンダー情報掲載
- ・10/22・・・寄付金付き情報リンク集コーナー設置
- ・8/1・・・復興グッズ販売会情報募集
- ・7/27・・・芽でるTシャツ情報掲載

● 商品紹介

商品名・・・芽でるTシャツ 詳細を見る

※サイズに限りがございます。お問い合わせの上ご確認下さい。

在庫・・・男女兼用160サイズ、Sサイズ在庫あり

■ 価格・・・1枚 ¥1,500-

■ 収益金・・・同法人の支援物資デリバリープロジェクトの活動資金になります。

■ 問合せ・・・NPO 法人 企画プランニング・いわて



いわて災害復興情報リンク集
岩手県被災地の復興を応援する団体のリンク集

● お問い合わせ

もりおか市民活動支援室
盛岡市中ノ橋通1-1-10
TEL: 019-651-0645
FAX: 019-651-0646
Mail: sien@iding.org



商品名・・・三陸復興カレンダー 詳細を見る

■ 価格・・・1部 ¥1,000-

■ 収益金・・・SAVE IWATEの被災地支援の活動資金と、ふるさと岩手の芸能とくらし研究会」が取り組んでいる「岩手三陸沿岸の民俗芸能応援募金」への寄付金になります。

■ 問合せ・・・SAVE IWATE

東日本大震災被災地の復興を応援するチャリティーグッズの販売会などのイベント情報を募集しています。また、チャリティーグッズ販売会に併せて出店募集についての情報も、是非お寄せ下さい。同サイト及び、「もりおかNPOブログ」にてご紹介させていただきます。

▼ 募集内容

■ 対象・・・被災地復興を目的とした販売会等

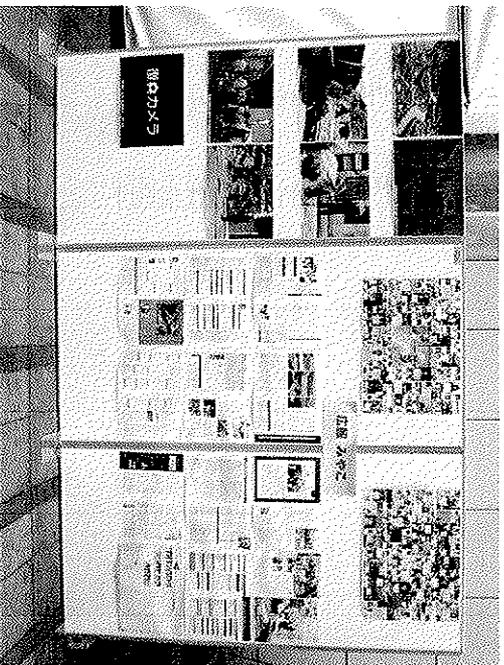
肴町商店街での展示の様子



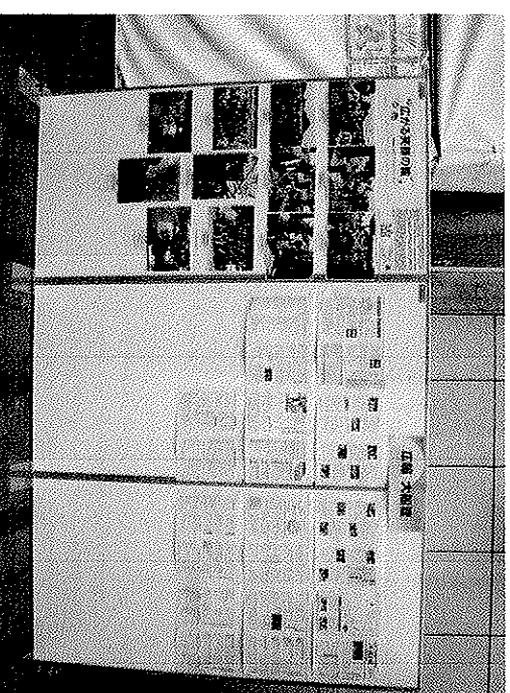
NPO 法人地球市民 ACT かながわ/TPAK
(9月15日～9月29日)



社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会
(9月29日～10月13日)



NPO 法人@リアス
(10月13日～10月27日)

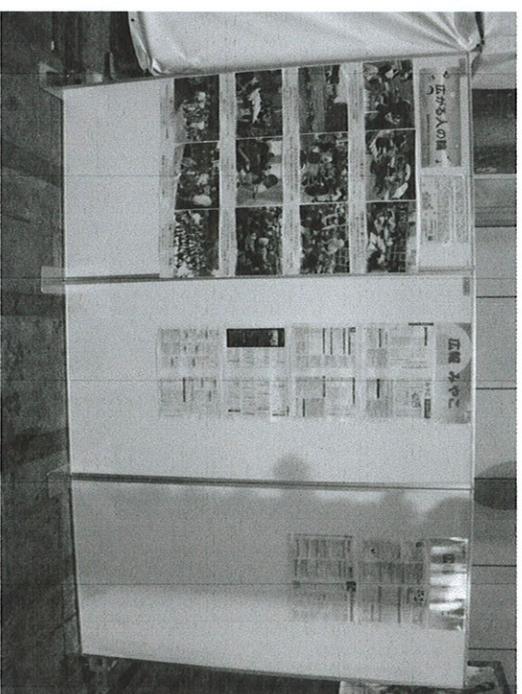


NPO 法人チャイルド・フアンド・シヤ/ピ
(10月27日～11月10日)



NPO 法人@リアス

(11月10日～11月24日)



NPO 法人チャイルド・フアンド・ジヤピ

(11月10日～12月8日)

■今後の予定

NPO 法人盛岡 YMCA 12月8日～12月22日

今後、肴町商店街での展示をご希望の方は、お気軽にNPO 法人アイチャイニングまで、お問合せください。
よろしくお願ひします！

もりおか復興応援フリーマガジン

Stitch

[ステッチ]

vol.02
2011.11

02 支える気持ちをつないでいこう!

今こそはじめようボランティア

04 盛岡市社会福祉協議会 藤澤佳代さん

05 岩手県立大学 復興girls*

06 ボランティアに関する100人アンケート

07 ADBOAT JAPAN

初めてでも! 一人でも!

「盛岡市かわいキャンプ」活用ガイド

09 日帰りボランティア体験レポート

10 「避難者のみなさまへ」生活支援情報

11 「避難者のみなさまへ」もりおか復興支援センター

12 いしがきMUSIC FESTIVAL 2011 三陸前夜祭レポート

13 買い物で応援しよう!

14 おすすめ宴会ガイド

支える気持ちを

つないでいこう！

東日本大震災から8カ月以上がたちました。

被災地では、避難所がその役目を終え閉鎖となり、まちを覆っていたガレキはきれいに寄せられ、自衛隊や全国の警察もそれぞれの「場所」に戻っていきました。

被災地のニュースがトップや一面を飾ることはほとんどなくなり、ボランティアの数もだいぶ少なくなりました。

それは、被災地が復興に向けて歩き出した立ち上がりはじめた、という証。

だけど、まだ「終わり」ではありません。

これからやっと、はじまるのです。

大きく強い力が必要だった時期を過ぎ、今必要なのは、小さくても、ずっと続けていく力。

長い道のりを、ときに寄り添い、ときには少し後ろで歩いてくれる、さりげなく、たしかかな力。

被災地ではまだまだ、たくさんの方の力を必要としています。

今回のstitchは「ボランティア」を特集。被災地が抱える問題も、必要とする支援のかたちも変化しつつある今、ボランティアに求められていることはどんなことなのか。そして、今からボランティアをはじめするには何をしたらいいのかなど、いろんな角度から考えました。

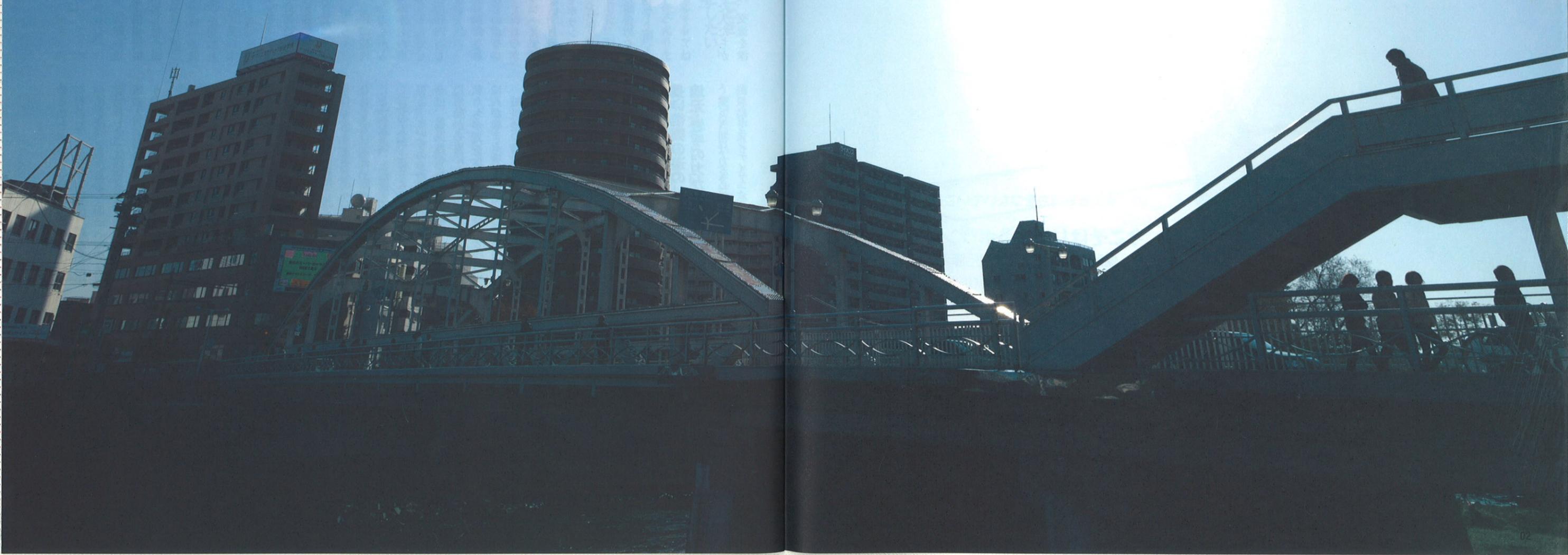
次々と新しいニュースがうまれる日々なかで「あの日」を忘れずに見つめ続け、支え続けていくことは、けっこう難しい。

でも、同じ岩手にいる私たちなら、それができる。

stitchは、そう確信しています。

ひとりひとりの小さな力を集めて、たしかかな力に。

「支える気持ち」を届けよう、盛岡から。今こそはじめよう、ボランティア。



私たちにできることが、まだまだある。

今こそはじめよう ボランティア

ボランティアに
来てほしい

藤澤佳代さん

盛岡市社会福祉協議会 地域福祉課 主事
ボランティア受け入れの担当をしていて、時々被災地のサロンにも顔を出すなど、ボランティア事情に精通している。

今、被災地で必要なのは「心のふれあい」

盛岡市民のボランティア活動をサポートする相談窓口として、情報提供やマッチングなどを行っている「社会福祉法人 盛岡市社会福祉協議会(社協)」東日本大震災発生後も、すぐに「盛岡市災害ボランティアセンター」を立ち上げ、県内外からのボランティア受け入れに対応してきました。

「震災後の数ヶ月は、ボランティア対応や情報収集、被災地の社会福祉協議会との連絡や支援に追われる日々。ほんとうに風のような忙しさでした」

そう当時を振り返るのは、ボランティアの受け入れを担当している藤澤佳代さん。「だけど、半年を過ぎた辺りから落ち着いてきましたね。県外からのボランティアの数もだいぶ減りましたし、要請されるボランティアの活動内容も、震災直後とはかなり変わりました」

ガレキが片付き、避難所も閉鎖された今、ガレキ撤去や炊き出しのボランティアは「いい意味で」減っているそうでも、だからといって「ボランティアは必要なくなった」わけではない、と藤澤さん。では今現在、被災地でボランティアに求められていることは、どんなことなのでしょう？

「震災当初は力仕事、体力勝負のものが多かったのですが、今はソフト面、つまり心のケアが中心になりつつあります。社協に要請が入るボランティアは『サロン活動』が多いですね」

サロン活動とは、被災した人たちが気軽にしゃべりを楽しみ、交流を深

めることができる場所やきっかけをつくること。ボランティアは、あるときは「聞き役」、またあるときは「ネタ提供者」として、気持ちに寄り添い、その地域の人たちどうしが打ち解けられるよう、サポートをします。

「被災者の方に『どこから来たの?』と質問されて、そこから話が盛り上がることもあります。岩手県人同士だと共通の話題もあるし、なんとなく方言も理解できるので、お年寄りとも話が通じたり、親近感を持ってもらえたりしますよ」

ただし、被災者の方々と大勢で盛り上がる時もあるけれど、誰も来ない、という日もあります。ボランティアはそんな日も受け入れ「誰も来なくても待つこと」が必要、と藤澤さんは言います。

「外の人が主体となって被災地を引っ張る、というのが震災当初の支援。でも今は、被災地の人たちの歩調に合わせて活動が必要になっていきます。サロンも私たちが人を集めるのではなく、自然に人が集まる場所にしなければ」

被災地の自主性を尊重する支援が必要になりつつある今、ボランティアにも被災地の状況や都合に合わせた活動が求められています。「必要なきときに必要な支援をする」ことを、速くにいる人に求めることは難しい。だからこそ今、同じ岩手に暮らす私たちの力が必要となってくるのではないのでしょうか。

長い復興の道のりには、地元・岩手の力が必要

震災当初は力を必要とする活動が多かったボランティア。今ではサロン活動

「被災地企業の商品を販売することで、復興を後押ししている女子大生たちがいます。その名も「復興ガールズ」。岩手県立大学の2年生9人で結成され、沿岸の被災企業などの商品開発に関わるほか、首都圏のイベントなどで販促PR活動もおこなっています。

岩手のためにできることを 肩肘張らずにカタチにしたい

「被災地企業の商品を販売することで、復興を後押ししている女子大生たちがいます。その名も「復興ガールズ」。岩手県立大学の2年生9人で結成され、沿岸の被災企業などの商品開発に関わるほか、首都圏のイベントなどで販促PR活動もおこなっています。

イベントやネットを通じて注目を集めてきた復興ガールズですが「支援活動とはこうあるべき」という気負いは感じられず、いたって自然体。「岩手のために何かしたい」という純粋な気持ちで、「自分たちにできること」「みんなの力を借りながら」肩肘張らずにカタチにし、少しずつ、でも着実に沿岸を元気にしています。

思いを声に出すだけで、 すべてが始まる

「何かしたい」
復興ガールズは、リーダー・野中里菜さんのそんなひと言から始まりました。

沿岸被災地の惨状を知ること、いともたつてもいられないという思いを強くした野中さん。「何かしたい」と口にした思いに、友人たちが共感。「何かしよう」と活動を開始しました。みんなで「復興を支えるためにするべきこと」を模索しているうちに「被災地の企業を元気にしたい」と考えるように。

手探り状態の彼女たちは、大学の先生のアドバイスで「盛岡手作り村」の佐々木雷蔵さんに協力を依頼。佐々木さんが紹介してくれた企業や団体と直

接連絡を取り、考えた企画を見てもらうなどアプローチをはじめました。

自分たちらしいやり方で 岩手の漁業をPR

「大船渡産のワカメを販売し、地元の復興を応援したい」
そう考えたのは、大船渡出身の千葉彩加さん。「どうすればふるさとへの役に立てるのか」と考えていたとき、野中さんに声をかけられて復興ガールズの一人となりました。

さっそく千葉さんは大船渡の企業に企画を持ち込みますが、震災の影響でワカメを販売する体制が整っていないことを知ります。がっかりする千葉さんに、企業の担当者はこう話したそう。「今年は何にもできないけれど、三陸産のワカメのことを忘れてほしくない」

その言葉に、「岩手の漁業全体をPRしよう」と決めた復興ガールズは、「宮古のワカメ」を自分たちが企画するイベントで販売することに。さらには「消費拡大が漁業の復興につながる」と、ワカメを使った料理のレシピを考え、一カ月間、毎日ウェブサイトで紹介。そんな彼女たちらしいアイデアで、少しでも多く販売につながるよう取り組みました。

支えているつもりが、
支えられている

そのワカメを販売したイベントが、9月16・17日に東京でおこなわれた「いわて復興フェア」。彼女たちが企画し、内陸・沿岸の6つの企業・団体の協力を得て開催にこぎつけました。物産を販売するだけでなく、高田松原の松を使っ

たキーホルダー、裂き織のコースターなど、オリジナル商品の開発にも関わっています。

「こんなに大きなことができるようになると思わなかった」と口を揃えるメンバーたち。「言い出しっぱ」のリーダー・野中さんは「ひとりでは絶対なにもできなかった。『何かしたい』という一言にみんなが集まってくれ、それぞれが役割を分担し、カタチにしてきました」と話します。

長期的な支援が必要とされる沿岸地域復興のために、これからも活動を続けて行きたい、と、決意を語る復興ガールズ。被災地を応援、といながらも、実際には自分たちが被災地のみならず、支えられ、助けられている、と感じることも少なくないそう。

応援したい、役立ちたい。復興ガールズの活動は、その気持ちを行動に移す大切さを伝えてくれます。メンバーの米沢あゆみさんはこう言います。「なにかしたい、という気持ちがあるなら、それを誰かに伝えてほしい。たったそれだけのことがきっかけになるんです」

ボランティアの申し込み、相談を受け付けています

盛岡市社会福祉協議会では、震災関連のボランティア希望者への情報提供やマッチングを行っています。窓口や電話で問い合わせる際は、「震災関連のボランティアをしたい」と伝えるとスムーズ。活動場所や活動内容の希望なども、相談を受け付けています。

希望する活動とのマッチングがうまくいかない場合でも、その活動を受け入れできそうな団体の情報を提供するなどで対応しています。まずは気軽に問い合わせしてみてくださいね。

盛岡市社会福祉協議会

- 〒020-0886 岩手県盛岡市若園町2番2号 盛岡市総合福祉センター内
- TEL:019-651-1000
- FAX:019-622-4999
- E-mail: info@morioka-shakyo.or.jp

次回イベント

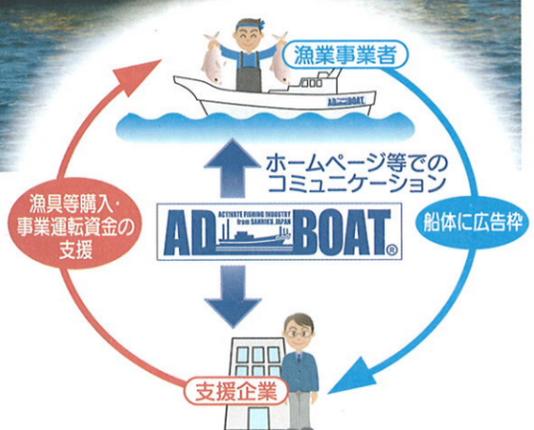
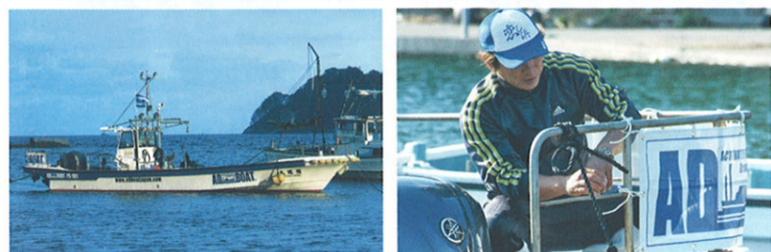
WAのまちもりおか 森のリースフェスティバル

- 福祉ブランド&岩手県立大学 復興girls*チャリティ販売会
- 12月3日(土)、4日(日) 10:30~16:00
- プラザおでって3階会議室
- 人気の高田松原の松を利用したキーホルダー「松光」、田野畑ハックの家の「裂き織コースター」などさまざまなグッズの販売会。

復興支援への試み 漁船に広告を

「ADBOAT JAPAN」

企業が漁船に出した「広告」が、漁師への支援になる。ダイレクトかつ「見える」支援のカタチを実現したプロジェクト「ADBOAT JAPAN」。立ち上げの中心となった菅原誠さんには、プロジェクトの理念や可能性を伺いました。



「生々生きて働く漁師の姿」を盛岡市内で靴店を営む菅原誠さんは、震災の発生直後からほかの支援者とともに被災地を回り、支援物資として靴を提供してきました。被災地のほとんどは、漁業を主幹産業とする漁師町。港や船は壊滅的な被害を受け、漁業再開の見通しが立っていませんでした。そんな状況を見るにつけ「本当に必要な支援とは何か」を考え続けていた、と振り返ります。

沈み込んでいく大人たちの姿を見て子どもたちが故郷を嫌いになってしまわないだろうか。そう思ったなら、子どもはここを離れ、ゆくゆくは町がなくなってしまう。なによりもそのことを心配した菅原さんたちは、「漁師が元気になるれば、町も活気を取り戻す」と考え、漁師たちが再び漁に出られるよう支援する方法を模索しはじめました。

明日をも見えない日々を送る漁師たちのために、スピードイヤーな支援をしたい。でも、税金や義援金による支援は手元に届くまでに時間がかかるうえ、様々な制約をうけてしまう可能性がある……。これらの問題点をクリアにし、素早くかつ柔軟に対応できるのは、企業による支援である、と考えた菅原さんたち。さらに、支援する側とされる側で互いに見えていないことに気づきます。顔が見える明白な支援の方法。その答えが、企業ロゴや企業名を船体や大漁旗に載せるというやり方でした。

漁師と企業をダイレクトにつなぐ

特典もいろいろ! 個人で参加できる「個人アドボート」

企業だけでなく、個人での参加もできる「ADBOAT JAPAN」。支援した船から海産物ギフトが届くなど、支える側にもうれしい特典がいろいろあります。

■「個人アドボート」参加特典

- 「ADBOAT JAPAN」ホームページでの名前掲載
- 支援船からの海産物ギフト(年1回)
- 「ADBOAT JAPAN」主催イベントへの優待(現地および都内)
- 「ADBOAT JAPAN」ロゴ入りオリジナルグッズ

■参加申込み方法

必要事項を明記の上、メールで申込み。返信メールが届いたら、1週間以内そのメールに記載してある口座へ参加料金を振込みます。

- 個人アドボート参加料金/一口21,000円(税込)※1年間有効

■申込み必要事項

氏名/HPのリストに記載する名前/住所/電話番号/メールアドレス/漁師たちへのメッセージ/その他意見等

■メール送付先 INFO@adboatjapan.com

プロジェクトに参加した企業は「広告費」を使い、漁師たちの船に社名を入れる。その料金のうち諸費用を除いた分が漁師に渡り、漁業の運転資金に使われます。企業は支援活動を経費として計上できるうえ、「どんな支援をしているか」を明確に示すことができます。一方漁師は、「広告収入」という、使用道の自由度が高いお金を手に入れることができます。

「ADBOAT JAPAN」と名付けられた、このプロジェクトの広告掲載期間は1年間。現在18艘の参加が決まっており、10月末には第一艘目の船を出港させました。双方にとってメリットとなる、新しい支援のカタチ「ADBOAT JAPAN」。最低10年は続けられる組織づくりを目指している、という菅原さんは「このプロジェクトにとっていちはんの利益は、漁師さんたちが復興して喜んでくれること」と話してくれました。

ボランティアに関する100人アンケート

ボランティアってどう思う?

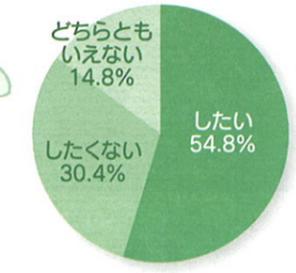
通りがかりの盛岡の人たち100人に聞きました!

募金をしたり、被災地のものを買ったり。ボランティアだけが支援の形ではないけれど今でも必要とされているボランティア。「本当のところ、みんなそんなにボランティアしているの?」気になるみんなのボランティア体験について、アンケートを実施しました。

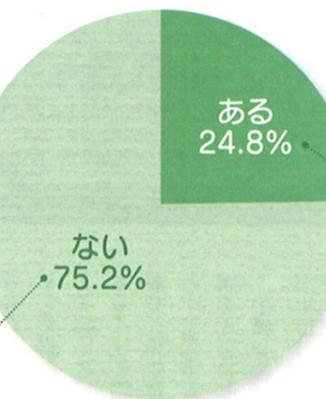
みんないろいろ考えてる!

- 被災地の企業の回復が必要 (30代/男性)
- いま、人手は足りてるんですか? (20代/男性)
- 子どもと一緒にできることがあればいい (30代/女性)
- 小さなことでも動く、動かなければ始まらない!! (20代/男性)
- 忘れない。続ける。報道する (30代/男性)
- 髪のカットなどで役立ちたい (美容師/女性)
- やたらと「がんばろう!」って言わない (30代/男性)
- 身体を動かす場が提供できれば (30代/男性)
- ボランティア情報が簡単にわかるようになればいい (30代/男性)
- そのときのニーズに合った、意味のある支援をしたい (30代/女性)
- ボランティア指導をしたい (歯科衛生士/女性)
- ボランティア情報が簡単にわかるようになればいい (30代/男性)

Q2 今後、ボランティアをしてみたい?



Q1 東日本大震災後のボランティア経験は?



「ないと答えた人」の参加しない理由

時間が無い/土地勘がないから迷惑になりそう/家族・親族の手助けが優先/足がない/本当に役にたつ活動かどうか分からない/どこで募集しているかよくわからない

「あると答えた人」のボランティアの種類

食べ物の販売/募金活動/ガレキ撤去/炊き出し/物資提供/駐車場整理/清掃/物資整理/血圧測定/サロン活動 など

Q3 どんな支援が必要だと思いますか?

- 募金 22人
- 心のケア 21人
- がれき撤去 7人

未経験者の半数以上がボランティアに肯定的

半数以上がボランティアには参加してみたいと考えています。参加したくないと答えられた方も「時間があれば足を伸ばして直接支援をしてみたい(30代/男性)」「盛岡でできることがあれば(40代/女性)」など条件的に折り合わないから参加できない、できる範囲なら応援したいという意見が多く見られました。

震災ボランティアは、被災地での直接支援のほか、募金や物資提供なども。回数は1回から定期的に行っている人までさまざま。

ボランティア活動は、できることをムリのないペースで行うのがいちばんゼロよりは1回、1回よりは定期的に行うのが理想ですが、はりきりすぎると負担が大きく辛くなってしまいうことも。また、ボランティアの種類によって合う、合わないという相性もあります。「まずお試しで1度」1月1回くらいなら」という姿勢の方が長続きするようです。

この震災を忘れずに長く寄り添うこと

現地に行っている直接支援は少なくとも丸1日かかります。しかも通常、事前に情報収集、申し込み手続きなどの準備が必要。「各団体の明確な活動内容、募集内容を発信してほしい(20代/男性)」との声も。ボランティアのニーズは刻々と変わっていきます。希望の活動が、参加できる日にあるとは限らず、「したい活動」にこだわる場合は、こまめな情報収集が必要です。さらに現状を指摘する意見もありました。

「震災当時は内陸でも生活が不自由で、ボランティアに対して気持ち的に積極的だったが、時間の経過とともに、意識が薄れてきたのかもしれない(30代/男性)」

同じ県内に住む私たちが、常に沿岸の復興を意識し続けることがいちばんの支援なのかもしれません。

アンケート調査方法

- stitch編集部が盛岡市内にて通行者への聞き取り調査を行い、盛岡市在住者88人を含む岩手県内在住者の回答を集計した。
- 調査場所/盛岡市中心部
- 調査期間/2011年10月11日~21日(計11日間)
- サンプル数/117人(男57女60)
- 年齢構成/20代28人/30代32人/40代25人/その他32人



初めてでも!

一人でも!



日帰りボランティア体験レポート かわいいキャンプ

「気軽に参加を!と言われても…」
わからないことが多いとためらいも大きいもの。
そこで、盛岡市かわいいキャンプを通じた
一日ボランティア活動をレポートします。

※ボランティアの内容は活動実施日のものです。
その日によって、派遣先、活動内容は異なります。

13:30 午後の活動

リーダーの指示のもと、午後の作業開始です。午前中の進捗を見て、重点ポイントなどが示されることも。



区画の入口や、基礎のまわりなどを重点的にきれいにします



15:00 作業終了



作業終了後、ボランティアセンターに戻り、すべての道具を薬液に浸して洗浄、片付けます。送迎バスで盛岡市かわいいキャンプへの帰路へ。

宿泊者の夕食調理の片付けはスーパーに寄ります

9:30 到着、活動開始!



作業内容の説明をリーダーから受けて活動開始。この日は、基礎だけが残る区画の整備作業の4日目。表面をならす仕上げ作業です。



30分おきに休憩をとります。

12:00 お昼休み

ボランティアセンターに戻ってお昼休み。カップ麺や温かい飲み物用にお湯が用意されていました。

体調と相談しながら無理せず作業しましょう

沖縄や九州からのボランティアさんもいて、いろいろな話題で楽しく過ごしました

17:00~17:30 盛岡市かわいいキャンプ到着

実働4時間半ほどの活動を終えて、かわいいキャンプに到着。解散です。おつかれさまでした。



作業終了後は撮影。みなさんのすがすがしい表情が印象的でした

~3日前 申し込み

かわいいキャンプに電話します。活動内容(がれき撤去、サロン活動など)の希望に応じ、派遣先が決まります。ウェブサイトから申請書をダウンロードし、記入・提出して申し込み完了です。

持ち物や注意事項、気になることは聞いておきましょう

~前日 保険加入

ボランティア保険の加入は必須。住んでいる地域の社会福祉協議会で加入します。

加入には印鑑が必要です

7:30 集合、受付



国道106号沿いの盛岡市かわいいキャンプに集合。340号と交差する手前、左手に見える学校の建物がかわいいキャンプです。到着後は受け付けをします。

8:00 オリエンテーション



本日の仲間たちとの顔合わせを兼ね、活動内容の説明を受けます。※派遣先は日にちや活動内容によって異なります

今日の活動は山田町です

8:15 出発



盛岡市かわいいキャンプから支援場所までは送迎車で移動します。ボランティアリーダーから注意事項の説明があります。

途中でコンビニに寄り、昼食&飲み物を購入

山田町のボランティアセンターに到着。作業に必要な資材を積み込みます。

活動に必要な道具は各自持って行くのがルール

盛岡市

ボランティアと被災地をつなぐ拠点

「かわいいキャンプ」活用ガイド



1朝のオリエンテーションから活動がはじまります
2活動はその日の依頼によって異なります
3長期滞在や団体ボランティアの人は自炊もできます
4活動後、ほっとするひとときです

被災地でボランティア活動をしたい! だけど、どこに相談したらいいんだろ? そんな「意欲はあるのに、何から始めたらいいかわからない」という人に、利用をおすすめするのが「盛岡市かわいいキャンプ」。沿岸被災地での長期的なボランティア活動を支援するため、盛岡市が設置した施設です。

「盛岡市かわいいキャンプ」の主な機能は①ボランティアの受け入れ、②被災地のボランティアニーズとのマッチング、③被災地(活動場所)への送迎、の3つ。ボランティア希望者にとってハードルになりがちな「どこに相談すればいいかわからない」「どんな活動をしてほしいのかわからない」「被災地へ自力で行くのがむずかしい」という問題を一度に解決し、スムーズに活動できるようサポートしています。また、活動の前にオリエンテーションを行い、作業内容の説明や参加者同士の顔合わせをしますので、ボランティアは初めて、1人でも参加したいという人でも安心です。

現在、「盛岡市かわいいキャンプ」に求められているボランティア活動は、被災地の人たちとおしゃべりなどで交流する「ふれあいサロン」のお手伝い、がれき

DATA

- 宮古市川井1-60-3
- ☎0193-76-2005
- FAX 0193-76-2231
- (受付は午前9時~午後6時まで)
- e-mail: kawai-camp@echina.ne.jp
- http://www.morioka-shakyo.or.jp/
- 利用料 無料
- 休み/年末年始
- 駐車場/60台
- 交通
- 【自動車】盛岡から約60km(約1時間30分)
- 【バス】盛岡駅前、盛岡バスセンターから106急行利用。上川井停留所下車(約1時間30分)
- 【鉄道】JR盛岡駅から山田線利用。陸中川井駅下車(約1時間30分)

「盛岡市かわいいキャンプ」機能と設備

- 被災地のボランティアニーズとのマッチング(活動の紹介)
- 沿岸被災地までの送迎車両の運行
- 靈活泊りができるスペースの提供
- 仮設シャワー、洗濯機、調理室

参加対象者

沿岸被災地でボランティア活動を希望する個人および団体(高校生以上)
※高校生は親権者の同意が必要です。

撤去、写真洗作業など。その日にできる活動は被災地から求められている活動次第ですが、「こんなことをしたい」「これならできる」など希望のある人は、受付時に伝えることもできます。

「盛岡市かわいいキャンプ」は宿泊設備を無料で利用でき、ここを拠点に数日、数週間単位でボランティア活動をする人もいますが、朝8時からのオリエンテーションに参加できる人なら、日帰りも大歓迎。盛岡から「盛岡市かわいいキャンプ」までは車で約1時間20分。バス利用の場合は、5時45分盛岡駅発の「106急行(岩手県北バス)」に乗れば間に合います。被災地でのボランティア、やってみよう、興味がある、という人は、「盛岡市かわいいキャンプ」でその一歩を踏み出しましょう。

もりおか復興支援センターに行ってみよう!

東日本大震災の被災者を支援する拠点施設として、今年7月に開設された「もりおか復興支援センター」。盛岡市周辺に一時避難、移住をした被災者の方々の情報収集や交流の場にもなっています。暮らしや仕事についての相談、支援物資の受け取りのほか、お茶を飲みながら楽しそうにおしゃべりする人、囲碁を楽しむ人たちの姿もあって、センターの中は明るくなごやかな雰囲気です。いつでも気軽に立ち寄ってくださいね。



全国から支援物資として届いたタオルと裁縫道具を使い、被災者のみなさんがつくる「復興ぞうきん活動」。その参加者が週

一度「もりおか復興支援センター」に集まり、おしゃべりで交流をする場が「紡ぎサロン」です。参加しているのは、現在盛岡市周辺に居住している被災者の

ぞうきんづくりでつながる交流の輪「紡ぎサロン」



秋・冬物の衣料が豊富に揃う「物資受け渡しコーナー」



人、情報、モノが集まる「もりおか復興支援センター」。その2階には、衣料品を中心とした物資の受け渡しコーナーが設置されています。正面玄関から入り、左奥にある階段を昇って2階へ。入り口でもらう用紙に名前、住所を記入し、簡単なアンケート項目に答えた後、あとは必要なもの、

欲しいものを選ぶだけ。持ち帰り用に大きめのバッグ等を持参すると便利です。ここにあるのは、全国から届いた衣料品や靴。これからの時期に必要な、秋・冬物も豊富に揃っています。女性、男性、子ども用など、種類別にきれいに並べられていて見やすく、サイズが心配なときも試着コーナーがあるので安心。この物資受け渡しは、東日本大震災で被災された方すべてが対象。盛岡市近郊に一時避難、移住された方はもちろん、沿岸にお住まいの方でも利用できます。

お茶こ飲み会
ちびっこからお年寄りまで、わいがやがや「お茶こ飲み会」
お茶やおやつと一緒に楽しみ、毎週土曜日の「お茶こ飲み会」。ちびっこからお年寄りまで、みんなでわいわい集まって、日々の暮らしのこと、これからのこと、不安に思うことなど、自由にお話しませんか。被災者の方はもちろん、被災者を支援する方も参加OK。県外からの参加も大歓迎です。
開催日時/毎週土曜日の10時30分~11時30分
※テーマ/11月24日(木)、12月6日(火)「千支の辰」

折り紙サロン
季節感あふれる「折り紙アート」に挑戦!
クリスマスや干支など、折り紙で季節感を味わいませんか?講師の和紙人形作家・丹野恵美子さんは、海外でもワークショップを開催するなど、広く活躍している折り紙のスペシャリスト。和やかな雰囲気、折り紙アートに挑戦しましょう。
開催日時/11月24日(木)、12月6日(火) 13時30分~15時30分
※テーマ/11月24日(木)、12月6日(火)「千支の辰」

みなさん。毎週水曜日に集まり、家で縫ってきたぞうきんを納品しながら、自由に会話を楽しめます。「外に出て誰かと話すという感じが軽くなる」と、みなさん週に一度のこの日を楽しみにしている様子。また、「縫い物に夢中になると、辛い気持ちが紛れる」という声も。将来への不安をかかえ、慣れない土地で生活することは、どうしても気持ちが落ち込んでしまうもの。そんなときは「復興ぞうきん」づくりに参加し、「紡ぎサロン」でその気持ちを共有してみませんか。裁縫が苦手でも、未経験でも大丈夫。スタッフや参加者のみなさんが教えてくれますよ。



もりおか復興支援センター
019-654-3521
●盛岡市内丸3-46 旧農林中央金庫ビル ●開館時間/10:00~19:00
●休館日/月曜日(月曜が祝日の場合は、火曜日休館)、年末年始 ●FAX 019-654-3524 ●アクセス/県庁・市役所バス停下車 徒歩2分 ●駐車場なし

生活支援情報

冬対策は万全に

盛岡市は沿岸地域に比べて雪が積もりやすく、最高気温が零度以下の真冬日も多くあります。冬対策はしっかり行いましょう。

水道管の凍結予防【水抜き】

水抜き栓は冬場の凍結を防止するためのもので、バルブを閉めることにより給水管内の水を抜くことができます。同時に水が止まります。

水抜きをするタイミング

- 朝の気温がマイナスが予想される前夜
- 日中が真冬日のとき
- 正月などで2、3日家を空ける場合

水抜き栓操作方法

- 1 水を抜く時
蛇口を一杯に開け水を出す。水抜き栓のバルブをしっかり閉める
- 2 水を抜いた後
蛇口は開いたままにしておく
- 3 水を使う時
水抜き栓のバルブを一杯に開ける

※詳しい操作方は、盛岡市上下水道局ホームページ (<http://www.morioka-water.jp/general/mizunuki.html>) をご参照ください

雪かき・雪おろし

大雪になると駐車スペースの雪かきや屋根の雪下ろしが必要です。雪かきは、落ちてくる雪や足元に注意して行います。また、道路など通行の邪魔になる場所には捨てず、私有地や集積場所に集めるようにしましょう。



- 道具**
- スコップ
 - 雪はね(雪かきスコップ)

- 服装**
- 長靴 ●上下ヤッケなど濡れないもの
 - 手袋 ●帽子

ポイント

- 積もった雪が重くなる前に、こまめに行う
- 汗をかくことも多いので体が冷えないように注意
- 腰を痛めないように、分けて行う

その他冬対策

クルマのタイヤ交換

気温の低い日の道路は、雪がなくても凍りやすく滑ります。スタッドレスタイヤへの履き替えはお早めに。

防寒対策は万全に

盛岡の冬は、想像以上に冷え込む場合があります。十分な防寒対策が必要です。

被災された方へ

所得税の還付手続きをしよう!

東日本大震災により住宅や家財、自動車などに損害を受けた場合、雑損控除等の適用により平成22年分にさかのぼって、所得税の還付や軽減を受られます。まずはお電話を!

手続きの流れ

- 1 最寄りの税務署に電話
- 2 申告の要否、必要書類の確認等
- 3 税務署等で個別相談、申告書等の提出
- 4 所得税等の還付や軽減

盛岡税務署

019-622-6141 (案内に従い0番を選択)
●盛岡市本町通3丁目8-37
●<http://www.nta.go.jp/sendai/guide/zeimusho/iwate/morioka/index.htm>

こんなときも相談してください!

- 住宅や家財の被害額が分からない
- 震災で必要な書類をなくした
- 自動車が津波で流された など

困ったなと感じたら、まずは相談してみよう!

盛岡市消費生活センター

借金でお悩みではありませんか?
震災によって抱えた多重債務などのご相談もご連絡ください。※相談無料・秘密厳守
019-624-4111
●受付時間/9:00~16:00(休/土日祝)
●住所/盛岡市若町2-29 若町分庁舎2階
●<http://www.city.morioka.iwate.jp/04simin/syohi/epron/>

ゆいっこ

雪かきお手伝いします
内陸部に避難し、除雪作業に慣れていない方のお手伝いをします。
090-9742-2580 (担当:吉田)
●メール/morioka@yuicco.com
●住所/盛岡市本宮5丁目10-20-120
●<http://yuicco.com>

東日本大震災司法書士無料電話相談

各種手続きなどのご相談
ローンの返済や相続の手続きなど、震災によるさまざまな相談に対応。
0120-823-815
●受付時間/月曜~金曜 10:00~13:00
●<http://iwate-shihoshokai.jp>

公益財団法人 岩手県国際交流協会

外国人を対象とした各種相談
各国外国語対応あり、外国人のための相談窓口。ご本人でも知り合いに外国人がいらっしゃる方でも対応。
019-654-8900
●受付時間/9:00~21:30 ※時間帯によっては対応できない言語もあります。
●住所/盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ5F
●<http://iwate-ia.or.jp>(外国人を対象とした各種相談)

東日本大震災 子どもの学び支援ポータルサイト

支援の要請と提案をマッチング
「暖房が必要」など各被災学校からの要望と、各団体が提案する支援を紹介しています。被災地から支援の要請もできます。
080-2071-1688
●受付時間/9:30~19:00(休/土日祝)
●<http://manabishien.mext.go.jp>
●メール/HPのお問い合わせフォームから

震災行政相談専用フリーダイヤル

どこに相談したらいいか迷ったら
地震による被災について「どんな支援策があるの?」「困っていること相談先がわからない」などの相談を受け付けています。
0120-711-815
●受付時間/8:30~17:15(休/土日祝)

法務局 震災相談窓口

登記・会社印鑑などのご相談
不動産や会社、船舶の登記。カードの紛失など法務局交付書類などのご相談に対応。
0120-227-746
●受付時間/8:30~17:15(土日祝/9:00~16:00)
●<http://houmukyoku.moj.go.jp/morioka>

岩手弁護士会東日本大震災電話無料相談

被災者限定 弁護士による無料法律相談
東日本大震災で被災した人の法律相談に、弁護士が無料に対応。(震災関連に限ります)
0120-755-745
●受付時間/13:00~16:00(月曜~土曜)
●http://www32.ocn.ne.jp/iwate_ba

5th Anniversary MOSS創館祭

12 / 9 (fri) ~ 12 / 25 (sun)

information

- ・スタンプラリー
- ・ミュージックライブ
- ・d-torso 展
- ・パーキングチケットバック
- ・各店創館祭企画

and more...



「スペシャル宴会コース」は4000円で飲み放題が時間無制限！
 定番料理からアイデア料理まで、豊富なメニュー数を誇る。特に、ひな鳥を炭火でじっくり焼き上げた「新子焼」は、パリッと仕上がって、4000円コースがお得。

予約10名以上の場合、幹事様1名無料もしくは銘酒1本サービス！「ステッチ見た」で生ビールもしくはチューハイ類1杯無料！



- 宴会プラン**
 お1人様/3,300円〜(ご予約は4名様より)
 ●料理8品一例/新子焼、タラ菊の天ぷら、いかふわたキムチ鍋、牛じゃじゃ焼など
 ●3時間飲み放題付/生ビール、日本酒、焼酎、チューハイ他
- スペシャル宴会プラン**
 お1人様/4,000円〜(ご予約は4名様より)
 ●料理6品一例/新子焼、タラ菊の天ぷら、いかふわたキムチ鍋、牛じゃじゃ焼など
 ●時間無制限飲み放題付/生ビール、日本酒、焼酎、チューハイ他



炭火焼・居酒屋 やまざき
 ●住所/盛岡市中央通1-11-7 笹川ビル1F ●TEL 019-625-7203
 ●営業時間/18:00~朝4:00 ●定休日/日曜 ●席数/44席
 ●個室数/1部屋 ●駐車場/なし



盛岡の地ビール「ベアレン醸造」の直営レストラン。宴会コースはベアレンビールを含むドリンク飲み放題、料理5品付きで3500円から楽しめる。



BEER PUB BAEREN 材木町
 ●住所/盛岡市材木町7-31 ●TEL 019-626-2771
 ●営業時間/17:00~23:00
 ●定休日/火曜
 ●席数/40席 ●駐車場/なし



ベアレン直送樽生ビールの他、世界各国のビールも豊富。「材木町」同様、宴会コースはベアレンビールを含むドリンク飲み放題、料理5品付きで3500円から楽しめます。



BEER PUB BAEREN 中ノ橋
 ●住所/盛岡市中ノ橋通1-1-21 ●TEL 019-651-6555
 ●営業時間/17:00~24:00
 ●定休日/日祝(連休の場合、最終日)
 ●席数/30席 ●駐車場/なし

「ステッチ Vol.2」設置店 おすすめ宴会ガイド

ステッチ編集部からVol.2設置のお願いをいただいた飲食店を紹介。募金箱を置いたり、復興支援に頑張っているお店を掲載しています。飲んで、食べて、楽しんで、そして復興支援にちょっとのお気持ちをくださればうれしいです。みんなで復興を応援しよう！



店内はこだわりの空間創りで様々なパーティーに対応。飲み放題は勿論生ビール込みの料理5品付き(1人3000円から)料理別1500円。貸切もOK。



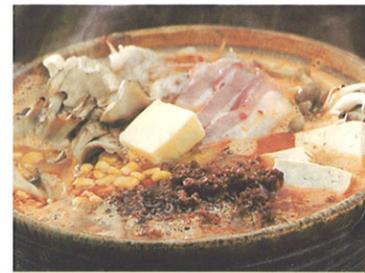
酒shumolekitchen deco [デコ]
 ●住所/盛岡市菜園1-12-16 アーヴァースビルB1F
 ●TEL 019-623-8977
 ●営業時間/18:00~深3:00
 ●定休日/不定
 ●席数/30席
 ●駐車場/なし



旬の県産食材を使い、素材本来の味わいを引き出した料理が楽しめるダイニング。宴会コースは人気の「土鍋ご飯」が付いて1人4000円。



美蘭旬彩匠's [たくみの]
 ●住所/盛岡市大通1-11-4
 ●TEL 019-652-1804
 ●営業時間/18:00~深0:00(23:30L)
 ●定休日/日曜
 ●席数/40席
 ●駐車場/なし



盛岡城跡公園下、教育会館裏の「TEN」。落ち着きある大人の隠れ家として人気のお店。宴会コースは「辛みそ担々鍋」と、「いものこ鍋」の2種類



盛岡城跡公園下、教育会館裏の「TEN」。落ち着きある大人の隠れ家として人気のお店。宴会コースは「辛みそ担々鍋」と、「いものこ鍋」の2種類

お鍋が楽しめるTENの宴会プランは、3,500円コースなら52時間飲み放題付き。4,000円コースではなんと3時間飲み放題付きなので、ゆっくりと厳選されたお酒を楽しむことができます。

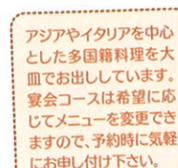
- プラン1**
 お1人様/4,000円 (ご予約は4名様より)
 ●料理9品(お鍋は「辛みそ担々鍋」「いものこ鍋」から選べます。他8品)
 ●3時間飲み放題付/生ビール、日本酒、カクテル、各種
- プラン2**
 お1人様/3,500円 (ご予約は4名様より)
 ●料理8品(お鍋は「辛みそ担々鍋」「いものこ鍋」から選べます。他7品)
 ●2時間飲み放題付/生ビール、日本酒、カクテル、各種



TEN [てん]
 ●住所/盛岡市菜園1-4-1 地下1階
 ●TEL 019-656-9696
 ●営業時間/17:30~翌1:00(深0:00L.O.)
 ●定休日/月曜(連休の場合は最終日)
 ●席数/約40席
 ●駐車場/なし
 ●URL/http://a-iwate.com/shops/32336



酒蔵「あき開」直営の多国籍料理レストラン。宴会プランでは、「スチールピル」や「ホワイトステラ」など、造りたてのクラフトビールを1日1組限定の貸切がおすすめ。



忘年会プラン
 お1人様/3,500円〜(ご予約は4名様より)
 ●料理7品一例/ベトナム風生春巻き、中華風サラダ、フィッシュ&チップス、牛肉のビール煮、カルボナーラ、チーズ入りライスコロッケ、パプリコのスパゲティ、ジュレートの盛合わせ
 ●2時間飲み放題付/クラフトビール、日本酒、ワイン、焼酎、カクテル、ソフトドリンク



多国籍料理 Stella Monte [ステラモンテ]
 ●住所/盛岡市大慈寺町10-34 ●TEL 019-624-7206
 ●営業時間/11:30~15:00(14:00L.O.)、17:30~22:00(21:00L.O.)
 ●定休日/年末年始
 ●席数/80席 ●個室数/1部屋(20~40名)
 ●駐車場/30台
 ●http://asabiraki-net.jp/

お詫びと訂正

Stitch 第2号ページに間違いがございましたことを、謹んでお詫びさせていただくとともに、下記のように訂正をさせていただきます。

訂正箇所

12ページ

「誤」 「大槌高吹奏楽部 金森 元」

「訂正」 「大槌高吹奏楽部 金丸 元」

以上

平成23年 11月25日
もりおか復興支援センター 復興推進広報事業

東日本大震災
復興支援
定期預金

明日の岩手へ！

2011.3.11
震災復興

〈スプレーマム〉花言葉：清らかな愛、逆境の中で元気

みんなでできる津波、震災遺児・孤児の支援。

みなさまの熱い想いを「**いわての学び希望基金**」へ寄付させていただきます

お取扱い期間 平成23年12月1日(木)～平成24年1月31日(火)

平成24年1月31日時点での本定期預金残高の0.05%相当額を、当金庫が「いわての学び希望基金」へ寄付させていただきます。(お客様の負担はございません)

預入期間

1年もの
預入時の店頭表示金利に
年0.10%
上乘せ!
(税引き後年0.08%)

たとえば…

本定期預金に100万円をお預け頂き、店頭表示金利が0.025%の場合、1年間で受け取りになる利息は、

①税引き前のお利息

1,000,000円×(0.025%+0.10%)=1,250円

②税金

{1,250円×15%(国税)} + {1,250円×5%(地方税)}=250円

③税引き後のお利息

1,250円-250円=1,000円

- ◆お預け入れ金額／10万円以上(新規のお預け入れに限ります)
- ◆金利／預入時の店頭表示金利に年0.10%(税引き後年0.08%)上乘せ
- ◆お預け入れ期間／1年・自動継続 ◆対象／個人および法人のお客様

定期預金に関する注意事項

●ご利用いただける方：個人・法人のお客様 ●対象商品：スーパー定期・大口定期※自動継続のみのお取扱いとなります。(満期日までに継続を停止する申出がない場合には、満期日に当初お預け入れ時と同じお預け入れ期間で自動的に書替継続致します。) ●お預け入れ金額：1口座10万円以上※10万円以上の新規お預け入れに限ります。 ●お預け入れ期間：1年 ●適用金利(特別金利)：店頭表示金利+0.10%※当初の1年間のみの適用となり、その後は満期時点における1年ものの定期預金店頭表示金利となります。 ※店頭表示金利については、店頭の金利表示ボードもしくは当金庫ホームページにてご確認ください。 ※中途解約：満期日前に解約された場合は、当金庫所定の中途解約利率が適用されます。 ※満期日以降のお利息は、解約日または書替継続をした日における普通預金利率により計算します。 ●本定期預金は、預金保険制度の対象商品です。 ●金利情勢の変動等により、取扱期間内であってもお取扱いを終了させていただく場合がありますので、お早めにお申込み下さい。



“あなたのそばに もっと身近に”
盛岡信用金庫

http://www.morishin.co.jp/

平成23年12月1日現在

※詳しくは、当金庫本店・支店窓口または渉外係にお気軽におたずね下さい。また、店頭で「説明書」をご用意しております。

※取組：震災復興支援の取り組みとして、被災地支援に貢献し、復興を支援します。 ※掲載されている情報は、平成23年11月10日現在のものです。発行の情報は、変更により、掲載内容が異なる場合があります。 ※このチラシは、印刷物の複製・転載を禁じます。 ※無断転載禁止

三陸の自然と共に生きる里づくり

三陸の自然と共に生きる里づくり

入場無料

12/10 (土) 10:00~17:30
(9:30~受付)

シンポジウム

遠野市民センター大ホール

12/11 (日) 10:00~15:30
(9:30~受付)

分科会

あえりあ遠野交流ホール 他
・映画のみ託児あり(要申込12月7日迄)

午前の部

10:00~12:00

●リレートーク

「震災を超えて海との共存を描く」

首藤伸夫氏 [津波研究]
勝川俊雄氏 [持続可能な漁業]

午後の部

13:00~17:30

●リレートーク

「未来につながる里作り」

系長浩司氏 [まちづくり]
リムキョンス氏 [農村再生]

●被災地からの活動報告

- ①吉里吉里・復活の薪 芳賀正彦氏
- ②共存の森聞き描き 吉野奈保子氏
- ③まごころの郷づくり 伊勢崎克彦氏

●パネルディスカッション

「持続可能な三陸の復興ビジョン」

由井正敏氏 (岩手県立大学名誉教授)
リムキョンス氏 (韓国パーマカルチャーセンター代表)
系長浩司氏 (日本大学教授・世界のエコヴィレッジ研究)
豊重哲郎氏 (柳谷(やねだん)自治公民館長)
勝川俊雄氏 (三重大学水産資源学部准教授)
碓川豊氏 (大槌町長)

●交流会 18:00~

会場: あえりあ遠野 会費3000円
※申込要12月7日迄

午前の部

10:00~12:00

●映画上映「幸せの経済学」

●特別講演
「小さなムラから学ぶ
~持続可能な三陸のまち作り~」
結城登美雄氏 (民俗研究家)

午後の部

13:00~15:30

●分科会

- 第1分科会
「持続可能な暮らし」
結城登美雄 (民俗研究家)
吉野奈保子 (共存の森ネットワーク)
伊勢崎克彦 (まごころの郷づくり)
- 第2分科会
「持続可能なまちづくり」
リムキョンス (韓国パーマカルチャーセンター代表)
系長浩司 (日本大学教授・世界のエコヴィレッジ研究)
芳賀正彦 (吉里吉里・復活の薪)
- 第3分科会
「持続可能な産業」
勝川俊雄 (三重大学水産資源学部准教授)
佐々木明宏 (環境パートナーシップいわて)
田村満 (懐かしい未来創造(株))

●全体会:まとめ

無料送迎バス(申込要12月7日迄) ※復路はフォーラム終了後この逆順となります。

1号車「陸前高田コース」往路	2号車「大船渡コース」往路	3号車「大槌~釜石コース」往路
8:00 モビリアセンターハウス前	8:00 大船渡末崎中学校前	8:00 吉里吉里中学校前
8:10 米崎町コミセン	8:25 リアスホール駐車場	8:10 大槌役場前バス停
8:20 サンビレッジ駐車場	8:35 盛駅前	8:25 鶴住居バス停
8:30 高田市役所バス停	8:45 猪川町長洞仮設団地バス停	8:40 釜石駅前
8:35 竹駒ほっかほっか亭駐車場	9:15 住田町中上仮設団地前	8:55 甲子中学校前バス停
8:45 横田川の駅前駐車場	9:45 遠野市民センター	9:45 遠野市民センター
9:45 遠野市民センター		

お問合せ・申し込み
NPO法人遠野まごころネット
(エコビジョンフォーラム事務局)
TEL&FAX 0198-64-2250(千葉)
E-mail green-eco@isop.ne.jp

この事業は三井物産環境基金の助成をうけて開催します

主催:三陸エコビジョンフォーラム実行委員会 共催(予定):遠野市

後援(予定):岩手県 釜石市 岩泉町 気仙沼市 久慈市 宮古市 大船渡市 大槌町 田野畑村 普代村 野田村 洋野町 陸前高田市 山田町 いわて生活協同組合 岩手日報社 朝日新聞盛岡支局 読売新聞盛岡支局 毎日新聞盛岡支局 日本経済新聞社盛岡支局 河北新報社盛岡支局 盛岡タイムス社 東海新報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ NHK盛岡放送局 エフエム岩手

趣旨

3月11日に発生した東日本大震災から半年以上が経過しました。

この三陸地域の復興を、海外諸国の人が見つめています。私たちは、三陸被災地が、単なる現状復旧ではない、未来を指向した地域社会実現のための復興を目指すべきではないかと考えます。そのために、世界中の叢智を集結させる必要があります。

そこで、三陸被災地が「持続可能な自然と共存する里」として復興するために、国内外の実践者・研究者をお招きし「三陸エコビジョンフォーラム」を開催します。

映画「幸せの経済学」あらすじ

「本当の豊かさとは何か?答えはローカリゼーションにある。」

監督のヘレナ・ノーバグ・ホッジさんは、その解決の糸口として「グローバリゼーション」と対局にある「ローカリゼーション」を提案していきます。地域の力を取り戻すローカリゼーションの促進が、切り離されてしまった人と人、人と自然とのつながりを取り戻し、地域社会の絆を強めていく、と語ります。実際に世界では、「本当の豊かさ」を求め、持続可能で自立した暮らしを目指すコミュニティの構築が広がっています。

行き過ぎたグローバル経済から脱却し、持続可能で幸せな暮らしをどう作っていくべきなのか。そのヒントは日本の伝統文化の中にもあるのではないのでしょうか。彼女は、その気づきを我々に与えてくれるでしょう。

講師プロフィール



首藤 伸夫氏
東北大学名誉教授

津波研究の第一人者と言われる世界的権威。主に、歴史、過去の文献や風俗画の研究に携わる。また、作り上げた数式は世界各国で津波予測に使われている。日本土木学会論文賞、米国土木学会国際海洋工学賞を受賞。
著書●津波の辞典(朝倉書店 編集)
●大地が震え海が怒る—自然災害はなくなるか(テクノライフ選書 共著)など



勝川 俊雄氏
三重大学
生物資源学部准教授

専門是水産資源管理と資源解析。資源管理によって、日本の漁業を持続的な産業に再生するための社会活動を行っている。世界中の漁業の現場を周り、各国の資源管理に精通している。国内きっての漁業改革派の論客。
日本水産学会論文賞、日本水産学会奨励賞を受賞。著書●魚のいない海 (NTT出版 監訳) ●日本の魚は大丈夫か—漁業は三陸から生まれ変わる (NHK出版新書)
●レジームシフト (共著) など



系長 浩司氏
日本大学
生物資源科学部教授

専門分野は、都市計画・農村計画・地域環境計画、景観計画、集落計画、グリーンツーリズム、住民参画の計画づくり手法の開発、農村地域における土地利用計画。今回の原発事故後すぐに放射能の専門家と「飯館村後方支援チーム」を組織。放射能汚染情報発信や子ども達のサマーキャンプなどを実施。村民有志による「負けねど飯館」と協働した支援活動を実施。著書●地域のデザイン(明文書房) ●景観づくりむらづくり(ぎょうせい) など



リム キョンス氏
韓国パーマカルチャー
センター代表

社会貢献型企業「E-jang」の創設者であり、最高経営責任者。地方自治体からコミュニティづくりに関するコンサルティング依頼を多く受けている。エコビレッジ事例「ムンダン村」にて、学校・農場・カフェ・コブ・信用金庫・擁護施設などを巻き込んだコミュニティ開発事業を手がける。「実体験なしに真のコンサルティングはできない」との考えから、現在社員と共にエコビレッジへの移住を計画中。



豊重 哲郎氏
柳谷(やねだん)
自治公民館長

村づくりの達人として、行政に頼り過ぎない「むら」おこし実践家。独自の商品開発、国際交流、やさしい環境整備、青少年育成、お年寄りの知恵の活用など、様々な活動で地域づくりを行う。自分たちの周りの問題を自分たちで解決していくことで、暮らしが良くなり、利益も生まれ、感動を生み、次の活動へとつながる。集落の宝は人。人を動かすのは感動。という取り組みが高く評価されている。日本計画行政学会最優秀賞、農水省地域再生特別賞受賞。



結城 登美雄氏
民俗研究家

北と南、海と里の産物の物々交換や縁故生産方式の実践など、東京に頼らない地域のあり方をめざし、人と人、地域と地域を結ぼうと全国に活動を広げている。「地元学」の提唱や「食の文化祭」などさまざまな地域づくりの活動に対し、98年「NHK東北ふるさと賞」2005年文部科学省「芸術選奨芸術振興部門」賞受賞。著書●山に暮らす海に生きる—東北むら紀行(無明舎出版) ●東北を歩く—小さな村の希望を旅する(新宿書房) など

三陸エコビジョンフォーラム実行委員会参加団体(50音順)

岩手いい川づくり研究会 岩手県自然保護団体協議会 岩手・木質バイオマス研究会 NPO法人環境パートナーシップいわて NPO法人わが流域環境ネット EPO東北 カタクリの会 自然環境復元学会 自然農園ウレシバモシリ NPO法人遠野まごころネット (社)東北地域環境計画研究会 JANIC 認定NPO法人自然環境復元協会 花巻のブナの原生林に守られる市民の会 早池峰の自然を考える会 Moonbow ゆいっこ花巻支部